

令和3年度

富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価
学校第三者評価

令和4年8月

富良野市教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	
1、	教育委員会事務事業点検・評価	1
2、	学校評価	1
3、	点検・評価の手法及び公表	1
II	教育委員会の活動点検・評価	
1、	教育委員会の活動の一覧	5
2、	教育委員会議	10
3、	教育委員会活動の評価	10
III	令和3年度教育委員会事務事業点検・評価	
○	事務事業点検・評価結果一覧	12
○	教育委員会行政組織図	14
○	学校教育課所管事務事業点検評価シート	15
○	社会教育課所管事務事業点検評価シート	36
○	こども未来課所管事務事業点検評価シート	48
○	虹いろ保育所所管事務事業点検評価シート	52
○	生涯学習センター所管事務事業点検評価シート	54
○	図書館所管事務事業点検評価シート	58
○	富良野学校給食センター所管事務事業点検評価シート	62
IV	令和3年度学校第三者評価	68
V	教育行政評価委員会の開催について	
1、	教育行政評価委員会	80
2、	教育行政評価委員会における意見	81
資料1	富良野市教育行政評価委員会設置要綱	85
資料2	教育行政評価委員名簿	86
資料3	地方教育行政の組織及び運営に関する法律	86
資料4	令和3年度富良野市教育推進計画	87

I 点検・評価の概要

1、教育委員会事務事業点検・評価

富良野市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り市民への説明責任を果たすことを目的として、平成20年度より実施し、今年度も、令和3年度の教育に関する事務の管理及び執行状況として52事業に対する点検・評価を実施しました。

2、学校評価

学校評価については、平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者（市教育委員会）への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成19年度から試行的に学校評価に取り組み、平成20年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成20年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価を行うため、令和3年度評価においては評価項目16項目、25観点について教育行政評価委員会において実施しました。

3、点検・評価の手法及び公表

1) 教育委員会事務事業点検・評価報告

令和3年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行い、その結果を教育行政評価委員会において説明し、各委員より意見をいただきました。

①達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのかを評価する。

<評価基準>

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する、又は評価できず。

②効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

<評価基準>

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される、又は評価できず。

2) 学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」をめざして行っています。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、平成23年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった16項目25観点について各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を実施いたしました。

3) 公表

公表は議会、市ホームページ等に掲載するとともに、市の主な公共施設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

4) 評価結果

令和3年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準A～Dの4段階で集計を行いました。

◎事務事業評価

第1表 事務事業評価【達成度】

	A	B	C	D	計
件数	34	17	0	1	52事業
構成比(%)	65.4	32.7	0	1.9	100%

評価基準 A：実践が進み成果を上げている。

B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D：努力を要する。又は、評価できず。

第2表 事務事業評価【効果度】

	A	B	C	D	計
件数	51	0	0	1	52事業
構成比(%)	98.1	0	0	1.9	100%

評価基準 A：期待どおりの効果が得られたと判断される。

B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。又は、評価できず。



第1回評価委員会議
(令和4年5月20日)



第2回評価委員会議
樹海学校訪問
(令和4年7月5日)



第2回評価委員会議
樹海学校訪問
(令和4年7月5日)



第2回評価委員会議
富良野小学校訪問
(令和4年7月5日)



第3回評価委員会議
校長会との意見交換
(令和4年7月19日)

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

令和3年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会独自による点検を行いました。

1、教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、毎月定例会を、必要に応じ臨時会を開催しました。また、毎月1回教育委員協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、報道機関への案内をするとともに、市ホームページに会議の内容等を掲載しています。

以下、令和3年度の会議開催状況等を示し、それぞれの活動内容について報告します。

1) 令和3年度教育委員会会議実施状況

(1) 開催回数

定例会：12回（毎月）

臨時会：1回（随時）

委員協議会：12回（毎月）

(2) 付議件数

条例、規則等に関する事 8件

（議会の議決を経るべき議案に関する事 3件）

人事に関する事 2件

委員の委嘱等に関する事 21件

その他の他 16件

2) 教育委員会議の開催状況

回	開催日	開催内容
第4回 定例会	4月 26日	(1) 令和3年度富良野市育英基金育英生の選考について (2) コミュニティ・スクール協議会委員の任命について (3) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について (4) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について (5) 富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について (6) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について (7) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について (8) 富良野市社会教育委員の委嘱について (9) 富良野市教育委員会職員等の人事異動報告（専決処分）について
第5回 定例会	5月 20日	(1) 富良野市布礼別小学校の廃止について (2) 富良野市地域学校協働活動推進委員の委嘱について (3) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について (4) 富良野市子ども子育て会議委員の委嘱について (5) 富良野市文化財保護審議会委員の委嘱について

II 教育委員会の活動状況

第6回 定例会	6月 24日	(1) 富良野市学校教育の情報化推進計画の策定について (2) 富良野市教育委員会事務局庶務既定の一部改正について (3) 令和3年度富良野市一般会計補正予算の報告（専決処分）について
第7回 定例会	7月 15日	(1) コミュニティ・スクール協議会委員の任命について
第8回 定例会	8月 23日	(1) 富良野市家庭的保育事業等の設備及び運営の基準に関する条例の一部改正について (2) 富良野市特定教育・保育施設及び地域型保育事業の運営の基準に関する条例の一部改正について (3) 令和2年度富良野市教育行政評価報告書について
第9回 定例会	9月 28日	(1) 令和3年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」について (2) 令和3年度就学時健康診断員の委嘱について (3) コミュニティ・スクール協議会委員の任命について (4) 令和3年度一般会計予算の補正報告（専決処分）について
第10回 定例会	10月 21日	(1) 令和3年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
第11回 定例会	11月 25日	(1) 富良野市いじめ ZERO 推進基本方針の改訂について (2) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について (3) 富良野市市立保育所苦情処理対策実施における第三者委員の委嘱について
第12回 定例会	12月 20日	(1) 令和3年度全国学力・運動能力、運動習慣調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (2) 令和3年度富良野市一般会計予算の補正報告（専決処分）について (3) 令和3年度富良野市一般会計予算の補正追加報告（専決処分）について
第1回 定例会	1月 24日	(1) 富良野市立学校設置条例の一部改正について (2) 学校における食物アレルギー対応指針の改訂について
第2回 定例会	2月 21日	(1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の公表について (2) 第2次富良野市子どもたちのための食育ガイドラインの策定について
第1回 臨時会	3月 3日	(1) 教職員人事の内申について
第3回 定例会	3月 22日	(1) 富良野市小中学校通学区域規則の一部改正について (2) 外国語指導助手就業規則の一部改正について (3) 令和4年度富良野市スクールカウンセラーの委嘱について (4) 令和4年度富良野市子どもと親の相談員の委嘱について (5) 令和4年度富良野市学校医等の委嘱について (6) 富良野市児童扶養手当障害認定医の委嘱について (7) 令和4年度富良野市立保育所における嘱託医の委嘱について (8) 修学旅行の引率業務等に従事する富良野市立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部改正について (9) 令和3年度富良野市一般会計予算の補正報告（専決処分）について (10) 令和4年度富良野市一般会計当初予算の報告（専決処分）について

3) 教育委員会委員協議会の開催状況

回	開催日	開催内容
第4回協議会	4月26日	協議(1)令和3年度富良野市育英基金育英生の選考について 協議(2)コミュニティ・スクール協議会委員の任命について 協議(3)富良野市教育行政評価委員の委嘱について 協議(4)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議(5)富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について 協議(6)富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について 協議(7)富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放報管理指導員の委嘱について 協議(8)富良野市社会教育委員の委嘱について 協議(9)富良野市教育委員会職員等の人事異動報告(専決処分)について 報告(1)令和3年度学級編成及び学校職員について 報告(2)へき地保育所の運営方法の一部変更について 報告(3)教育委員会だより第8号について 報告(4)布礼別小学校未来を考える会意見書について
第5回協議会	5月20日	協議(1)富良野市立布礼別小学校の廃止について 協議(2)富良野市地域学校協働活動推進委員の委嘱について 協議(3)富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 協議(4)富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について 協議(5)富良野市文化財保護審議会委員の委嘱について 協議(6)富良野市社会教育委員の委嘱について
第6回協議会	6月24日	協議(1)富良野市学校教育の情報化推進計画の策定について 協議(2)富良野市教育委員会事務局庶務規程の一部改正について 協議(6)令和3年度富良野市一般会計予算の補正報告(専決処分)について 報告(1)富良野市議会第2回定例会について
第7回協議会	7月15日	協議(1)コミュニティ・スクール協議会委員の任命について 報告(1)令和3年度いじめの把握のためのアンケート調査結果について 報告(2)上川南部地区中体連大会結果について 報告(3)教育委員会だよりN09について
第8回協議会	8月23日	協議(1)富良野市家庭的保育事業等の設備及び運営の基準に関する条例の一部改正について 協議(2)富良野市特定教育・保育施設及び地域型保育事業の運営の基準に関する条例の一部改正について 協議(3)令和2年度富良野市教育行政評価報告書について
第9回協議会	9月28日	協議(1)令和3年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告」への市町村別結果の掲載について 協議(2)令和3年度就学時健康診断員の委嘱について 協議(3)コミュニティ・スクール協議会委員の任命について 協議(4)令和3年度一般会計予算の補正報告(専決処分)について

II 教育委員会の活動状況

		報告(1)富良野市議会第3回定例会について 報告(2)令和3年度全国学力・学習状況調査結果について 報告(3)令和2年度保育所自己評価について
第10回 協議会	10月 21日	協議(1)令和3年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
第11回協 議会	11月 25日	協議(1)富良野市いじめZERO推進基本方針の改訂について 協議(2)富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について 協議(3)富良野市立保育所苦情処理対策実施における第三者委員の委嘱につ いて 報告(1)学校の内部情報漏洩について 報告(2)図書館の社会教育施設としての在り方(答申)について 報告(3)富良野市内高等学校教育のあり方検討会議からの意見書について
第12回 協議会	12月 20日	協議(1)令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告」 への市町村別結果の掲載について 協議(2)令和3年度富良野市一般会計予算の補正報告(専決処分)について 協議(3)令和3年度富良野市一般会計予算の補正追加報告(専決処分)につ いて 報告(1)富良野市議会第4回定例会について 報告(2)令和3年度いじめの把握のためのアンケート調査結果(第2回) 報告(3)令和3年度富良野市いじめZEROメッセージコンクールの審査結果に ついて
第1回 協議会	1月 24日	協議(1)富良野市立学校設条例の一部改正について 協議(2)学校における食物アレルギー対応指針のについて 協議(3)富良野市立学校職員服務規程の一部改正について 報告(1)富良野市教育委員会だよりNO10について
第2回 協議会	2月 21日	協議(1)令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の公表について 協議(2)第2次富良野市子どものための食育ガイドラインの策定について 報告(1)イングリッシュキャンプ実施報告について 報告(2)成人式の名称変更について 報告(3)山部保育所の延長保育の通年化について
第3回 協議会	3月 22日	協議(1)富良野市小中学校通学区域規則の一部改正について 協議(2)外国語指導助手就業規則の一部改正について 協議(3)令和4年度富良野市スクールカウンセラーの委嘱について 協議(4)令和4年度富良野市子どもと親の相談員の委嘱について 協議(5)令和4年度富良野市学校医等の委嘱について 協議(6)富良野市児童扶養手当障害認定医の委嘱について 協議(7)令和4年度市立保育所における嘱託医の委嘱について 協議(8)修学旅行の引率業務等に従事する富良野市立学校職員の勤務時間の割 振り等に関する要領の一部改正について 協議(9)令和3年度富良野市一般会計予算の補正報告(専決処分)について 協議(8)令和4年度富良野市一般会計当初予算の報告(専決処分)について

	報告(1)第1回富良野市議会定例会について 報告(2)令和4年度区域外通学について
--	--

4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4月2日	・教職員着任式	文化会館
5月11日 5月20日	・令和3年第2回臨時会 ・教育委員学校訪問（富良野小・西中・東小）	市役所議事堂 各小学校
6月10日 6月24日	・令和3年第2回富良野市議会定例会開会 ・教育委員学校訪問（樹海中・樹海小・山部小）	市役所議事堂 各小中学校
7月5日 7月15日	・令和3年第3回臨時議会 ・令和3年度第1回総合教育会議 ・教育委員学校訪問（布部小中・麓郷小中・布礼別小）	市役所議事堂 市役所会議室 各小中学校他
9月7日 9月28日	・令和3年第3回富良野市議会定例会開会 ・教育委員学校訪問（富良野西中・富良野東中・東小）	市役所議事堂 各小中学校
10月27日	・教育委員学校訪問（樹海小・樹海中・扇山小）	各小中学校
11月3日 11月24日 11月30日	・富良野市条列表彰式 ・第14回富良野市子ども未来づくりフォーラム（オンライン） ・令和3年第4回定例会	市役所 図書館 市役所議事堂
12月1日 12月20日	・令和3年第4回富良野市議会定例会 ・令和第2回総合教育会議	市役所議事堂 市役所会議室
1月6日 1月9日	・令和4年富良野市新年交礼会 ・令和3年度富良野市成人式	文化会館 文化会館
2月25日	・令和4年第1回富良野市議会定例会開会	市役所議事堂
3月中旬～ 3月2日 3月25日	・各小中学校卒業式 ・上川南部地区教育委員研修会（オンライン） ・離任式	各小中学校 図書館 図書館

2、教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3) 委員会規則その他委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- (4) 請願、陳情等の処理に関すること。
- (5) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。
- (6) 教科用図書採択に関すること。
- (7) 学校その他教育機関の敷地の選定及び変更に関すること。
- (8) 委員会及び委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (9) 道費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (10) 条例又は委員会規則に基づく委員会表彰の受賞者の決定に関すること。
- (11) 法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱すること。
- (12) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出ること。
- (13) 通学区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (14) 富良野市育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定すること。
- (15) 長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (16) 市文化財を指定し、又は指定を解除すること。
- (17) 児童生徒の出席停止に関すること。

3、教育委員会議の評価

1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の委嘱等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

教育委員会は、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保、教育行政への多様な民意の反映、教育長及び事務局が執行する事務の評価・監視を果たしています。

2) 学校訪問等について

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症感染予防対策をしっかりと取った中で、教育委員と事務局職員により市内14校の小中学校を全て訪問しました。

校長・教頭からの説明及び児童生徒の学習の様子を見学し、子ども達の学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から、コロナ禍の対応を含め学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況についての把握に努めています。

3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の状況及び予防措置の観点から、各学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭などの学校行事には、各委員は欠席しましたが、卒業式においては、年度を締めくくる重要な行事であることから出席しました。

教育委員会が主催する教職員着任式、成人式、離任式等の行事や式等には出席しました。全道、管内、富良野沿線の教育委員研修会については、大半が中止となりましたが、一部オンライン開催の研修もあり参加し、教育に関する情報収集や教育行政の諸課題についての理解を深め、地域の実情や特性に応じた特色ある教育行政の推進に向けて研鑽を図りました。

4) 広報活動

定例会等の審議内容、「教育委員だより」については、市のホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、今後も引き続き広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政の推進を図りました。



Ⅲ 令和3年度教育委員会事務事業点検・評価

◎事務事業点検・評価一覧

所管課	評価項目		細項目	R3年度評価		備考
				達成度	効果度	
学校教育課	1	市立小中学校配置計画	1・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2	全国学力・学習状況調査	2・全国学力・学習状況調査	A	A	
	3	全国体力・運動能力等調査	3・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	A	
	4	心の教育	4・適応指導教室事業	A	A	
			5・スクールカウンセラー活用事業	B	A	
			6・子どもと親の相談員活用事業	B	A	
			7・心に響く道徳教育事業	A	A	
	5	いじめZERO推進	8・富良野市いじめ問題対策連絡協議会	A	A	
	6	特別支援教育	9・特別支援教育支援員配置事業	A	A	
			10・特別支援連携協議会推進事業	B	A	
	7	キャリア教育	11・富良野市キャリア教育推進会議	B	A	
	8	食育	12・食育推進事業	A	A	
	9	情報教育	13・ICT利活用事業	A	A	
	10	国際理解教育	14・外国語指導助手招致事業	A	A	
	11	健康診断事業	15・児童生徒、教職員健康診断実施事業	A	A	
	12	小中学校歯科衛生	16・フッ化物洗口事業	A	A	
	13	高校教育	17・高校教育の推進	A	A	
14	コミュニケーション教育	18・学校教育コミュニケーション教育推進事業	A	A		
15	学校図書館	19・学校図書館利活用事業	A	A		
16	学校運営	20・コミュニティースクール推進事業	A	A		
17	学校施設整備	21・学校施設長寿命化改修事業	A	A		
社会教育課	18	家庭教育	22・家庭教育支援事業	B	A	
			23・親と子のふれあい事業	B	A	
	19	青少年教育	24・子ども未来づくり事業（未来づくりフォーラム）	A	A	
			25・ふらのまちづくり未来ラボ推進事業	B	A	
			26・子ども会育成事業	B	A	
			27・青少年表彰事業	-	-	
			28・青少年補導センター運営事業	B	A	
			29・放課後子ども教室推進事業	B	A	
			30・児童館・学童保育センター運営費	B	A	
	31・地域学校協働活動事業	A	A			
20	成人教育	32・ふらの市民講座事業	B	A		
21	高齢者教育	33・ことぶき大学運営事業	B	A		

Ⅲ 令和3年度教育委員会事務事業点検・評価

所管課	評価項目		細項目	R3年度評価		備考	
				達成度	効果度		
こども未来課	22	子育て支援	34	・ファミリーサポートセンター事業	B	A	
			35	・子育て支援センター運営費	A	A	
			36	・こども通園センター運営費	B	A	
			37	・へき地保育所運営費	B	A	
保虹育い所	23	虹いろ保育所	38	・認可保育所運営費	A	A	
			39	・特別支援保育事業費（障がい児保育事業費）	A	A	
生涯学習課	24	文化財保護	40	・文化財保護啓蒙・普及活動	A	A	
	25	博物館	41	・博物館活動推進事業	A	A	
			42	・自然体験・環境学習事業	A	A	
26	森林環境教育	43	・森林学習プログラム推進事業	A	A		
図書館	27	図書館	44	・図書館運営管理事業	A	A	
			45	・図書資料整備事業	A	A	
			46	・読書活動推進事業	B	A	
			47	・子どもの読書推進事業	A	A	
給食センター	28	富良野学校給食センター	48	・安全安心な学校給食の提供	A	A	
			49	・「富良野ふるさと給食」の実施	A	A	
			50	・食に関する指導の推進	A	A	
			51	・学校給食費の徴収	A	A	
			52	・食物アレルギーの対応	A	A	
評価結果：集計				A（実践が進み成果を上げている）	34	51	
				B（実践が進んでいる）	17	0	
				C（実践に努めているが、達成度は低いと判断される）	0	0	
				D（努力を要するor評価せず）	1	1	
				計	52	52	

①達成度の評価基準

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する又は、評価せず。

②効果度の評価基準

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される又は、評価せず。

富良野市教育委員会行政組織図

令和3年4月1日現在



富良野広域連合教育委員会行政組織図

令和3年4月1日現在



令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	市立小中学校配置計画	担当課	学校教育課				
事務事業名	適正規模適正配置に関する指針						
事業の目的・概要	少子化による児童生徒数の減少が進む中、子ども達にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、又、公平性を保ちながら次代を担う子ども達が常に良好な教育環境を確保していくための方向性を示す。	事業年度	開始		終了		
			初回平成17～19年度 平成21年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			—	—	—	—	—
前年度の課題	○現行の改正指針を、これまでの保護者や地域との協議を踏まえ、課題を整理しながら、より良い方向に見直しを図る必要がある。						
当該年度の目標	○今後の児童生徒数の推移やPTA、地域の意向を十分に踏まえ、「市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する改正指針」の内容の見直しを図っていく。						
事業の実施状況	<p>○樹海地区では、小学校・中学校の閉校及び樹海学校（義務教育学校）開校に向け事業実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹海義務教育学校設立等準備協議会（R3年度：書面・オンライン会議含め5回開催） ・小中教員による乗り入れ授業実施 ・樹海学校の校章、校歌決定 ・11月14日 樹海小学校・樹海中学校閉校式 <p>○布礼別小学校では、令和3年4月16日「布礼別小学校の未来を考える会」より市長並びに教育長に対し、令和5年3月31日をもって閉校し東小学校と統合する要望書が提出され、令和3年5月20日開催の教育委員会で、布礼別小学校の廃止を決定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月5日 閉校に係る保護者説明会開催 ・閉校事業準備委員会、閉校事業協賛会開催（計5回） ・12月14日 東小学校との交流学習の実施 <p>○布部小中学校は、令和3年4月1日より特認校として児童生徒の受け入れ開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度就学者 2名 令和4年度新規就学者 1名 						
評価			H29	H30	R1	R2	R3
	達成度	A	A	A	A	A	達成度・効果度の検証 ○学校の廃止・統合に向け、保護者や地域住民と情報共有を図り、円滑に協議及び関連事業を進めることができた。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題						
	○目まぐるしく変化する社会情勢を見据え、制度改正や保護者の要望、地域の状況を踏まえながら課題を整理し、現行の改正指針の内容の見直しを図る必要がある。						
	改善策						
今後の取り組み	○地域の現状や将来的な見通しについて、引き続き学校・保護者・地域との意見交換や情報提供を行い、子どもたちにとって良好な教育環境についての検討を図っていく。						
	○社会情勢の変化や制度改正、地域やPTAから要望や現状、課題を整理し、現行の「市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する改正指針」の内容の見直しを行っていく。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国学力・学習状況調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国学力・学習状況調査						
事業の目的・概要	○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ○そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。	事業年度	開始	終了			
			平成19年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			国費	国費	国費	国費	国費
前年度の課題	○「学力向上推進委員会」などを組織し子どもの状況を把握し、指導の改善充実を図る。 ○富良野市学力向上推進プロジェクトが作成した「富良野市における調査結果の概要」を基に取組を行う。 ○N R T標準学力検査、教研式知能検査、hyper-QUの結果を有効的に活用し、児童生徒の学力向上を図る。						
当該年度の目標	○児童生徒の学力向上と学習状況に係る調査において、各教科の平均正答率が全国平均以上にする。 ○児童生徒の学習習慣等に係る調査において、各質問項目で肯定的に回答した児童生徒の割合が前年度以上にする。						
事業の実施状況	○実施日 令和3年5月27日(木) ○調査対象及び調査された人数 小学校第6学年:129名 中学校第3学年:145名 ○実施教科 国語、算数・数学 【R3年度調査結果の概要】 【小学校】 国語は、全国平均正答率を下回った。知識・技能については、全国の平均正答率と同等であり、思考力・判断力・表現力等については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均正答率を下回った。算数は、全国平均正答率を下回った。領域別の問題では、「A 数と計算」「C 測定」「D データの活用」の領域で全国平均正答率と同等であり、「B 図形」「C 変化と関係」の領域で全国平均正答率を下回った。 【中学校】 国語は、全国平均正答率と同等だった。領域別の問題では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均正答率を上回り、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国平均正答率が同等だった。数学は、全国平均正答率を下回った。領域別の問題では、「図形」「資料の活用」の領域は全国平均正答率と同等であり、「数と式」「関数」の領域は全国平均正答率を下回った。						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	B	A	
	効果度	A	A	A	B	A	○自校採点による調査結果から早期に実態を把握し、分析をもとに新学習指導要領の趣旨に基づく授業改善を組織的・計画的に進めていること、学習評価に係る研修、小中連携の取組の充実、キャリア教育の推進、小規模校における特色ある教育活動の充実、教職員の加配、特別支援教育支援員の配置、学習サポートの実施、ICT(電子黒板・実物投影機・タブレット・デジタル教科書等)を活用した授業の充実が推進する。
今後組の	今後の課題						
	○令和の日本型学校教育の構築をめざし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善と家庭学習を含めた望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。 ○各教科において達成率の低い領域を中心に、各学校において「個別最適化された学び」及び「協働的な学び」の実現に向けての授業改善及び単元を見通した指導と評価の一体化を図り、教育課程の見直しに全力を挙げて取り組む。						
	改善策						
取組	○学校全体で学力向上に向けた取組を組織的に推進するため「学力向上推進委員会」等を組織し、児童生徒の学力、学習状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図るとともに、ICT端末を効果的に活用し、個別最適化された学びと協働的な学びを実現する。 ○富良野市PTA連合会、富良野市校長会、及び富良野市教育委員会で構成する富良野市学力向上推進プロジェクトが調査結果を分析し作成した「富良野市における調査結果の概要」及び保護者向けリーフレットを基に家庭との連携、生活習慣の確立などに取り組む。 ○学力の経年変化についてはN R T標準学力検査を実施し、個々の児童生徒の学習履歴等について検証改善サイクルを機能させ、個に応じた指導を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図るとともに子ども同士で多様な他者と協働しながら、より良い学を生み出す学習の充実を図る。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査						
事業の目的・概要	○子どもの体力・運動能力等の状況に鑑み、全国的な子どもの体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力や運動習慣等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。 ○各学校が児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。	事業年度	開始	終了			
			平成19年度	継続			
事業費(決算)(単位:千円)		事業費(決算)(単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			国費	国費	国費	国費	国費
前年度の課題	○各学校において全学年で新体力テストを実施することで、個々の児童生徒のデータが蓄積されており、そのデータを分析し、一人ひとりの体力や運動習慣等の取組の充実を図る必要がある。 ○家庭からの積極的な運動の推進や徒歩での登校など、日常的に運動に接する機会を持つ必要がある。						
当該年度の目標	○児童生徒の体力の向上について調査を行い、全国平均以上を目指す。 ○児童生徒質問紙調査により児童生徒の運動習慣等について把握する。						
事業の実施状況	<p>○実施期間 本調査は4月から7月末実施</p> <p>○実施対象 小学校第5学年児童、中学校第2学年生徒</p> <p>○実施種目 小学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ 中学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ</p> <p>【R3年度調査結果の概要】 児童生徒の体力合計点は、男子が小中学校ともに全国平均をやや下回った。また、女子では小学校で全国平均を上回ったが、中学校では、全国平均を下回った。種目別では、小学校男子は8種目のうち3種目（反復横とび・20mシャトルラン・ソフトボール投げ）で全国平均と同様または上回り、女子は8種目のうち6種目（握力・上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅とび・ソフトボール投げ）で全国平均を上回った。一方、中学校では男子が8種目のうち5種目（握力・上体起こし・反復横とび・立ち幅とび・ハンドボール投げ）で全国平均を上回り、女子は全種目で全国平均を下回った。 児童生徒質問紙調査の結果、体力合計点が高い児童生徒ほど生活習慣が規則正しく身に付いていること、児童生徒の運動やスポーツに対する意識が高いほど体力合計点が高い結果となり、その関連が明らかとなった。</p>						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○目的や場面に応じたICTの効果的な活用をすることで児童生徒は目標の達成状況や自分の課題に気づき、解決に向けて主体的・対話的で深い学びを実現する。 ○運動量等を視覚化する取組や誰でも楽しめる取組など実践事例を参考に工夫する。 ○項目別得点表を活用した個人目標を設定し、発達の段階に応じた目標をもたせ、体育及び保健体育の授業を通して達成を目指していく。
	達成度	A	A	A	B	A	
	効果度	A	A	A	B	A	
今後取組の	今後の課題 ○新体力テストの分析を基に各学年で課題となっている体力の向上を図るため、学校や家庭で取り組むことのできる取組を推進する。 ○コロナの影響による児童生徒の運動やスポーツをする時間の変化について分析し、学校における効果の充実を図る。 ○取組事例校の概要を共有し、授業外の時間の充実やICT端末の効果的な活用や事例について情報提供する。						
	改善策 ○感染対策を十分講じながら、分析結果を踏まえた授業改善を進めるとともに、1校1実践や家庭・地域と連携した体力向上の取組を充実させ、児童生徒の体力の保持・向上に努める。 ○「早寝・早起き・朝ご飯、みんなそろって晩ごはん」運動や保護者向けリーフレット「家庭で学力を育てる9つのポイント」を活用し、規則正しい生活習慣と食習慣、スクリーンタイムの制限による体力向上を推進する。 ○新体力テストを全学年での実施し、児童生徒一人ひとりの数値目標を設定するなど、体力テストの結果を活用した意欲的な体力向上を図る。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	適応指導教室事業						
事業の目的・概要	<p>○不登校及びその傾向にある児童生徒に対し、保護者・学校・関係機関等との連携のもと、学校への復帰や社会的な自立に向け、基本的生活習慣の改善や豊かな情操・社会性の育成を図る。</p> <p>○不登校児童生徒や不登校児童生徒を抱える保護者の悩みや思いを受け止め、信頼関係の構築を図るとともに、学習支援をはじめ、自己肯定感や自己有用感の育成を意識した取組の充実に努め、ひきこもりや不登校問題の解決を目指す。</p>	事業年度	開始	終了			
			平成15年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			2,676	2,676	2,676	2,676	2,676
前年度の課題	<p>○適応指導教室に通室している児童生徒の抱える課題や問題の解決に向け、在籍校やスクールカウンセラー等との連携を強化していくとともに、保護者に対する支援や指導の充実に努める必要がある。</p> <p>○適応指導教室の取組等について、学校や保護者をはじめ広く地域に周知する必要がある。</p> <p>○令和元年度よりNPO法人との協定により、学習サポート事業を実施しており、その事業効果の検証を行う必要がある。</p>						
当該年度の目標	<p>○家庭・学校・スクールカウンセラーをはじめとする関係機関等との連携強化を図り、相談・支援・指導の充実に努める。</p> <p>○適応指導教室の取組等について、教職員に理解を深めてもらうとともに、適応指導教室に係るパンフレット等を各家庭に配布するなどして保護者への周知を図る。</p> <p>○学習サポート事業の効果の検証を行うとともに、事業の改善・継続等について検討する。</p>						
事業の実施状況	<p>○不登校児童生徒や不登校児童生徒を抱える保護者に対する教育相談の実施。</p> <p>○通室児童生徒に対する学習活動の支援や制作活動・ゲーム・軽スポーツ等の体験活動の実施。</p> <p>○通室児童生徒の実情を考慮した予約制による時間設定や個別指導など、等弾力的な取組の推進。</p> <p>○保護者、学校、スクールカウンセラーなど関係機関との連携、情報交換、情報共有。</p> <p>○きめ細やかな支援や指導ができる体制の構築を目指し、平成30年度から教員免許所有者を指導員として採用。</p> <p>○NPO法人との協定による学習サポート事業については、コロナ禍の中、その実施を保留。</p> <p>○通室児童生徒の心身の健康等に配慮した教室環境の整備及びコロナ感染予防の徹底。</p> <p>○入室児童生徒：小学生・・・1名 中学生・・・9名</p> <p>○令和3年7月から毎週木曜日に希望者参加型のグループ活動「グループワークの日」を開催。計24回企画。参加者延べ14名</p>						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
今後の取組み	今後の課題						
	<p>○適応指導教室に通室している児童生徒の抱える課題や問題の解決に向け、保護者・学校・関係機関等とのより一層の連携強化を図り、相談・支援・指導の充実に努める必要がある。</p> <p>○適応指導教室の取組等について、教職員の認知度を高め、保護者への周知を図る必要がある。</p> <p>○児童生徒や保護者からの多様な教育的ニーズに対応できるよう、児童生徒の実情を考慮した時間設定や個別指導等、弾力的な取組のより一層の推進を図るとともに、ICT機器の活用等について検討する必要がある。</p>						
	改善策						
	<p>○相談員として臨床心理士を新たに加え、相談体制の充実に努めるとともに児童生徒のストレス対処方法の指導や、教職員のカウンセリング能力の向上のための研修の機会を設ける。</p> <p>○保護者・学校・関係機関等との積極的な情報交換に努めるなど連携を強化し、通室児童生徒や家庭との信頼関係を構築するとともに、通室児童生徒及び保護者への支援や指導の充実に努める。</p> <p>○校長会や教頭会、学校教育課主幹の学校教育指導等の機会を活用し、教職員への周知を図るとともに、適応指導教室に係るパンフレット等を各家庭に配布するなど、周知の手段や方法を工夫する。</p> <p>○自宅近くでの出張開設や通室時間帯の設定の延長など、適応指導教室の運営等のより一層の弾力化を図るとともに、ICT環境の整備に努める。</p>						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	スクールカウンセラー活用事業						
事業の目的・概要	<p>○生徒の不登校や問題行動等の対応に当たっては、学校におけるカウンセリング等の機能充実を図ることが重要な課題となっている。このため、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し、生徒への心のケアを図る。</p> <p>・生徒へのカウンセリング ・教職者、保護者に対する助言・援助</p> <p>○道教委の派遣事業を申請し、令和元年度は採択。道費予算内で対応出来ない場合は市費で対応。</p>	事業年度	開始	終了			
			平成17年度		継続		
事業費(決算) (単位:千円)		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			道費 一部市費 245	道費 一部市費 70	道費 一部市費 155	道費 一部市費 180	道費 一部市費 160
前年度の課題	<p>○各学校では教育相談の充実を図っているが、思春期の子どもたちの心の成長過程における悩みや不安を抱えることが多く、相談内容も多岐に亘っている。生徒をはじめ、教職員や保護者に対し、適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。</p> <p>○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。</p>						
当該年度の目標	<p>○生徒の不登校、いじめへの対応と心のケア。</p> <p>○家庭・学校・市教委等の関係機関との連携強化を図り、支援の充実に努める。</p>						
事業の実施状況	<p>○生徒へのカウンセリング 延 71件</p> <p>○教職員に対する助言・援助 延 36件</p> <p>○保護者に対する助言・援助 延 54件</p> <p>○R3年度実績 4校(富良野東中学校、富良野西中学校、布部中学校、樹海中学校) (道費・市費) 日数・時間 延べ92日 288時間</p>						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	<p>○生徒・保護者・先生などがカウンセリングを受けたことにより、生徒の心のケア、保護者との相談業務の成果が上がっている。</p> <p>○適応指導教室との連携も図られており、登校に繋がっているケースもある。</p>
今後取り組み	今後の課題						
	<p>○各学校では教育相談の充実を図っているが、思春期の子どもたちが心の成長過程における悩みや不安を抱えることが多く、相談内容も多岐に亘る。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小中学校が臨時休校になった影響からか不登校生徒が増加している。引き続き、生徒をはじめ、教職員や保護者に対し適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。</p> <p>○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を深めていくことが必要である。</p>						
今後取り組み	改善策						
	<p>○スクールカウンセラー、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、相談事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進める。</p>						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	子どもと親の相談員活用事業						
事業の目的・概要	○児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また、学校と保護者・地域のパイプ役として不登校や問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、児童虐待への対応及び小学校における教育相談体制の充実を図るため、相談員を小学校に配置。 ①児童の話し相手・悩み相談 ②その他の学校の教育相談活動の支援	事業年度	開始	終了			
			平成16年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			1,869	1,748	1,702	2,045	2,001
前年度の課題	○問題を抱えている児童や保護者へのきめ細やかな対応と、相談員と関わることのできないケースへのアプローチが必要。 ○配置している学校以外においても要相談ケースが発生しており、個別の対応が必要である。						
当該年度の目標	○いじめ・不登校などの未然防止や早期対応。 ○家庭・学校・市教委等の関係機関との連携強化を図り、支援の充実に努める。						
事業の実施状況	○子どもと親の相談員を小学校に配置（富良野小、扇山小、東小、鳥沼小、山部小、麓郷小） 内 容 ①児童の話し相手・悩み相談 ②家庭・地域と学校の連携の支援 ③その他の学校の教育相談活動の支援 ④中休み・昼休みを中心に来室 来室者 延べ291名（心の相談・学習相談・児童同士の相談など） ※児童198、教員46、保護者47 ○保護者に対する心のケアに関する講話の実施とカウンセリング体制の確立 ○新型コロナウイルスにより、臨時休校における児童生徒の心理的ケアにおける助言						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題 ○問題を抱えている児童や保護者へのきめ細やかな対応と、相談員と関わることのできないケースへのアプローチが必要。 ○カウンセリングが必要な児童の把握と対応が必要となってきた。						
	改 善 策 ○来室児童が多いことは、潜在的なニーズがあると思われることから、担任とは違った側面から児童や保護者との相談の場として、専門的知識を有した者（臨床心理士等）を引き続き配置する。 ○相談員、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、相談事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進める。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	心に響く道徳教育事業						
事業の目的・概要	○自然体験や社会体験、生活体験の不足や人間関係の希薄さなどから規範意識や倫理観、生命を大切にし他人を思いやる心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めるため、地域の人材や多様な専門分野の社会人を外部講師として活用し、道徳の時間等において子どもの心に響く授業を行い、道徳教育の充実を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成19年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			85	85	80	56	70
前年度の課題	○命を大切にすることを育む教育を推進する観点から、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道徳教育の充実。						
当該年度の目標	○富良野市にゆかりのある講師(人材)の確保を行い、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道徳教育を実施する。 ○感染症対策を行い、多くの学校で児童生徒の自己有用感・肯定感や気づきを持てるような講話の実施。						
事業の実施状況	○富良野市にゆかりのある講師による道徳教育(講話)の実施 ・荒木 毅(富良野商工会議所 会頭)実施校1校 「職業感と人間の生き方について」 ・富良野自然塾 中島 吾郎 実施校3校 「持続可能な社会に向けて～SDGsを意識した暮らし方と、その方法～」 ・大橋静琴(静琴書道学院 主宰)実施校1校(オンラインによる講演) 「書を通しての生きざま」 ・松本恵子(助産師)実施校4校 「いのちの誕生と助産師の仕事」 ・富良野協会病院 整形外科 医師 矢倉 幸久 実施校2校 「海外医療ボランティアで出会った子どもたち、そして想うこと」 ・ふらのまちづくり株式会社 代表取締役社長 西本 伸顕 実施校1校 「フラノマルシェとまちづくり」						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○継続して地域人材の確保や感染症対策を行い、児童生徒が自己有用感・肯定感や気づきを持てるような講話の実施。						
	○8名の講師を含め、引き続き、令和4年度の講師の確保を行う。また、学校や講師と確認しオンラインでの開催も検討する。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	いじめZERO推進	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市いじめ問題対策連絡協議会、富良野市いじめ問題審議会						
事業の目的・概要	富良野市いじめZERO推進条例に基づき協議会と審議会を組織し、協議会はいじめの未然防止・早期発見・早期解消、その他いじめの対処を図るとともに不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策について学校やPTA・各関係機関・団体とのネットワーク化を図り、情報交換を行い迅速かつ的確に対応する。 審議会は附属機関として、いじめZEROの推進に関する事項を調査審議する。	事業年度	開始	終了			
			平成26年度		—		
		事業費(決算)(単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			51	53	59	49	40
前年度の課題	○いじめアンケートの結果を検証し、早期発見と迅速な対応につなげるとともに、授業や学級活動において「いじめは絶対に許されない」ことへの理解と一層の意識向上を図る必要がある。 ○いじめに関する講演会等を開催し、いじめZERO及び偏見や差別撤廃に向けた啓発活動を進め、安心安全な学校・地域づくりと人権擁護を推進する必要がある。						
当該年度の目標	○いじめZEROに向けた各種取組とともに、児童生徒へ「いじめは絶対にゆるされない」ことの意識向上を図る。						
事業の実施状況	○いじめ問題対策連絡協議会 市内17の関係機関・関係団体で組織し情報を共有。子どもたちの安全な生活環境の確保に努めている。 ・5月26日 対策連絡協議会開催 ○いじめ問題審議会 いじめ案件の協議及びいじめZERO事業の推進にあたって審議実施 ・5月11日 第1回審議会 ・11月17日 第2回審議会 ○富良野市いじめZEROメッセージコンクール ・応募総数 920点(標語部門:個人903点、団体5点、ポスター部門:個人12点) 優秀作品22作品の表彰と市広報による市民周知 ○道いじめ問題対策連絡協議会主催「絆づくりメッセージコンクール」表彰作品の表彰 ・上川管内入賞:ことば・メッセージ部門6点(最優秀賞3点、奨励賞3点) ポスター・メッセージ部門8点(最優秀賞3点、奨励賞5点) ○いじめ防止・家庭教育研修会の開催 ・11月27日開催 映画「子どもたちをよろしく」上映、鑑賞後グループワーク 参加者 39名 ○富良野市いじめZERO推進基本方針の改定 いじめの重大事態について、組織的かつ速やかに対応できるよう改定						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○認知したいじめ案件についていじめ問題審議会を開催し、状況説明と今後の対応策についての協議に努めた。 ○いじめ防止・家庭教育研修会を開催し、いじめや虐待など子どもたちを取り巻く諸問題について、支援や解決に向け、参加者と熟議を図った。
	達成度	A	A	A	B	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取組み	今後の課題 ○いじめアンケートの結果を検証し、早期発見と迅速な対応につなげるとともに、授業や学級活動において「いじめは絶対に許されない」ことへの理解と、一層の意識向上を図る必要がある。 ○いじめ防止に係る研修会等を開催し、いじめZEROや偏見・差別撤廃に向けた啓発活動を進めるとともに、安心安全な学校・地域づくりと人権擁護を推進する必要がある。						
	改善策 ○「いじめ」に対する児童生徒への働き掛けを全小中学校で実施するとともに、いじめの積極的認知を図り、迅速な対応に努める。 ○いじめ講演会や研修会、絆づくりメッセージコンクールを引き続き実施し、いじめ防止や人権擁護について広く周知を図る。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課					
事務事業名	特別支援教育支援員配置事業							
事業の目的・概要	<p>○特別支援学級の児童生徒だけではなく、通常の学級に在籍する配慮・支援の必要がある児童生徒への教育的対応がより求められている。</p> <p>○このため、富良野市特別支援教育マスタープランに基づき、こうした児童生徒に対する学校生活の介助や学習活動の支援、安全確保などのサポートを行うため、特別支援教育支援員を配置する。</p>	事業年度	開始	終了				
			平成20年度	継続				
事業費(決算) (単位:千円)		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3	
			26,761	27,442	29,606	28,713	30,033	
前年度の課題	<p>○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが大切である。</p> <p>○増加し続ける対象児童生徒のニーズに応じた支援員の配置。</p> <p>○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた支援・指導が必要。</p>							
当該年度の目標	<p>○障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進</p> <p>○各学校において、支援員とコーディネーター、教員とが情報共有ができる体制の整備</p>							
事業の実施状況	<p>○配慮・支援が必要な児童生徒に対して、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うための指導体制を進め、支援員の適正な配置を実施した。</p> <p>配置支援員 富良野小8名、扇山小5名、東小6名、山部小1名、鳥沼小1名 東中2名、西中2名の計25名 (令和2年度 25名、令和元年度 28名) 対象児童生徒 315名(令和2年度 298名、令和元年度 259名) (R3年度特別支援教育体制整備に関する調査「通常の学級に在籍する児童生徒のうち、校内委員会において特別な教育的支援を必要と判断した児童生徒161名+特別支援学級児童生徒154名)</p> <p>○特別支援教育支援員研修会の実施 ・支援員研修会(実践報告及び交流) 令和3年8月開催 18名参加</p>							
評価			H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○各学校のコーディネーターとの関わり、担任との情報共有において課題のある学校も若干みられるが、年々改善しながら、児童生徒の教育的ニーズに合わせた適切な支援に取り組むことができてきている。 ○低学年に手厚く対応することにより、就学後の不安解消につなげてきている。	
今後の取り組み	<p>今 後 の 課 題</p> <p>○保護者が安心して就学を迎えられるよう、引き続き支援体制を確保していく必要がある。</p> <p>○対象児童生徒のニーズに応じた支援員の配置。</p> <p>○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた支援・指導が必要。</p> <p>○支援の充実を図るために支援員の研修機会を確保する必要がある。</p>							
	<p>改 善 策</p> <p>○研修・講習会を行い、配慮・支援が必要な児童生徒への適切な支援を行えるよう、さらなるスキルアップに努める。</p> <p>○各学校で行われている支援の方法やコーディネーター、教員との情報共有の方法などを全校で共有するとともに、各学校が抱える課題を連携協議会で共有し、関係機関との連携と課題解決ができる環境の整備。</p> <p>○対象児童生徒に合わせた支援員の適正な配置。</p>							

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課					
事務事業名	特別支援連携協議会推進事業							
事業の目的・概要	○富良野市第4次特別支援教育マスタープランに基づき、すべての幼児・児童・生徒が障がいのあるなしに関わらず、お互いの個性を尊重し合いながら夢と希望を持って心豊かにたくましく育ち合う教育の充実を図るため、関係者による特別支援連携協議会を組織する。 ・心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図る ・協議会に知的部会・情緒部会・言語部会・専門家チーム(就学相談・就学支援)を設置	事業年度	開始	終了				
			平成20年度		継続			
前年度の課題	○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが必要である。 ○学校内でコーディネーター業務、役割等、引き継ぎのさらなる徹底が必要。 ○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○就学時健康診断時の二次検査の検査者の確保及び検査内容の検討。 ○教育相談の担当者を増やし、内容の充実を図ることが必要。	事業費(決算)(単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3	
			488	286	388	191	257	
当該年度の目標	○障がいのあるなしに関わらず、特別な配慮・支援が必要な児童生徒のほか、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育の推進。 ○各関係機関と一貫した連携と共通認識を図り、早期からの支援を行う。 ○児童生徒に対する適切な対応と関係者の十分な連携を図るため、連携協議会組織の構築を図る。							
事業の実施状況	○組織体制の強化(就学相談・就学指導を行う専門家チーム・教育支援委員会及びコーディネーター連絡会の設置) ○医療・福祉等関係機関との連携 ○就学時健康診断(知能検査、ことばの検査)の実施 10月12日、10月19日、10月28日 ○専門家チームによる幼稚園・保育所訪問の実施(年中対象)、発達検査の実施 ○研修会・講演会の実施 ①コーディネーター連絡会(4月23日、12月2日、1月13日、1月24日) 「個別の教育支援計画と指導計画の今後の在り方について」 ②WISC-IV知能検査について(8月3日) 「知能検査の実施及び解釈」 ③美瑛中通級指導教室の視察(11月2日)							
評価			H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○専門家チームでの発達検査や就学相談の実施により、児童生徒の理解と支援内容の充実を図ることができた。 ○教育相談担当者養成集中講座の開催により、教育相談の充実につながった。 ○専門家チームが幼稚園・保育所を訪問し、課題解決に向けて相談することで早期療育へとつなげることができた。 ○個別の教育支援計画と指導計画の様式の統一により、連携強化につなげることができた。
	達成度		B	B	B	B	B	
	効果度		A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題 ○保護者が安心して就学を迎えられるよう、早期からの教育相談等を推進していくことが必要。 ○困り感を抱える児童生徒に対して、教育、福祉、家庭がより連携した支援体制を構築することが必要。 ○学校内でコーディネーター業務、役割等、引き継ぎのさらなる徹底が必要。 ○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。							
	改善策 ○就学相談を含めた相談支援体制のさらなる充実に向け、関係機関と情報共有し児童生徒の把握・理解を図る。 ○特別支援教育に関する研修会を開催し、担当者のスキルアップを図る。 ○教育相談担当者養成集中講座等の活用により、教育相談・就学相談を担当できる人材の増員及びスキルアップを図る。 ○第4次マスタープランを推進していくとともに、個別の教育支援計画と指導計画を活用し、関係機関との連携強化を図る。							

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	キャリア教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市キャリア教育推進会議						
事業の目的・概要	児童生徒が「生きる力」を身に付け、勤労観や職業観及び職業に関する知識・技能等の育成を図る観点から関係機関、団体等が一体となり、協議・連携を推し進める。	事業年度	開始		終了		
			平成17年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			—	—	—	—	—
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○各校のキャリア教育の特色ある取組の情報共有 ○富良野版「小中高一貫ふるさとキャリア教育」事業の検討 ○「マイノート(キャリアパスポート)」の活用方法と小中高間の連携。 						
当該年度の目標	○児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観とともに自己有用感・肯定感の育成を図る。						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験(職場見学)・インターンシップ実施校 小学校9校、中学校3校、高等学校1校 ※感染症拡大防止のため、中学校2校が職業講話に振り替え 高校1校では、地域の30の職種(事業所)から講師を招き職業ガイダンス開催 ○キャリアパスポートの活用、体験的活動及びボランティア活動 小・中学校全校で実施 ○地域人材を活用した職業講話等の実施 全小中学校において、職業観や生き方等に関する講話実施 ○キャリア教育推進会議 3月17日開催(オンライン開催) 市内小中学校、市内高等学校、商工会議所、市P連、富良野市(社会教育課・学校教育課)の出席により、キャリア教育の取組状況や進路状況の報告のほか、子どもたちが将来の夢や目標を持つためにすべきことについて意見交換を実施 						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○各校のキャリア教育の特色ある取組の情報共有 ○キャリアパスポートの活用方法と小中高間の連携。 ○将来への不安を抱く子どもが増えており、進路や職業観等を育成する取組を進める必要がある。 						
今後の取組み	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○富良野市キャリア教育推進会議において学校と事業所間の連携を進めるとともに、目標に向かって道筋を立てる取組を検討し、キャリア教育の充実を図る。 ○キャリアパスポートの効果的な活用を検討し、小中連携・中高連携を進めるとともに、児童生徒の自己有用感の醸成を図る。 						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	食育	担当課	学校教育課				
事務事業名	食育推進事業						
事業の目的・概要	○子どもたちに食の楽しさ・大切さを伝えるために、家庭だけでなく保育所・幼稚園・学校など地域の関係者が連携しながら、食育の重要性について共通の認識を持ち、子どもたちの健やかな心と身体を育てていくことを目的とし、「子どもたちのための食育ガイドライン」を基に食育推進を図る。	事業年度	開始		終了		
			平成20年度		継続		
前年度の課題	○全国・全道平均に比べ、肥満傾向にある子どもの割合が高いことから、健康教育や保健指導を進める必要がある。 ○各校の食育の年間指導計画と運動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証と評価、見直しを行う必要がある。	事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			—	—	—	9,081	—
当該年度の目標	○令和3年度に策定した食育計画（第2次富良野市子どもたちのための食育ガイドライン）に基づき、関係機関と連携しながら食育の取組を推進する。						
事業の実施状況	○栄養教諭 ～ 3名配置 配置校～富良野小学校、東小学校、富良野西中学校 ○栄養教諭による各校での食育指導と啓発活動 ○関係機関で構成した「子どもたちのための食育連携会議」を立ち上げ、第2次富良野市食育ガイドラインを策定						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○令和2年度から新たに栄養教諭1名を東小学校に配置し、3名体制で食育推進を図った。 ○関係機関で構成した「子どもたちのための食育連携会議」を立ち上げ、今後の食育推進の方針となる「第2次富良野市食育ガイドライン」を策定した。
	達成度	A	B	B	B	A	
	効果度	A	B	B	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○全国・全道平均に比べ、肥満傾向にある子どもの割合が高いことから、健康教育や保健指導を進める必要がある。 ○各校の食育の年間指導計画と運動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。						
	改 善 策						
	○健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携し、「食育」を通じた健康管理を行う。 ○学校給食の「食べ残しゼロ運動」や「早寝、早起き、朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動の促進を継続実施する。 ○「第2次富良野市子どもたちのための食育ガイドライン」に基づき、関係機関との議論の場をつくり、食育活動の連携の促進を図る。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	情報教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	ICT利活用事業						
事業の目的・概要	○児童生徒が、情報化やグローバル化などの社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な力を確実に備えることができるよう、情報活用能力を、教科等を超えた全ての学習の基盤として育まれ、活用される資質・能力と位置づけ、教育課程全体を通じて確実に育成するため、ICTの利活用と環境整備の充実を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成21年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			920	2,873	12,066	174,782	28,183
前年度の課題	○各学校及び市教研情報班において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。 ○情報セキュリティの確立に向けて、教職員の意識改革が必要。 ○1人1台端末の整備後の利活用について、さらに調査・研究を進める必要がある。						
当該年度の標目	○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて、ICTを活用した学習活動を実施。 ○家庭でのオンライン学習環境の実現に向けた環境整備を図る。 ○ICT活用推進委員会を立ち上げ、「富良野市学校教育の情報化推進計画」に基づきICT教育の推進及びICT環境の充実を図る。						
事業の実施状況	○ICTを活用した、児童生徒の学習内容の理解向上を図る。 ○緊急時における家庭でのオンライン学習環境を整備。 ○市教委主催の研修会や校内研修等によるICT活用方法の理解及び実践。 ○教育用コンピューター(PC及び周辺機器)の整備。 R3 東小学校 大型電子黒板6台等 山部小学校 大型電子黒板2台等 富良野小学校 大型提示装置(大型スクリーン)を普通教室等に整備 ○富良野市学校教育の情報化推進計画の策定 ○富良野市立学校情報セキュリティポリシーの策定 ○ICT活用推進委員会を計3回開催し、計画の進捗管理や各校の取組を共有。						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○1人1台端末を活用した授業改善の取組が行われ、教科指導の幅が広がり、児童生徒の学習意欲の向上が図られた。 ○電子黒板などICT環境の充実を図った。 ○富良野市立学校情報セキュリティポリシーを策定し、各校において1人1台端末の活用に向けたルールづくりが進められた。 ○教職員向けに情報セキュリティに係る研修会を開催し、情報セキュリティに対する意識の醸成が図られた。
	達成度	B	B	B	B	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今後の課題 ○各学校及び市教研情報班において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。 ○情報セキュリティの確立に向けて、引き続き教職員の意識醸成が必要。 ○1人1台端末の整備後の利活用について、さらに調査・研究を進める必要がある。 ○各校の進捗状況に偏りがないよう、ICT活用推進委員会等で情報共有を図る必要がある。						
	改善策 ○学校における情報セキュリティの確立に向け、研修の機会等を通じて教職員の意識醸成を図る。 ○新学習指導要領で扱う「プログラミング教育」についての調査・研究を行う。 ○「富良野市学校教育の情報化推進計画」に基づき、児童生徒の学習への関心、意欲、理解を高めるために必要な学習プログラムと、学校のICT環境の計画的な整備を図る。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	国際理解教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	外国語指導助手招致事業						
事業の目的・概要	英語に慣れ親しみ日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために、外国語指導助手を小中学校に派遣し、英語力向上を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成7年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
14,517	20,103		21,192	20,996	20,126		
前年度の課題	○児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養うとともに、外国の文化や生活習慣等を学びながら、英語力の向上を図る。 ○新学習指導要領の着実な実施に向け外国語指導力の向上を図る。						
当該年度の目標	○「英語が使えるふらのっ子」を推進する指導体制の充実を図る。 ○小学校教員の英語力・指導力の向上を図る。						
事業の実施状況	○外国語指導助手を4名（JETプログラム3名、独自採用1名）、小学校外国語活動等アドバイザー1名の計5名を配置し、外国語活動や英語教育、総合的な学習時間等に向けて市内小学校及び中学校に派遣している。 ○外国語活動推進委員会を設置し、小中学校教諭、担当教諭と外国語指導助手との連携を図るとともに、「英会話サロン」の開催により教員のスキルアップを図った。 ・英会話サロン 6回開催 ○「英語が使えるふらのっ子」の推進に向けた取組を実施。 ・イングリッシュキャンプの実施・・・令和4年1月15日（市立図書館2階・3階） 参加者：10名						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○外国語活動推進委員会において、推進体制や指導形態について担任教諭とALTとの協議を進め、小中学校の連携を図った。 ○「イングリッシュキャンプ」を実施し、英語に触れる機会を設けることで、英語に対する学習意欲向上につながっている。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○小学校教員の英語力・指導力の更なる向上。 ○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携。 ○「英語が使えるふらのっ子」を推進する指導体制の充実。						
	改 善 策						
○小学校教諭の研修、英会話サロンなどを継続して開催する。 ○小学校において外国語とふれ合う機会を増やすため、「イングリッシュキャンプ」など気軽に英語と係わる環境づくりを行う。 ○「英語が使えるふらのっ子」をめざす観点から、ALTの独自採用を継続するとともに国際自治体協会とも連携しALT人材の充実を図る。							

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	健康診断事業	担当課	学校教育課				
事務事業名	児童生徒、教職員健康診断実施事業						
事業の目的・概要	○健康診断事業の円滑な実施によって、児童生徒、教職員の健康増進を図る。 ○児童生徒の健康診断＝毎学年定期に児童生徒の健康診断を行わなければならない。 （学校保健安全法第13条第1項） ○教職員健康診断＝学校の設置者は毎学年定期に職員の健康診断を行わなければならない。 （同法第15条第1項） ○就学時健康診断＝翌学年から就学させるべき者の健康診断を行わなければならない。 （同法第11条）	事業年度	開始	終了		継続	
			H29	H30	R1	R2	R3
		事業費(決算) (単位:千円)	9,528	9,656	9,687	9,809	9,547
前年度の課題	○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○新型コロナウイルスの影響により、医療機関が教職員健康診断の受け入れが一次停止し、期日を過ぎてからの受診となり、受診期間が課題である。						
当該年度の目標	○児童生徒の健康診断の完全実施。 ○児童生徒の内科健診の欠席者対応について学校医へも協力依頼をする。 ○教職員健康診断の早めの受診を促す。						
事業の実施状況	○児童生徒の健康診断 ・学校保健安全法第13条第1項に基づき実施。 ○教職員健康診断 ・同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ・令和3年度受診状況 対象者161名中 161名受診。 （受診率100%） ・年2回の健診受診案内通知、未受診者に個別に呼びかけ実施。 ○就学時健康診断 ・同法第11条に基づき実施 ・令和3年度 就学時健診受診案内者 136名 ・何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当児童及び保護者への相談・支援を実施している。						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	A	B	B	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題 ○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識向上を図る必要がある。 ○教職員に対し、健康診断の重要性について周知を図る必要がある。						
	改善策 ○児童生徒及び保護者に対して、保健だよりの発行を通じ健康管理の意識向上を促す。 ○教職員健康診断について、受診期間を3ヶ月間から7ヶ月間に延長し受診がしやすいようにする。 ○未受診者に対して受診案内を行うよう、管理職より個別に受診の呼びかけを行う。						

Ⅲ 令和3年度教育委員会事務事業点検・評価

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	小中学校歯科衛生	担当課	学校教育課				
事務事業名	フッ化物洗口事業						
事業の目的・概要	○北海道は、全国に比べて、12歳児におけるむし歯が多い事から「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことに伴い、北海道教育委員会としても幼児・児童生徒の歯・口腔の健康づくり推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導入を支援している。 ○富良野市健康増進計画（第2次）においても歯科健康対策の推進としてフッ化物洗口実施による12歳児1人平均むし歯1.0歯未満が目標を示されたことから、事業実施を行う。	事業年度	開始	終了			
			平成25年度				
事業費(決算) (単位:千円)		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			198	212	443	595	607
前年度の課題	○学校や薬剤師会からの要望を受け、試薬から医薬品「オラブリス洗口用顆粒11%」へ変更することから、学校への情報提供と継続実施を図る。 ○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口だけではなく、歯磨きの習慣を定着させることが必要。						
当該年度の目標	○フッ化物洗口にあたって、引き続き、保護者・学校へ実施内容等の正しい情報の提供を実施し、幅広く周知を図る。						
事業の実施状況	○富良野市においては、全小中学校において希望者のみフッ化物洗口を実施。 ○令和2年度より、学校や薬剤師会からの要望を受け、これまでの試薬から医薬品「オラブリス洗口用顆粒11%」に変更し、洗口液を提供。 ○実施方法について、感染症の飛沫感染防止のため実施する際に場所を分け感染症対策を取りながら実施。 ○小学生は対象者937名に対し実施者数807名・実施率86.1%、中学生は対象者491名に対し実施者数432名・実施率87.9%である。						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	A	○関係機関が一丸となった取組を進めており、高い実施率を上げている。 ○事業効果については、継続して実施することがむし歯予防には有効と考える。北海道教育委員会が作成した「フッ化物洗口の導入手引き」では、フッ化物洗口を実施すと平均で40～80%のむし歯が減るとの紹介があり、フッ化物洗口で得られる効果は長期的に見ることが必要である。
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が重要であり、フッ化物洗口だけではなく、歯磨きの習慣を定着させることが必要。 ○各校フッ化物洗口の実施方法を工夫し、感染症対策に努める。						
今後の取組み	改 善 策						
	○学校や保護者向けにフッ化物洗口の情報提供を行う。 ○養護教諭を中心に、児童生徒の歯・口腔の健康意識を向上させるための生活習慣を身に付けさせる指導を行う。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高校教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	高校教育の推進						
事業の目的・概要	市内中学校と地区高校の相互連携により中高の教育振興と地元の魅力ある高校づくりを図る。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			—	—	—	—	—
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生の状況を踏まえ、各学校の特色を活かした授業交流や学校説明会の実施 ○多様な教育ニーズに合わせた、充実した高校教育環境の確保 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○中高の情報を共有し、今日的な教育課題の解決を図る。 ○富良野地区の望ましい高校教育づくりを推進する。 ○地域や保護者の教育ニーズに対応した高校教育の充実を図る。 						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○富良野市中高等学校経営連絡協議会 市内の中学校及び富良野地区の高等学校が連携し、富良野地区の未来を支えるべき優秀な人材の育成をめざし、年間計画や課題共有、次年度に向けた方向性について協議。 7月7日、12月22日開催 ○学力向上プロジェクトチーム ・プロジェクトチーム会議(11月25日 オンライン開催) ・各中学校において、学校説明会・進路説明会実施(参加校:市内4校) ・中高連携協議会ライングループの運用により、円滑に情報共有が進められた。 ○市内公立高校の在り方の検討 ・市内高校再編プロジェクトチーム会議～教育長・職務代理者・市内高校校長2名で構成 再編校の教育環境整備について検討 ・有識者による市内高校教育のあり方検討会議を6回開催し、学校規模や学科構成等を協議 市内の高校教育環境の整備に関する意見書をまとめ、教育委員会へ提出 ・意見書を基に要望書をまとめ、沿線首長及び教育長へ検討経過を説明し、全町村から了承済 今後、北海道及び北海道教育委員会へ提出予定 						
評価			H29	H30	R1	R2	R3
	達成度		A	A	A	A	A
評価			H29	H30	R1	R2	R3
	効果度		A	A	A	A	A
達成度・効果度の検証							
<ul style="list-style-type: none"> ○市内公立高校を所管する北海道及び道教委に対し、今後の方向性の検討に向けた要望事項の提出に至った。 ○コロナ禍で取組に制限がある中、各中学校で学校説明会や進路説明会を実施するなど、中高の連携が図られた。 							
今後取り組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生の状況を踏まえ、各学校の特色を活かした授業交流や学校説明会の実施 ○地域の実情や多様な教育的ニーズに合わせた高校教育環境の確保 						
今後取り組み	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○授業交流・情報交流の継続により、中高各段階での学力の現状把握と、各段階で必要な基礎学力の分析を進め、中高が連携して学力向上を図る。 ○地元に必要な人材の育成と多様化する教育ニーズに対応できる教育環境確保のため、引き続き支援機関へのサポートを行うとともに、北海道及び道教委に対し要請を行う。 						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	コミュニケーション教育	担当課	学校教育課					
事務事業名	学校教育コミュニケーション教育推進事業							
事業の目的・概要	○演劇的手法等を用いたワークショップを通じて、児童生徒に豊かな想像力や思考能力とともに他者理解、話す・聞くの基本など、「気づき」「きっかけ」を得て、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。	事業年度	開始	終了				
			平成28年度	継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3	
			1,264	1,296	1,304	1,221	1,271	
前年度の課題	○事業の実施について、児童生徒のほか、保護者の参加についても検討する。 ○事業継続により小規模校では、同一児童生徒が繰り返すことになり、様々な導入方法が必要。							
当該年度の目標	○全小中学校において演劇的手法を用いたワークショップを実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。							
事業の実施状況	○ワークショップ等実施状況 実施校 全12校(延べ15回) 参加児童生徒数 428人 ○実施内容 ・表現プログラム ・コミュニケーションスキルトレーニング ・ワークショップ(アプライド・ドラマ) ・お互いの考えを受け入れながら作成するショートストーリー ・学芸会に向けた演劇指導 ・コミュニケーション・プログラム(アイスブレイキング・表現活動) ・レクリエーション・プログラム等 学校と協議し、ニーズに合わせた内容で実施。							
評価			H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○児童生徒(保護者)が体験(プログラム)を通じてコミュニケーションや他者意識について理解することができた。 ○演劇の指導により、コミュニケーション能力や表現力の向上が図られた。また、プロの役者の演劇に対する思いを感じることで、学校祭や演劇祭への取組の姿勢が高められた。
	達成度		A	A	A	A	A	
	効果度		A	A	A	A	A	
今後の取組み	今後の課題 ○事業継続により小規模校では、同一児童生徒が繰り返すことになり、様々な導入方法が必要。 ○感染症予防のため実施人数をクラス単位にするなど工夫が必要。							
	改善策 ○コミュニケーション能力の向上については、各学校とも理解されており、今後も様々なプログラムの継続実施により児童生徒の関心を高める取組が必要。 ○早期に受託者との日程調整を行い、全校においてコミュニケーション教育を実施する。							

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校図書館	担当課	学校教育課				
事務事業名	学校図書館利活用事業						
事業の目的・概要	○学校司書の配置により、主体的・対話的で深い学びの視点から「学び」を効果的に進める基盤としての、学校図書館機能を充実させることで、子どもたちの読書活動推進や情報活用能力の育成を図る。 ○また、不登校生徒が増加傾向にあることから、学校図書館を悩みを抱える子どもの「心の居場所」として、学校内の安心・安全に過ごせる場所としての機能強化を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成30年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
		—	—	7,831	6,605	6,475	
前年度の課題	○家庭や地域との連携等により、読書の習慣付けを図る取組の実施。 ○新学習指導要領の趣旨を踏まえた、これからの学校図書館に求められる役割等についての検討。 ○学校、市立図書館、学校司書との連携強化を図る。 ○学校図書館の標準蔵書数を下回る学校への購入費の財源確保が必要。						
当該年度の目標	○新たに学校司書として業務に就く方のための研修等の計画的な実施。 ○学校、市立図書館、学校司書との連携強化を図る。 ○言語活動の充実を図ることとした新学習指導要領の趣旨を踏まえた、授業等における学校図書館の利活用の促進。						
事業の実施状況	○学校司書の配置校 全小中学校に配置 ・週3回：富良野小、扇山小、東小 ・週2回：麓郷小中、布部小中、鳥沼小、樹海小、山部小、富良野東中、富良野西中 ・週1回：布礼別小、樹海中 ○子どもの読書活動推進事務連携会議を開催 子どもが読書に親しむ環境づくりを推進するため、関係機関の連携体制を強化。これまで定例だった学校司書打合せ会議を市立図書館も含めた「子どもの読書活動推進事務連携会議」に変更 ○研修会の実施 6月9日(水) 上川教育研修センター主催事業 ○学校図書館の整備 ○学校司書業務マニュアルを作成						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○全小中学校に加えて全中学校にも学校司書が配置され、学校図書館の環境整備が進んだ。 ○児童生徒は減少傾向にあるものの図書の出出冊数は微減。中学校のみを抽出すると増加しており、中学校における学校図書館の認知が進んできている。 ○学校図書館の環境整備及び授業支援により、教職員の負担軽減が図られている。 ○学校司書業務マニュアルを作成し、業務の平準化が図られた。
	達成度	—	—	A	A	A	
	効果度	—	—	A	A	A	
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	○家庭や地域との連携等により、読書の習慣付けを図る取組の実施。 ○新学習指導要領の趣旨を踏まえた、これからの学校図書館に求められる役割についての検討。 ○学校、市立図書館、学校司書との連携強化を図る。 ○学校図書館の標準蔵書数を下回る学校への購入費の財源確保が必要。 ○学校司書の入れ替わりがあるので、新たに学校司書として業務に就く方のための研修の機会が必要。						
	改 善 策						
	○学校図書館や学校司書を有効に活用するとともに、学校全体として組織的な取組としての確に対応をしていく。そのために学校司書だけでなく学校の図書担当を含めた会議や研修を実施していく。 ○市立図書館、各種ボランティア、保護者等と連携し、多様な読書活動の一層の普及・定着を図っていく。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校運営	担当課	学校教育課				
事務事業名	コミュニティスクール推進事業						
事業の目的・概要	保護者及び地域住民が学校運営や学校教育活動に参画し連携を深めることにより、学校、保護者、地域との信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善と児童生徒の健全育成に取り組む。	事業年度	開始		終了		
			平成29年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			564	684	690	672	706
前年度の課題	○各協議会の取組について、情報共有が図られる機会の創出が必要。 ○地域とともにある学校づくり実現のための活動の推進。						
当該年度の目標	○コミュニティ・スクール間の情報共有や委員交流のための活動の充実を図る。 ○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との取組の一体化を図る。						
事業の実施状況	○学校運営協議会は、各校とも新型コロナウイルス感染症防止のため、書面会議や委員同士の間隔が保たれる会場を使用するなど工夫を凝らし実施した。 《協議内容》 ・学校経営方針に係る意見交換、承認 ・学校評価の実施 ・学校の課題解決に向けた議論 等 ○富良野市コミュニティ・スクール研修会の開催(6月30日:参加者23名) 教育長より「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」について説明 先進的な取組を行っているCS(樹海・東小)より実践発表 4グループに分かれ、テーマに沿ってワークショップ実施						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	A	B	A	
	効果度	—	—	A	A	A	
今後取り組み	今後の課題						
	○地域とともにある学校づくり実現のため、コミュニティスクールと地域学校協働活動との取組の一体化の推進。 ○学校の課題解決に向け、CS委員が関わりやすい研修会の提供						
今後取り組み	改善策						
	○各協議会の取組等、委員間の情報共有機会の継続。 ○コミュニティスクールと地域学校協働活動との取組の一体化を図る。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課				
事務事業名	学校施設長寿命化改修事業						
事業の目的・概要	学校施設は、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れるように施設環境を維持管理するため、老朽化の進む学校施設の現状と課題を把握し、これまでの対症療法的な事後保全から計画的な予防保全へと維持管理手法を転嫁することで、建物の機能や設備を良好な状態に維持しながら、長寿命化により財政負担の縮減や平準化を図る。	事業年度	開始		終了		
			令和元年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
-	-		3,769	5,610	538,354		
前年度の課題	【新規点検・評価項目】 今後の改修事業に向け、児童生徒及び保護者や学校の意見を取り入れ、多様な学習環境に合わせた改修事業の展開が必要。						
当該年度の目標	○富良野市学校施設長寿命化計画に基づき、樹海義務教育学校の開校に向けた整備完了と富良野小学校の長寿命化改修工事（1期）を行う。						
事業の実施状況	○樹海義務教育学校の開校に向けた、教室棟の増築と施設改修工事を行った。 ○富良野小学校長寿命化改修工事は、事前に予定の改修内容を保護者及び学校から意見集約を行い、実施設計により一期工事を修了した						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	-	-	A	A	A	
	効果度	-	-	A	A	A	○改修工事により、学習状況の効果が図られた。
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○改修工事の進捗管理。今後における他の学校の改修計画についての進め方が課題となる。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○改修工事は在籍する児童生徒に支障が内容に進めなければならない。 今後の改修計画は、個別最適化された教育内容を充実させる必要がある。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課														
事務事業名	家庭教育支援事業																
事業の目的・概要	幼児・児童生徒の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的な生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。	事業年度	開始		終了												
			平成9年度		継続												
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3										
			279	281	279	111	0										
前年度の課題	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○望ましい電子メディアとのかかわり方や規則正しい生活習慣を学校、家庭、PTAで連携して今後も取り組んでいく必要がある。																
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実。																
事業の実施状況	○家庭教育セミナー																
	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%;">市街地区</td> <td style="width:25%;">中止</td> <td style="width:25%;"></td> <td style="width:25%;"></td> </tr> <tr> <td>布部地区</td> <td>中止</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東山地区</td> <td>中止</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						市街地区	中止			布部地区	中止			東山地区	中止	
市街地区	中止																
布部地区	中止																
東山地区	中止																
評価	○家庭教育講演会～R3.11.27 いじめ防止・家庭教育研修会 映画「子どもたちをよろしく」上映後、参加者によるグループワークを開催 参加者39名																
	○家庭教育ハンドブック（小学低・中学年編、小学高学年・中学生編）の作成、配布 ○ケータイ、インターネットトラブル防止に関する小冊子の作成、配布																
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証										
	達成度	B	B	B	B	B		○家庭・地域の教育力向上や、子育てに関する知識の習得の機会など、家庭教育の重要性について学ぶ機会の必要性が求められている。									
効果度	A	A	A	A	A												
今後の取り組み	今 後 の 課 題																
	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○望ましい電子メディアとのかかわり方や規則正しい生活習慣を学校、家庭、PTAで連携して今後も取り組んでいく必要がある。																
今後の取り組み	改 善 策																
	○コロナ禍における、学習機会の持ち方や情報提供の仕方について検討する必要がある。 ○各種事業等を活用し、家庭教育への関心と参加を推進する。 ○家庭教育ハンドブック等の有効利用をはじめ、各関係機関・団体と連携し家庭教育に関する情報発信に努める。 ○市PTA連合会と連携した家庭教育向上に向けた取り組み。																

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課																										
事務事業名	親と子のふれあい事業																												
事業の目的・概要	家庭や地域の人々との共感的な人間関係を大切にして、心のつながりを深める活動を通して、子どもの心身の発達を促す。	事業年度	開始		終了																								
			昭和52年度		継続																								
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3																						
			市民講座事業・図書館事業に掲載																										
前年度の課題	○公民館事業、図書館事業として取組んでいるが、各施設間の連携を図りながら親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容を充実し、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。																												
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実。 ○親子で楽しみながら、豊かな心を育てる共同体験機会の充実。 ○家庭内では難しい、専門家の話を聞きながら、親子で参加できる市民講座の開催。																												
事業の実施状況	○市民講座【家庭教育・親子を対象にした講座】																												
	<table border="1"> <tr> <td>「自主企画講座」川下りで考えるゴミと環境問題</td> <td>5/9</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>「自主企画講座」水辺の生き物を探そう</td> <td>7/18</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>「自主企画講座」小水力発電を見に行こう</td> <td>10/3</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>「自主企画講座」子どもを幸せにする魔法の食習慣</td> <td>2/5</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>「自主企画講座」こどもの「カラダ」と「ココロ」づくり</td> <td>中止</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>「自主企画講座」冬の森に住む野生動物になってみよう</td> <td>3/2</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>						「自主企画講座」川下りで考えるゴミと環境問題	5/9	25人	「自主企画講座」水辺の生き物を探そう	7/18	25人	「自主企画講座」小水力発電を見に行こう	10/3	25人	「自主企画講座」子どもを幸せにする魔法の食習慣	2/5	45人	「自主企画講座」こどもの「カラダ」と「ココロ」づくり	中止	人	「自主企画講座」冬の森に住む野生動物になってみよう	3/2	16人					
「自主企画講座」川下りで考えるゴミと環境問題	5/9	25人																											
「自主企画講座」水辺の生き物を探そう	7/18	25人																											
「自主企画講座」小水力発電を見に行こう	10/3	25人																											
「自主企画講座」子どもを幸せにする魔法の食習慣	2/5	45人																											
「自主企画講座」こどもの「カラダ」と「ココロ」づくり	中止	人																											
「自主企画講座」冬の森に住む野生動物になってみよう	3/2	16人																											
評価	○読み聞かせ(図書館) ・どんぐりのおはなし会 20回 延 370人 ・土曜日のおはなし会 10回 延 144人																												
	○子どもの図書館まつり 中止																												
評価	達成度																												
	H29	H30	R1	R2	R3	達成度																							
評価	効果度																												
	H29	H30	R1	R2	R3	効果度																							
今後の取り組み	今 後 の 課 題																												
	○公民館・図書館が連携を図り、親子のふれあいを深め子どもの健やかな成長を育む事業内容を充実させ、多くの親子が気軽に参加できる機会の提供を継続していく必要がある。 ○コロナ感染拡大防止に対応した事業の在り方を探る必要がある。																												
今後の取り組み	改 善 策																												
	○事業内容の検討を行い、関係する部署や関係する機関・団体、家庭教育サポート企業(市内8社)等と連携し、より多くの親子が参加できる機会を提供しながら事業展開を図る。 ○オンラインによる講座を増やし、ふれあい事業の展開を図る。																												

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課																																	
事務事業名	子ども未来づくり事業（少年の主張大会&子ども未来づくりフォーラム）																																			
事業の目的・概要	子どもの立場から「まちづくり」に対する自由な発想や意見を出し合い、自主的に社会参加するとともに市政に対する関心を高め、富良野市の未来を担う青少年を育成することを目的とする。	事業年度	開始	終了																																
			平成19年度	継続																																
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3																													
			31	24	267	350	368																													
前年度の課題	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開の継続。																																			
当該年度の目標	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開を図る。 ○自分やグループ内での考え、表現する力の育成と子ども一人ひとりの多様な考えを引き出す発表の場を提供する。																																			
事業の実施状況	○ラジオ版少年の主張 ・青少年を取巻く社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案等 ・家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友達との関わりなど ・TVや新聞等で報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言等 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>7/1(木)2(金)</td> <td>5校(15人)</td> <td>西4・東4・樹海3・布部2・麓郷2</td> </tr> </table> 5月開催を予定していたが、緊急事態宣言発出のため、事前収録を行い7月1・2日の2日間でラジオ放送を行う。 ○子ども未来づくりフォーラムONLINE ・学校の授業や児童会活動等で取り組まれている特色ある取組みや地域課題解決に向け自分達にできること、市民が取り組むべきことなどについて発表。 ・11/24(水)開催 会場：図書館多目的ホール、市役所大会議室、各学校でのオンライン開催 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>布部小4～6年生</td> <td>富良野ブランドの秘密～ミツバチと富良野農業～</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>富良野小6年生</td> <td>富良野の未来について</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>麓郷小3・4年生</td> <td>麓郷100年、そして未来へ</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>樹海小5・6年生</td> <td>かがやく樹海～樹海のカボチャをみんなにアピール大作戦～</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>鳥沼小3・4年生</td> <td>鳥沼の自慢調査隊</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>扇山小6年生</td> <td>Change!</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>山部小5・6年生</td> <td>山部アピール大作戦</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>東小5年生</td> <td>富良野のできるSDGs</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>8校</td> <td></td> <td>126人</td> </tr> </table> 聴衆者/97人（学校関係者及び市議会議員、ことぶき大学、青年会議所、ライオンズクラブ等） 保護者向けにYouTubeによる視聴やラジオふらのも12月13・14日に放送を行った。						7/1(木)2(金)	5校(15人)	西4・東4・樹海3・布部2・麓郷2	布部小4～6年生	富良野ブランドの秘密～ミツバチと富良野農業～	4人	富良野小6年生	富良野の未来について	17人	麓郷小3・4年生	麓郷100年、そして未来へ	9人	樹海小5・6年生	かがやく樹海～樹海のカボチャをみんなにアピール大作戦～	6人	鳥沼小3・4年生	鳥沼の自慢調査隊	11人	扇山小6年生	Change!	28人	山部小5・6年生	山部アピール大作戦	11人	東小5年生	富良野のできるSDGs	40人	8校		126人
	7/1(木)2(金)	5校(15人)	西4・東4・樹海3・布部2・麓郷2																																	
布部小4～6年生	富良野ブランドの秘密～ミツバチと富良野農業～	4人																																		
富良野小6年生	富良野の未来について	17人																																		
麓郷小3・4年生	麓郷100年、そして未来へ	9人																																		
樹海小5・6年生	かがやく樹海～樹海のカボチャをみんなにアピール大作戦～	6人																																		
鳥沼小3・4年生	鳥沼の自慢調査隊	11人																																		
扇山小6年生	Change!	28人																																		
山部小5・6年生	山部アピール大作戦	11人																																		
東小5年生	富良野のできるSDGs	40人																																		
8校		126人																																		
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○各学校における特色ある取組や学習内容、富良野市のまちづくりについて、子どもたちが自らの考えやアイデア等を発表し、表現する場となっている。 ○コロナ感染拡大防止のなか、児童生徒や一般の参加者が一堂に会せないが、ラジオ放送やオンラインでの開催を継続した。 ○一人1台のタブレットの効果か児童自ら発表データを作る学校もあった。																													
	達成度	A	A	A	A	A																														
	効果度	A	A	A	A	A																														
今後の取り組み	今後の課題																																			
	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開の継続。 ○オンライン、YouTube、ラジオふらのを通し、子ども達のまちづくりに対する主張発表等を広く市民に発信する。																																			
	改善策																																			
	○大勢の聴衆者の前で発表する体験も重要な事であるが、学校現場でのICT化も進んでいる事もあり、今後も様々な角度からの取り組みを検討する必要がある。																																			

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課																		
事務事業名	ふらのまちづくり未来ラボ推進事業																				
事業の目的・概要	地域の各分野で活躍している大人と好奇心を持った子ども達が、ワークショップ学習や体験活動を通して、子ども達の情操教育と郷土愛を育み、次代を担う子ども達の人材育成を図り、多世代交流型の事業を展開する。	事業年度	開始	終了																	
			平成28年度																		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3														
			1,722	1,795	2,011	2,059	2,057														
前年度の課題	○今後も民間のノウハウやアイデアを活用しながら、行政と民間の役割を明確にし、協働で推進していく必要がある。																				
当該年度の目標	○地域の魅力の発見と自らが参画できる地域社会づくりの実践を通して、富良野で豊かな郷土愛を持つ人材を育てる。 ○コロナ禍における「学びを止めない教育」として、オンラインを使ったワークショップイベントの開催。 ○同志社女子大学生(オンライン)、東京大学大学院生徒の事業連携を深める。																				
事業の実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ワークショップ名(ワーキング含む)</th> <th>実施回数</th> <th>参加延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土・ひと・アート2021 ～土の世界～</td> <td>14回</td> <td>237人</td> </tr> <tr> <td>はたらく人になって2021 ICTエンジニア</td> <td>13回</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>特別ワークショップ・ワーキング</td> <td>3回</td> <td>62人</td> </tr> <tr> <td>計 3WS</td> <td>30回</td> <td>334人</td> </tr> </tbody> </table>		ワークショップ名(ワーキング含む)	実施回数	参加延人数	土・ひと・アート2021 ～土の世界～	14回	237人	はたらく人になって2021 ICTエンジニア	13回	35人	特別ワークショップ・ワーキング	3回	62人	計 3WS	30回	334人				
	ワークショップ名(ワーキング含む)	実施回数	参加延人数																		
土・ひと・アート2021 ～土の世界～	14回	237人																			
はたらく人になって2021 ICTエンジニア	13回	35人																			
特別ワークショップ・ワーキング	3回	62人																			
計 3WS	30回	334人																			
委託業務名 ふらのまちづくり未来ラボ推進事業 実施期間 令和3年4月1日～令和4年3月15日 受託者 一社) 富良野デザイン会議暮らしステーション																					
評価			H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○家庭、学校、職場の関係や世代を超えた多くの出会いの場が確保され、多世代交流型の取り組みがなされた。 ○誰もが対等な関係の中で「交ぜて学ぶ」ことにより市民の新たな富良野コミュニティが創出が期待され、地域社会づくりへの参画が図られた。													
	達成度		B	B	B	B	A														
	効果度		A	A	A	A	A														
今後の取り組み	今後の課題																				
	○今後も民間のノウハウやアイデアを活用しながら、行政と民間の役割を明確にし、協働で推進していく必要がある。 ○小中高の連携をより深めた事業展開を図っていく必要がある。 ○東大院生サークル「ENTACK」との連携に努めていく必要がある。 ○同志社女子大学との連携を深めていく。																				
今後の取り組み	改善策																				
	○行政と民間の連携協力を努めていく。 ○今年度取り組んだ事業を、次年度へ繋げていく。 ○ウイズコロナとして、オンラインを活用した取り組みに努める。 ○高校生との連携																				

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	子ども会育成事業						
事業の目的・概要	異年齢集団である子ども会活動への参加奨励を図り、団体活動の基礎的知識や技術を学び、子ども会活動の活性化を図る。	事業年度	開始		終了		
			昭和38年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			800	800	512	423	748
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの減少等により、子ども会や育成連絡協議会への加入が困難な地区もあり、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 ○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 ○アウトドア体験をとおしたリーダー研修会は年々、参加する子ども達が増えており、四季折々の自然体験をとおした取組みを継続する必要がある。 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の教育資源を活かした様々な学習機会の充実。 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実。 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加促進。 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備。 						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○富良野市子ども会育成連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・加盟単位数 15団体 ・会員数 352人(子ども会安全共済会加入者) ○子ども会事業 						
	8月7・8日	リーダー研修会【前期】	54人	小中37人・高9人・ボラ8人			
3月27～29日	リーダー研修会【後期】	66人	小中46人・高10人・ボラ10人				
	かるた大会		中止				
随時	遊びの出前事業(随時)	2回	地区子ども会等へ派遣				
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	
評価						○子ども会リーダー研修会の参加者にIKR評定用紙「生きる力アンケート」を実施し、事前・事後調査を行った結果、事後調査時の点数が高くなっており、全体的に自己肯定感(生きる力)が上がっていることが分かった。	
	効果度	B	A	A	A		A
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ感染拡大防止、子どもの減少、子ども会や育成連絡協議会への加入が困難な地区もあるが、子ども会への加入及び活動の活性化を進める必要がある。 ○子ども会活動を継続・拡大させるためには、基礎知識や技術を持った育成員の養成を行う必要がある。 ○アウトドア体験を通じたリーダー研修会は年々、参加する子ども達が増えており、四季折々の自然体験をとおした取組みを継続する必要がある。 ○青少年サークル(高校生)の会員の確保と拡大。 						
今後の取組み	改 善 策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの活動による人の繋がりを止めない新しい活動内容の検討が必要。 ○コロナ禍でのリーダー研修会等の実施については、感染拡大防止を考えた中で体験活動や自然体験を取り入れ実施する必要がある。 ○地域の子ども会が集い、各種事業を通じて次世代を担う子供たちに各種体験活動を提供することにより必要な知識の習得を図る。 ○今後は、非常時や災害時における対応についての研修も必要と思われる。 						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年表彰	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年表彰事業						
事業の目的・概要	青少年（個人、団体）を対象に、青少年活動、社会活動及び家庭生活等において他の模範となる者を表彰する。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
40	38		63	54	0		
前年度の課題	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。 ○青少年団体をリードする人材育成を図る必要がある。						
当該年度の目標	○ふるさとの意識を高める各種リーダーの養成。						
事業の実施状況	○富良野市青少年表彰式 該当者なし						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○表彰該当者がいなかったことから、評価対象外とする。
	達成度	B	B	B	B	-	
	効果度	B	B	B	A	-	
今後の取り組み	今 後 の 課 後 題						
	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。 ○青少年団体をリードする人材育成を図る必要がある。						
	改 善 策						
○様々な機会や広報を通して、青少年表彰制度について広く市民に周知する。 ○各関係機関・団体及び町内会や市民に対して広く該当者の推薦を募ると共に活動実態を把握する。 ○該当者が不在の状況が継続する場合は、表彰内容の見直しも検討。							

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年補導センター運営事業						
事業の目的・概要	青少年が心身ともに健康で調和のとれた発達ができるよう、市民や関係機関・団体との連携により、青少年の健全育成を主眼とした非行の未然防止に努める。 ◇補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体の推薦により教育委員会が委嘱。	事業年度	開始		終了		
			昭和50年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
160	161		162	132	109		
前年度の課題	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月3回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署、生徒指導連絡協議会との連携。						
当該年度の目標	○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備						
事業の実施状況	○補導員数 33人 委嘱 ○街頭補導(富良野地区) ・富良野地区18回、山部地区0回(山部盆踊り中止) 延従事者36人 結果:補導なし。呼びかけ19人 ○補導員会議(兼研修会) 6月29日 ○広域補導(旭川地区広域補導連絡協議会) ・合同補導…①北海へそ祭り祭典補導 中止 ②旭川市通常合同回補導 中止 ③旭川市春季合同補導 中止 ・旭川地区広域補導連絡協議会総会 中止 ・旭川地区広域補導連絡協議会研修会 中止 ・第38回全国青少年相談研修会 1月29日 オンライン(2名参加)						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月2回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署との連携。						
	改 善 策						
	○学校、家庭、関係機関団体、施設管理者等とのネットワーク化を推進し、情報交換や連携を密にしながら青少年の健全育成を推進する。 ○コロナ感染状況や祭典の開催状況を確認しながら実施する。 ○SNSなどネット情報の管理について調査研究が必要。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課					
事務事業名	放課後子ども教室推進事業							
事業の目的・概要	放課後の子ども達の安全、安心な居場所を設け、子ども達に文化・スポーツ活動等の体験を通じて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ○平成20年度 山部小学校で新規開設 ○平成22年度 樹海小学校で新規開設 ○平成23年度 布礼別小学校で新規開設 ○平成25年度 布部小学校で新規開設 ○平成28年度 鳥沼小学校で新規開設	事業年度	開始		終了			
			平成20年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3	
7,087	7,408		6,990	7,340	8,200			
前年度の課題	○コーディネーター、サポーター間の研修・共有の場。 ○未開設地区(麓郷小学校区)の継続協議。							
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実。 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実。 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進。 ○新型コロナウイルスに対する対応として、スタッフや子ども達へのマスク着用・手洗い・消毒などの感染予防対策の徹底と「3密」状態にならない環境に努める。							
事業の実施状況	○山部地区放課後子ども教室 ・登録児童数 33名 (R2年度/37名) ・開催日数 218日 (R2年度/207日) ・延 3,359名出席 (R2年度/3,415名) ・教育活動サポーター登録13名 ○布部地区放課後子ども教室 ・登録児童数 4名 (R2年度/10名) ・開催日数 179日 (R2年度/177日) ・延 541名出席 (R2年度/1,436名) ・教育活動サポーター登録 8名 ○布礼別地区放課後子ども教室 ・登録児童数 12名 (R2年度/12名) ・開催日数 73日 (R2年度/68日) ・延 648名出席 (R2年度/675名) ・教育活動サポーター登録 18名 ○鳥沼地区放課後子ども教室 ・登録児童数 14名 (R2年度/15名) ・開催日数 193日 (R2年度/163日) ・延 2,327名出席 (R2年度/1,815名) ・教育活動サポーター登録 21名 ○東山地区放課後子ども教室 ・登録児童数 21名 (R2年度/22名) ・開催日数 184日 (R2年度/167日) ・延 3,223名出席 (R2年度/2,723名) ・教育活動サポーター登録 14名							
評価			H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた中で児童の安全、安心な居場所づくりと心豊かで健やかに育まれる環境づくりに効果をあげている。 ○通常の放課後子ども教室以外に、行事などイベントを取組めた教室もあった。
	達成度		B	B	B	B	B	
	効果度		A	A	A	A	A	
今後組の	今 後 の 課 題 ○コーディネーター、サポーター間の研修・共有の場の継続。 ○地域の支援協力体制の醸成を少しずつ図っていく必要がある。 ○コロナ感染感染拡大防止対策の徹底を図った中で、学校と連携した子ども教室の運営に努める。 ○事業に関わるスタッフを対象に、支援を必要とする子どもたちに対する接し方の技術研修等も必要。							
	改 善 策 ○コロナ感染拡大防止対策の中で、保護者や地域の方が参画しやすい事業展開が出来るか検討する必要がある。 ○地域学校協働活動との連携。							
	今 後 組 の							

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	児童館・学童保育センター運営費						
事業の目的・概要	すべての児童生徒が放課後を安全・安心に過ごす居場所を提供し、学習や体験活動等を通し次代を担う子どもの健やかな成長と社会で子育てを支える地域社会を推進する。 ○北の峰児童館（北の峰学童保育センター） ○緑町児童センター（緑町学童保育センター） ○麻町児童センター（麻町学童保育センター） ○桂木児童センター（桂木学童保育センター） ○東部児童センター（東部学童保育センター）	事業年度	開始		終了		
			昭和43年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
33,936	32,435		34,897	40,274	44,602		
前年度の課題	○児童福祉法に基づく放課後児童支援員の確保。						
当該年度の目標	○全ての児童生徒が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動ができる居場所作りに努める。 ○児童福祉法に基づく放課後児童支援員の確保及び人材育成。						
事業の実施状況	○年間利用状況（自由来館＋登録児）						
	施設名	R3	R2	R1	H30		
北の峰児童館	4,657	3,765	6,876	7,157			
緑町児童センター	9,580	11,829	14,361	15,918			
麻町児童センター	5,012	5,790	7,000	7,218			
桂木児童センター	8,624	8,775	10,443	11,649			
東部児童センター	3,888	3,425	6,586	6,454			
5館	31,761	33,584	45,266	48,396			
○主な活動・季節的行事							
◎情操:紙芝居、読書、セル画等 ◎体力:一輪車、跳び箱、縄跳び、竹馬等 ◎娯楽:かるた、オセロ、トランプ、伝承遊び等 ◎社会:挨拶、身だしなみ、清掃等 ◎季節的行事…母・父・敬老の日プレゼント作り、七夕祭り、夏休み工作等							
達成度・効果度の検証	H29	H30	R1	R2	R3	○放課後、児童生徒の安全・安心な居場所と健全なあそび通し、情操豊かな成長につながっていると同時に、昼間、共働き等の家庭支援につながっている。 ○児童厚生員、補助員の定数を満たすことが出来たが、引き続き放課後児童支援員の育成する。 ○コロナ感染拡大防止を徹底し検温、消毒、マスクの着用、換気を徹底した。 ○PCを導入しインターネット環境を整備した。	
	達成度	B	B	B	B		
効果度	A	A	A	A	A		
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	○コロナ感染拡大防止から、これまでの地域の方と一体となった児童センター及び放課後児童クラブの運営が難しかったことから、どのような形で地域・学校との連携が取れよう検討する必要がある。 ○児童福祉法に基づく放課後児童支援員の育成と確保。 ○コロナ感染拡大防止対策の徹底。 ○PC活用による事務作業の軽減を進める。 ○厚生員全体会議の在り方の検討。						
	改 善 策						
○コロナ感染拡大防止対策の各学校との情報交換及び連携。 ○学校授業や行事などの学校活動や児童の情報交換。							

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	地域学校協働活動						
事業の目的・概要	学校・家庭・地域社会の教育力を結びつけ、富良野市の教育の充実と活性化を目指す「学社融合」を積極的に推進し、ゆとりと潤いのある学習社会の実現を図るとともに、平成29年度より学校支援地域本部事業機能を取り込んで、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援しており、令和2年度からは「地域学校協働活動推進委員会」に改め、コーディネート機能の強化とコミュニティースクール等との連携を図り、多様で継続的な「地域学校協働活動」の実施を行う。	事業年度	開始	終了			
			平成11年度 (学校支援は平成20年度～)		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			226	405	313	212	268
前年度の課題	○地域学校協働本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実。 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備。 ○学習活動を支援するための情報提供や指導、相談体制の整備。						
事業の実施状況	○富良野市地域学校協働活動推進委員会 ・推進委員 23名委嘱(教頭会から推薦の幹事2名含む) ・市内小中学校における実践事例 272事例(前年216) ・推進委員会開催 (12/20) ○地域学校協働活動研修会(講演会) 2月22日開催 55名 会場:文化会館 演題 「学校を拠点として小さな社会をたくさんつくろう」 ～子供たちも地域住民も「わくわく」を贈りあう学校をつくろう 人生100年・AI・そしてポストコロナ時代～ 講師 東京大学大学院教育学研究科教授 牧野 篤 氏 ○学校支援ボランティアの登録数 274名(男性93名、女性181名) ①家庭科補助7名 ②体育補助117名 ③読み聞かせ71名 ④農園手伝い6名 ⑤環境整備17名 ⑥自然科学・歴史3名 ⑦食育4名 ⑧パソコン3名 ⑨文学・文化6名 ⑩学校行事支援6名 ⑪登下校時等の安全指導26名 ⑫その他54名 ※希望分野が複数の登録者あり						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後組のみ	今後の課題						
	○地域学校協働本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効な活用と学校運営協議会、コミュニティースクール等、地域学校協働活動推進委員会との連携を図る必要がある。 ○コロナに対応した取り組みを図り、学びを止めない連携の在り方が必要。						
	改善策						
	○活動内容の広報活動を行うとともに、学校との情報交換等を行いながら学校支援ボランティアの発掘・養成を行いながら、登録分野の一層の活用促進と地域の教育資源の整備充実を図り、地域の教育力の一層の充実と生涯学習社会の実現を目指す。 ○コロナを想定した活動の模索。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	成人教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの市民講座事業						
事業の目的・概要	○多様化する学習要求に対応した講座や社会的課題に関する教室等を開設する ○中央公民館、山部公民館、東山公民館の講座を連携して、「ふらの市民講座」として開設する。	事業年度	開始		終了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
		793	793	865	885	1,107	
前年度の課題	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域・行政課題といった市民の必要課題についての学習機会の提供など、引き続き検討していく必要がある。						
当該年度の目標	○現代的課題や地域課題などの解決に向けた学習機会の充実と提供。						
事業の実施状況	○ふらの市民講座 26講座 全186回 延1,392名参加 中央公民館 ・小中学生対象講座 2講座全 7回延 104名 ・成人対象講座 4講座全 5回延 92名 ・勤労者対象講座 5講座全 56回延199名 ・女性対象講座 1講座全 8回延 84名 ・高齢者講座 11講座全 105回延 777名 ・自主企画講座 (親と子のふれあい事業で記載)						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○講座終了後にアンケートを実施し、学習ニーズの把握に努めている。 ○学習した成果を地域で生かすことにより地域の教育力の向上に寄与している。 ○高齢者向け生きがい教室、勤労者向け教養講座については、コロナ禍により休講となる期間も出た中でも、一定数の参加者が確保出来た。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域・行政課題といった市民の必要課題についての学習機会の提供など、引き続き検討していく必要がある。						
	改 善 策						
	○市民の学習ニーズ及び現代的課題や地域課題を的確に把握し、関係部署・機関・団体等との連携をしながら、より豊かで多様性に富んだ講座を企画するとともに、自主企画講座のPRを進める。 ・現代的課題～社会生活を送る上での様々な課題の中で、特に現代に生きる市民として学んでおくべき課題 ・地域課題～「まちづくり」、「家庭や地域の教育力」などに係る課題。 ○自主企画講座の更なる拡充。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高齢者教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ことぶき大学運営事業						
事業の目的・概要	○自らの健康に気を配り、喜びと生きがいのある人生観の確立と家庭及び社会における高齢者としての役割を認識して、これまでの豊富な経験と知識を社会に生かすとともに自らの生活向上に役立てる。 ○富良野校、山部校の2校が地域の実情に根ざした学習活動を展開している。	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			869	1,017	1,035	551	650
前年度の課題	○新入生の確保に様々な取組を行っているが、入学生が減少傾向にあるので、引き続き学生の確保に努める必要がある。 ○近年、個々で趣味や軽スポーツ等に親しむ傾向にあることから、楽しく魅力ある大学作りに努めるとともに、在校生による勧誘宣伝できる環境づくりが必要。						
当該年度の目標	○高齢者自身が学びあえる自主的な学習活動の推進。 ○趣味、文化活動などのグループ、サークルの育成。 ○自主的に学習する意欲を高める学習環境の整備。 ○人生100年時代を見据えた「ことぶき大学」の対応。						
事業の実施状況	○10月6日には感染予防対策を図りつつ、シンプルではあるが卒業式・入学式を同時開催することが出来た。また、「富良野版ウイルスに負けない健康講座」を実施し新型コロナウイルスに対する正しい知識と情報を学ぶと同時に、免疫力アップの体操など精神的なケアも図ってきた。 ○年間授業日数も昨年度より増加し、自主活動である同好会活動が活発化し、特に「スマホ・PC・オンライン同好会」、「フロアカーリング同好会」が新設された。 ○在籍者数 本科25名 大学院13名 研究科6名 単年登録 10名 計54名 ・富良野校～学習日数19日 本科14名 大学院 6名 研究科 4名 単年登録 9名 計33名 ・山部校 ～学習日数14日 本科11名 大学院 7名 研究科 2名 単年登録 1名 計21名						
評価			H29	H30	R1	R2	R3
	達成度	B	B	B	B	B	B
	効果度	B	B	B	A	A	A
達成度・効果度の検証							
	○コロナウイルス感染拡大の不安・休講の中でも対策を徹底し活動を行うことが出来た。 ○活動休止中でも「ことぶき通信」の発行を行い、学生の意識低下防止に努めた。 ○活動方針、活動内容について自治会役員が自ら主導して決めたことから、自主性が高まった。 ○						
今後の取組み	今後の課題						
	○コロナ感染拡大予防は今後も続くことが予想された中で、現在在籍している学生の継続と新規入学者の確保に努める。 ○活動の方向性、内容などについて富良野校、山部校はもとより、沿線とも情報交換を行い、安全を確保を第一とした上での活動を行う。 ○ことぶき大学50周年を迎えることから準備委員会の立ち上げ、式典・記念誌の発行を行う。						
	改善策						
	○活動にあたっては「3密」防止、マスク着用、検温、消毒の徹底。 ○コロナ感染拡大予防に対する情報収集の徹底と周知。 ○感染状況によっては活動の中止や延期などの判断を自治会役員と共に協議し、適切に判断する。 ○感染拡大予防を第1に活動を行う。 ○コロナに対応した授業の在り方（オンライン等）						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課				
事務事業名	ファミリー・サポート・センター事業						
事業の目的・概要	乳幼児や小学校低学年の児童のいる就労者等を会員として、児童の預かり等の援助を受けたい者(依頼会員)と当該援助を提供する者(提供会員)との相互援助活動を組織化し、連絡調整を行うことにより、地域における育児や子育ての相互援助活動を推進し、多様な子育てニーズに応える子育て支援対策の一環として実施する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成26年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R元	R2	R3
		2,568	2,857	3,234	3,281	3,281	
前年度の課題	○会員相互の交流を深め、相互援助活動の活性化を図る。 ○新規会員の加入促進(広報活動の充実)。 ○会員(提供会員・両方会員)の継続的な資質の向上を図る。						
当該年度の目標	○会員相互の交流を深め、信頼関係の構築を行い、相互援助活動の推進を図る。 ○活動内容に関する広報活動を推進する。 ○会員の学習機会の充実を図る。						
事業の実施状況	○ファミリーサポートセンターの事業内容 ①会員の募集、登録その他の会員組織の管理に関する業務 ・会員数【会員148名(依頼会員100名 提供会員31名 両方会員17名)】 ②会員相互の援助活動の調整等 ・相互援助活動数 492件541名 幼稚園・保育所終了後の預かり21件29名 幼稚園・保育所までの送迎3件4名 放課後の習い事の送迎285件300名 学童保育終了後の預かり4件4名 冠婚葬祭・学校等行事の際の預かり20件25名 買い物等外出時の預かり34件41名 保育者の臨時の事由125件138名 ③提供会員養成講座 ・10/22, 25, 27・11/2, 4, 5, 9日の7日間 7日間計24時間 15名参加 内容:心の発達とその問題、子どもの栄養と食生活、子どもの遊び他 ④定期的な広報活動等の実施 ・ファミサポ通信の発行(6回)、パンフレットの配布、ポスター掲示 ⑤会員の交流会の開催 1回 13組25名 ・ヨガ教室(12/4 13組25名) ⑥公共施設を利用した「つどいの広場」への支援(3歳未満の乳幼児と親子) ・緑町児童センターを会場に月1回実施(5月~3月)10:00~11:30 会員延べ10名参加 ※9月、2月、3月はコロナで中止						
評価		H29	H30	R元	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後組の	今 後 の 課 題						
	○会員同士の交流の輪を広げ、相互援助活動の活性化を図る必要がある。 ○広報活動により、更なる周知に努める。 ○会員(提供会員・両方会員)の保育に係る資質向上に努める。						
	改 善 策						
取組	○広報活動の充実。 ○会員同士や非会員も含めた子育て支援に関する交流活動。 ○会員の資質向上につながる研修会等の開催や情報提供。 ○提供会員、両方会員の意見交換会の実施。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課				
事務事業名	子育て支援センター運営費						
事業の目的・概要	乳幼児とその保護者が相互に交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。	事業年度	開始		終了		
			平成15年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R元	R2	R3
			2,884	3,141	3,409	4,277	4,571
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用ニーズを把握し、より利用しやすい施設運営を行う。 ・子育て支援に関する情報発信を行う。 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親子の交流促進や育児相談を行うとともに、情報提供等を適切に行う。 ・利用者ニーズに対応した各種事業の推進を行う。 						
事業の実施状況	<p>①ひよっこサロン(月10:00~11:30) 1H自由遊び+0.5H紙芝居・読み聞かせ・親子ふれあい遊び 0~2歳 774名</p> <p>②ふれあい広場(火・金10:00~11:30) 1H自由遊び+0.5H保育士と親子で遊ぶ・製作等 0~2歳 登録制 1,686名</p> <p>③子育てサロン(月火水金13:30~16:00) 0~未就学児 親子で自由遊び 1,737名</p> <p>④水曜開放(水10:00~11:30) 0~2歳 親子で自由遊び 885人</p> <p>⑤土曜開放(月1回土曜日10:00~11:30※10月以降月2回) 親子で自由遊び 0~2歳 195名</p> <p>⑥ふらのっこクラブ(第1・3木 10:00~11:15 2歳~未就学児) ゲーム遊び・ルールのある遊び 442名</p> <p>⑦ふれあい合同広場(第4木 10:00~11:15 0歳~未就学児) 運動遊び(身体をたくさん動かす) 242名</p> <p>⑧パパ広場(年4回 10:00~11:15) 父親と子どものふれあい 0~2歳 53名 5月・2月コロナで中止</p> <p>⑨子育て講座の開催 2回22名(小児歯科(22名)、救急法→緊急事態宣言中で中止)</p> <p>⑩地域幼児クラブへの支援(月1回10:30~11:30) 東山 64名(あおぞら・山部は休止中)</p> <p>⑪子育て相談151件(支援センター相談148件,電話2件,来所1件)</p> <p>⑫つどいの広場の開設支援 月1回開催 10:00~11:30 9月・2月・3月はコロナで中止</p> <p>・緑町児童センターを会場に3歳未満の乳幼児と親 31名 ※5月~3月開催</p> <p>※ファミリーサポートセンター会員運営協力依頼 延べ10名参加</p> <p>⑬絵本の貸出 35冊</p> <p>⑭子育て情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい広場お便り発行12回 ・子育てガイドブック900冊配布 ・ガイドマップ・どさんこカード164部配布 <p>※①~⑤は、保健センター1階子育て支援センターで開催</p> <p>⑥~⑧は、スポーツセンターサブアリーナで開催</p>						
評価		H29	H30	R元	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						改 善 策
	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者のニーズを把握し、より利用しやすい施設運営を行う。 ○子育てに関する情報の発信。 						
今後取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、利用者ニーズの把握に努める。 ○様々な広報媒体を活用した情報発信(子育てアプリの利用等) 						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課				
事務事業名	こども通園センター運営費						
事業の目的・概要	支援が必要なあるいは配慮が必要な就学前の児童に対して、発達支援、子育て支援を行っている。	事業年度	開 始		終 了		
			平成3年		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R元	R2	R3
11,232	12,039		12,051	14,033	15,079		
前年度の課題	○心身に障がい又は障がいの疑いのある児童に対し、障がいに応じた適正な療育を行う。						
当該年度の目標	○心身に障がい又は障がいの疑いのある児童に対し、日常生活における基本動作の指導及び集団生活への適応訓練を行い、当該児童の健全な育成を図る。						
事業の実施状況	<p>○児童発達支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 心身の発達に心配のあるお子さんの相談や個別的・集団的療育を行い、発達を促すための援助や、保護者の子育てに対する支援を行う。 個別支援計画に基づき、遊びや生活動作を通して、心身の発達を促し、子どもが持っている力を発揮できるよう支援を行う。 母子(保護者同伴)通園形態を実施する。 <p>○構成職員</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達支援管理責任者1名、指導員8名(保育士5名(内会計年度任用職員4名)、作業療法士1名、言語聴覚士2名) <p>○療育形態:個別指導、集団指導</p> <p>○療育時間:指定された日時に保護者同伴で通所。1回の療育時間は、1時間~1時間15分 月4回の療育指導を基本としている。</p> <p>○定員:1日10名 1週間50名</p> <p>○通園児の推移 H29(51人) H30(58人) R元(59人) R2(57人) R3(61人) ※年度末時点</p> <p>○乳幼児健診時の相談支援(7ヶ月相談・1歳6ヶ月健診・3歳児健診)</p> <p>○あそびの教室</p> <ul style="list-style-type: none"> 発育・発達の問題や育児不安、養育上の問題・課題を有する親子に対して、親子で楽しく遊び子育ての相談ができる機会を設け、育児不安の解消、養育環境の改善を図り、子どもの健全な発達を支援する。1歳6ヶ月~3歳 3クール(1クール6回、隔週開催) 21組 ※コロナの影響による自粛期間があり、回数確保のため3クール目は毎週開催とした。 						
評価		H29	H30	R元	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	<p>○発達段階に応じた、きめ細やかで適正な療育への対応</p> <p>○民間児童発達支援施設等との連携</p> <p>○自己評価及び利用者(保護者)による評価の実施と評価結果への対応</p> <p>○児童発達支援(療育)に対する理解の促進</p>						
今後の取り組み	改 善 策						
	<p>○保護者の相談や家庭での子育て支援を丁寧に行いながら療育を行う。</p> <p>○関係機関や児童発達支援施設等との定期的な情報交換等を行うことにより、連携強化を図る。</p> <p>○自己評価及び利用者(保護者)評価における課題の解決を図る。</p> <p>○児童発達支援(療育)に対する理解を深めるための研修会の開催、教育・保育施設への訪問指導及び情報提供を引き続き行う。</p> <p>○増加するニーズに対応することと、未就園児(1歳半健診後)の療育的な経験の場の提供等の観点から、「あそびの教室」の実施方法を試行的に毎週開催とする。</p>						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	子育て支援		担当課	こども未来課																														
事務事業名	へき地保育所運営費																																	
事業の目的・概要	へき地における保育を必要とする幼児等の児童の福祉の増進を図るため、へき地保育所を設置し運営する。	事業年度	開始		終了																													
			昭和41年		継続																													
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R元	R2	R3																											
			20,636	23,344	21,038	26,878	21,529																											
前年度の課題	「富良野市立保育所全体的な計画（保育課程）」に掲げる保育理念、保育方針、保育目標を踏まえた適正な保育活動を推進する。																																	
当該年度の目標	○地域の保育・教育施設として、「富良野市立保育所全体的な計画（保育課程）」に掲げる保育理念、保育方針、保育目標を踏まえた適切な保育活動を推進する。 ○幼児教育を行う施設として、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を意識した保育を推進する。																																	
事業の実施状況	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>山部保育所</td> <td>東山保育所</td> <td>あおぞら保育所</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>50名</td> <td>30名</td> <td>30名</td> </tr> <tr> <td>入所者数</td> <td>20名</td> <td>9名</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>対象年齢</td> <td>満2歳（4/1現在）～5歳児</td> <td>満2歳～5歳児</td> <td>満2歳～5歳児</td> </tr> <tr> <td>保育時間</td> <td>8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:30迄延長保育（4月～10月）</td> <td>8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育</td> <td>8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育</td> </tr> <tr> <td>給食</td> <td>無／おやつ有</td> <td>無／おやつ有</td> <td>無／おやつ有</td> </tr> <tr> <td>保育形態</td> <td>統合・混合保育</td> <td>統合・混合保育</td> <td>統合・混合保育</td> </tr> </table>					山部保育所	東山保育所	あおぞら保育所	定員	50名	30名	30名	入所者数	20名	9名	10名	対象年齢	満2歳（4/1現在）～5歳児	満2歳～5歳児	満2歳～5歳児	保育時間	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:30迄延長保育（4月～10月）	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育	給食	無／おやつ有	無／おやつ有	無／おやつ有	保育形態	統合・混合保育	統合・混合保育	統合・混合保育	R4.3.1	
		山部保育所	東山保育所	あおぞら保育所																														
定員	50名	30名	30名																															
入所者数	20名	9名	10名																															
対象年齢	満2歳（4/1現在）～5歳児	満2歳～5歳児	満2歳～5歳児																															
保育時間	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:30迄延長保育（4月～10月）	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育																															
給食	無／おやつ有	無／おやつ有	無／おやつ有																															
保育形態	統合・混合保育	統合・混合保育	統合・混合保育																															
・運動会（幼小中：東山、あおぞら 幼小：山部） ・発表会 ・合同行事（交流会・観劇等） ・幼児クラブとの交流（東山）																																		
評価		H29	H30	R元	R2	R3	達成度・効果度の検証																											
	達成度	B	B	B	B	B																												
	効果度	A	A	A	A	A	○地域の保育・教育施設として、保育理念、保育方針、保育目標に沿った保育活動が行われている。 ○コロナ禍における各種行事の開催にあたっては、感染防止対策を講じながら、規模を縮小するなど工夫しながら実施した。																											
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○保育課程を職員が十分理解するとともに、保育能力の向上が必要である。 ○保育所が幼児教育施設としての機能を持っていることを理解し、保育内容の充実を図る。 ○地域や教育・保育施設等との連携による保育事業の充実を図る。 ○地域の子育て支援の一環として、就学前の児童を持つ家庭への支援を行う。 ○引き続き、保育所の運営に関するニーズの把握に努める。																																	
今後取り組み	改 善 策 ○職員の資質向上のため、計画的な学習機会の充実を図る。 ○地域の関係機関・団体や教育・保育施設等と連携し、保育内容の充実を図るとともに、児童の安全確保に努める。 ○「富良野市立保育所全体的な計画（保育課程）」に基づいた、適切な保育活動を推進する。 ○延長保育の通年化を実施する。																																	

Ⅲ 令和3年度教育委員会事務事業点検・評価

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	子育て支援	担当課	富良野市立虹いろ保育所				
事務事業名	認可保育所運営費						
事業の目的・概要	児童福祉法及び保育所保育指針を基本とし、保育を必要とする乳児・幼児の「最善の利益」を保障する保育を適正に行い、児童福祉ならびに幼児教育の向上を図るため認可保育所を設置し運営する。	事業年度	開始		終了		
			昭和41年		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
59,526	59,873		62,483	66,230	77,150		
前年度の課題	○保育所保育指針ならびに「全体的な計画」に基づき、保育を必要とする乳児・幼児の健康と安全を保障した保育の推進を図るとともに、多様な就労形態に対応する保育サービスの拡大に努め保育所待機児の解消を図る。						
当該年度の目標	○「富良野市立保育所全体的な計画」に基づいた適切な保育の推進を図る。 ○多様化する保育ニーズの把握に努め、養護及び教育の一体化した保育の推進。 ○幼児教育施設として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育運営全体を通して幼児の資質・能力を育む保育活動の推進。 ○幼児教育施設としての相談機能の充実を図り虐待の早期発見、未然防止及び家庭教育・子育て支援の推進						
事業の実施状況	<p>①子育てと仕事の両立支援 保育時間 7時30分～18時30分 11時間保育 対象年齢 満6ヶ月から就学前まで 入所定員 156名 入所児童数 133名(令和4年3月31日) のべ保育人数 29,812人 (最大入所数) 0歳児～12名 1歳児～31名 2歳児～25名 3歳児～22名 4歳児～25名 5歳児～25名</p> <p>②一時保育事業～ 保護者の疾病や出産等により緊急に保育が必要とする児童に対する一時的保育事業。 利用世帯～2世帯</p> <p>③特別支援保育～ 保育の必要性があり、かつ心身に障がい等を有する児童を集団保育及び個別保育を行う。 特別な支援を要する児童 9名 1対1の加配保育士を必要とする児童 4名 加配保育士 5名</p> <p>④世代間交流 ～ 市内高齢者との交流の為年2回訪問及び保育所来所にて交流を図る。 (新型コロナウイルス感染拡大防止の為取り組み中止となる)</p> <p>⑤保育所開放事業～園庭開放及び園行事への参加型開放 給食提供を予定するが新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止となる 1回開設 1回利用者あり 利用児童数 一組</p> <p>*世代間交流及び園開放については新型コロナウイルス感染の影響により、取組について検討を行った。</p>						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取組の	今後の課題						
	<p>○家庭の実態や保護者ニーズの把握を行い適正な保育運営の推進。 ○保育指針に基づいた保育の質の向上及び幼児教育施設としての機能向上。 ○全体的な計画に基づいた、「養護」と「教育」の一体化した幼児教育活動の充実。 ○地域に開かれた子育て支援活動の推進と連携。 ○待機解消に向けた保育運営の推進。 ○小学校教育への円滑な接続を図る。 ○保育システム「コドモン」の活用推進を図り、利用者とのコミュニケーションの充実。</p>						
今後取組の	改善策						
	<p>○保育指針の趣旨及び内容の理解を深め様々な幼児教育活動の充実を図る ○保育の質向上のための研修体系の整備と研修内容の充実を図る ○児童福祉施設における児童の安全確保を図る為、安全管理・危機管理マニュアルを遵守した保育活動の推進。 ○保育所保育の専門性を生かした子育て支援(保育所開放・子育てコラム)の活動内容の充実と広報活動の拡充。 ○保育システム「コドモン」の機能活用周知を図り、保護者の利便性の向上ならびに保育の質向上を図る。 ○関係機関との連携を行い、家庭教育を通じた乳幼児期からの子育て支援の充実を図る。 ○小学校教育と幼児教育施設との「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有、推進を図る。 ○待機児解消に向けた人員配置配置基準、面積基準等、国を上回る基準を活用しての児童の受け入れの推進を図る。</p>						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	虹いろ保育所	担当課	富良野市立虹いろ保育所				
事務事業名	特別支援保育事業費						
事業の目的・概要	○保育の必要性があり、特別な支援を有する児童に対し、必要な保育を行うことにより、心身の成長を促すとともに、社会生活に必要な基礎能力を養い、支援を必要とする児童の福祉の増進を図ることを目的とする。	事業年度	開始		終了		
			平成15年		継続		
事業費(決算) (単位:千円)	10,220	10,435	H29	H30	R1	R2	R3
					11,100	9,586	10,708
前年度の課題	○特別な支援を必要とする児童の健全な社会性の発達を促進するため、適正な環境の下で他の児童と生活を通してともに成長できる保育を実施し、保育の特別支援保育の増進を図る必要性がある。 ○発達が気になる児童の入所が増加し加配保育士の育成・確保に課題がある。 ○就学期児童の関係機関との情報共有及び連携を図る。						
当該年度の目標	○特別な支援を必要とする児童の特性を十分に配慮した集団保育の提供を行う。 ○必要に応じて担当保育士の配置を行い、他の児童との集団生活の中での事故防止等の安全確保を行い児童の成長・発達の促進の支援を図る。 ○児童発達センター、なかよし教室との連携を図り、個別に対応した指導計画の作成。 ○就学児を対象とした小学校との連携を図る。						
事業の実施状況	○配慮・支援を必要とする児童の個々の成長発達に応じた保育環境及び適切な保育士の配置を行い児童の成長発達を促す保育体制の促進。 対象児童数 令和3年度 9名 加配保育士必要児童 9名 加配保育士 5名 ○個別支援計画の作成およびサービス担当者会議にて児童の情報共有。 ○特別支援連携協議会に出席し小学校との連携を図る。 ○就学期の児童の保育所保育要録の作成及び各小学校への送付。						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○加配保育士の配置を行うことにより児童の安全の確保及び発達支援が図られた。 ○子育て支援及び就労支援が行えた。 ○特別な支援を必要とする児童と他の児童との日常的な交流により、両者の成長発達及び豊かな人間性の育成を図る事が行えた。 ○特別支援教育専門家チームの訪問により、個々の成長に合わせた支援に取り組み就学に向けた連携を図ることができた。
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後組みの	今後の課題 ○特別な支援を必要とする児童の健全な社会性の発達を促進及び特別支援保育の推進。 ○保育者の特別な支援保育に関する知識、技能等研修機会や研修内容の充実。 ○児童発達支援センター等、関係機関との連携の強化。 ○就学期児童の関係機関との情報共有及び連携の強化。						
	改善策 ○特別な支援保育を必要とする児童の幼児教育的ニーズの把握を行う。 ○保護者及び関係機関との情報共有や連携の強化し指導や支援の充実を図る。 ○教育・保育の質の充実を図り、特別支援保育に取り組む体制の構築及び、所内外への計画的な研修を図る。 ○「個別支援計画」等作成・活用を図り、保護者、関係機関との情報共有と連携の強化を図る。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	文化財保護啓蒙・普及活動						
事業の目的・概要	○市内外の文化財、史跡、博物館見学など文化財保護のための普及・啓発活動を推進する。 ○郷土に伝承された民俗芸能を保護し、その活動の奨励に努める。 ○民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用を図る。	事業年度	開始	終了			
			昭和43年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			1,697	1,586	2,084	1,266	2,105
前年度の課題	○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援の継続。 ○郷土芸能伝習館の計画的な施設整備。 ○市民の財産である文化財の保存・継承・活用の推進。						
当該年度の目標	○郷土芸能保存団体会員の確保と後継者の育成。 ・団体の活動状況を当センターホームページや広報等で随時情報発信し、活動を支援する。 ○富良野市文化財保護審議会を開催し、文化財のリストアップを行う。 ○リストアップした文化財の調査活動を進める。						
事業の実施状況	○富良野市文化財保護審議会の開催 審議委員5名委嘱。6月30日、8月19日、11月10日の3回開催。 ○富良野市文化財リストの作成 185件の文化財をリストアップ。 ○文化財見学会「ふらの文化財めぐり～戦争遺産を掘り起こす」10/2 参加者8名 ○埋蔵文化財保護のための事前協議等。 所在調査1件(北の峰地区)、慎重工事1件、建設工事等に関わる問合せ6件 ○市指定文化財の保護とパトロール 「富良野獅子舞」「北海道中央経緯度観測標」 「北海道大学第八農場富良野成墾記念碑」「北海道大学第八農場山部成墾記念碑」 ○郷土芸能保存団体の活動支援 市費補助金の交付。 富良野獅子舞保存会 836千円、富良野弥栄太鼓保存会 344千円、山部獅子舞保存会 72千円 ○郷土芸能伝習館の効果的活用(指定管理期間:令和3年4月1日～令和8年3月31日) 指定管理者である富良野市郷土芸能伝習館運営委員会による円滑、効果的な管理運営 ○蒸気機関車D51フラヌイ号の維持管理(委託料819千円)。						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	B	B	B	A	A	○文化財保護審議会を開催して、185件を数える本市の文化財リストを作成し、中期的な調査計画を立案することができた。また勇振川温水ため池の登録有形文化財登録のための申請書を文化庁へ提出することができた。 ○富良野獅子舞保存会の痛んだ獅子頭を更新するため、補助を行い活動の維持・継承に努めた。 ○富良野彌栄太鼓保存会少年部の全国大会出場のため、支援に努めるとともに、令和4年度予定の同会50周年記念事業準備に協力し、継続的な活動の支援を行った。
今後取り組み	今後の課題						
	○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援の継続。 ○郷土芸能伝習館の計画的な施設整備。 ○市民の財産である文化財の保存・継承・活用の推進。						
今後取り組み	改善策						
	○郷土芸能保存団体会員の確保と後継者の育成。 ・団体の要望聞き取りを行うなど連携を深め、活動を支援する。 ・団体の活動状況を生涯学習センターホームページや広報等で随時情報発信する。 ○郷土芸能伝習館の施設整備を行い、利用団体の円滑な活動を推進する。 ○文化財保護審議会や関係団体等と連携しながら、文化財の調査に努めるとともに、登録・指定による、まちづくりへの活用も視野に入れた適切な保存・活用策を推進する。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	博物館活動推進事業						
事業の目的・概要	本市の自然、歴史、文化についての調査研究、資料の収集展示保存、啓蒙普及等の博物館活動を推進する。	事業年度	開始	終了			
			昭和43年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			1,084	1,172	1,094	987	1,049
前年度の課題	<p>○郷土の自然や文化財を地域資源として調査研究し、展示や学習資料の作成等とおして成果の教育普及に努める。</p> <p>○博物館報告を継続的に発行し、調査研究活動によって得られた知見の公開、蓄積を図る。</p> <p>○美術系の講座や展示は協力講師や開催内容の多様化に引き続き取り組み、より多くの市民が身近に美術の楽しさを感じることができる事業を企画する。</p>						
当該年度の目標	<p>○自然史や郷土史の研究団体等との連携協力を深め、調査研究活動を継続して実施する。</p> <p>○博物館事業への協力者やボランティアの発掘に努める。</p>						
事業の実施状況	<p>○特別展・企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富良野アートギャラリー絵画展「白江正夫展」4/14-5/15 513人 ・第39回特別展「アンモナイトの不思議」7/10-9/5 2,716人 ・巡回展資料提供「森を支えるきのこ」(道北地区博物館等連絡協議会) <p>○史跡見学会「魅力再発見!レトロ文化財めぐり」 10/2 8人</p> <p>○美術ワークショップ「アートを楽しもう!~オリジナルのバズルを作ろう~」 11/3 10人</p> <p>○保育所・小中学校等の学習支援・出前講座</p> <p>○博物館見学4件・出前講座13件</p> <p>○研修依頼(学校関係以外)対応3件</p> <p>○発行物 「富良野市博物館報告」第3号・「ミュージアムレター」Vol.35・36</p> <p>○資料収集・登録</p> <p>収蔵庫内の資料を台帳と突き合わせて整理した収蔵済みの未登録資料と2020年度以降の新規受入資料の一部を合せ、計約1200点を新たに登録した。また、今年度は新規に26件の寄贈があり約250点を受け入れた。</p>						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
今後組の取組み	今後の課題						
	<p>○郷土の自然や文化財への理解と関心の拡大</p> <p>○博物館への関心の拡大と利用促進</p> <p>○生活や人生を豊かにし得る美術というものに対する関心の向上</p>						
今後組の取組み	改善策						
	<p>○郷土の自然や文化財を地域資源として調査研究し、展示や学習資料の作成等とおして成果の教育普及に努める。特に把握が進んだ収蔵資料(主に民具など)を活かし、展示や講座で公開すると共に、不明な資料情報の収集を進める。</p> <p>○引き続き『富良野市博物館報告』の発行により市民の調査研究活動の知見の公開、蓄積を図る。</p> <p>○美術系の講座や展示は協力講師や開催内容の多様化に引き続き取り組み、より多くの市民が身近に美術の楽しさを感じることができる事業を企画する。</p> <p>○博物館の知名度を上げ、特に学校教員の方に広く利用してもらうため、ウェブサイトの充実などの情報発信を強化する。</p>						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	自然体験・環境学習事業						
事業の目的・概要	○自然や環境への理解を深める取組を推進する。 ○自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業年度	開始	終了			
			昭和51年度	継続			
事業の目的・概要	○自然や環境への理解を深める取組を推進する。 ○自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			博物館活動推進事業に包含				
前年度の課題	○市民に身近な自然を改めて認識いただける自然体験企画の実施。 ○小中学生等若年層にも参加いただけるようなプログラム構成の検討。 ○身近な自然について調査活動を継続し、保全と活用のための情報を蓄積する。 ○関係諸機関や市民団体等の協力を得ながら自然体験活動や調査研究活動を推進していく。 ○学校や地域等での出前講座の活用を図る。						
当該年度の目標	○市民参加型の自然体験活動をとおして、自然に興味関心を寄せる人材の発掘と育成に努める。 ○地域の自然環境の変化を知り、将来的な保全と活用を図るために、身近な自然について調査活動を継続的に行い、今後の普及活動につなげていく。具体的には、「鳥沼公園の乾燥化対策」「外来種の侵入状況の情報収集(オオハンゴンソウ・アズマヒキガエル)」を進める。						
事業の実施状況	○自然観察会「富良野の自然に親しむ会」全5回 延べ69人 ○自然観察会「朝活!博物館講座」全2回 延べ12人 ○ワークショップ「イカの解剖体験」8/14 15人 ○太陽の里ホテルの里づくり事業 ヘイケボタル生息数調査・自然観察会(上記) ○自然環境保全活動 ・外来種対策事業「プロジェクトO(オハゴンソウ)」(外来植物の抜き取りなど)全2回 34人 ・山川草木を育てる集い植樹祭(清水山) ・鳥沼公園環境調査(定点撮影・地下水位調査) ○遊々の森「太陽の里ふれあいの森」自然観察コースの活用・整備(上川南部森林管理署との協定) ○神社山自然観察路一般公開の共催(東京大学北海道演習林との交流に関する協定) ・森林学習サポーターによるガイド協力						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○郷土の身近な自然を題材として自然体験活動を実施することで、市民の環境教育に寄与した。 ○自然観察会を継続することで、身近な自然の多様性や、人と自然のかかわりについて考える機会となっている。R3年度は鳥沼公園・ハンノキ林に生じた裸地で苗木を植樹した。
	達成度	A	A	A	A	A	
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○郷土の身近な自然を題材として自然体験活動を実施することで、市民の環境教育に寄与した。 ○自然観察会を継続することで、身近な自然の多様性や、人と自然のかかわりについて考える機会となっている。R3年度は鳥沼公園・ハンノキ林に生じた裸地で苗木を植樹した。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題 ○身近な自然に対する市民の興味や関心の喚起 ○若年層の参加を促進し、壮年層なども敷居を感じず参加できるような展示・講座の企画。 ○ガイド等指導体制の拡充。						
	改善策 ○市民に身近な自然を改めて認識いただける自然体験企画の実施。 ○早朝の自然観察会など壮年層の参加が増えるようなプログラム構成の検討。 ○身近な自然について調査活動を継続し、保全と活用のための情報を蓄積すると共に、保全計画の実施に関係諸機関や博物館協力者と連携して検討する。 ○関係諸機関や市民団体等の協力を得ながら自然体験活動や調査研究活動を推進していく。 ○学校や地域等での出前講座の活用を図る。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	森林環境教育	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	森林学習プログラム推進事業						
事業の目的・概要	○東京大学北海道演習林の恵まれた森林資源を活用し市内小中学生を対象に森林環境教育を推進する。 ○森林学習プログラムの構築と森林ガイドの発掘・育成を東大演習林の監修の下、北海道教育大学旭川校の協力を得て行う。 ※いきいきふるさと推進事業助成金活用事業	事業年度	開始	終了			
			平成27年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			3,158	3,372	3,704	3,336	4,267
前年度の課題	○北海道教育大学旭川校と連携し、小学校大規模校向けプログラムを作成する。 ○サポーター認定制度によりサポーターを広く募集し、活動の継続と拡大に努める。 ○事業運営をより良く改善するための運営協議会を学校・演習林・教育大学・サポーター等関係者により開催する。						
当該年度の目標	○令和3年度は8校(小学7、中学1)でプログラムを実践する。 ○関係者と連携協力し、プログラムの向上、サポーターのスキルアップ、安全管理の徹底を図る。 ○ふらの木の図鑑を活用したプログラムの展開 ○教職員との意見交換を踏まえた各校オリジナルのプログラムづくり ○認定サポーターによる授業展開(サポーターの役割を明確化)						
事業の実施状況	○プログラムの開発 ・東京大学北海道演習林、北海道教育大学旭川校、学識経験者等の協力のもとプログラムを作成し、実践をとおして改善を加える ○プログラムの実践 8校 延181名参加 サポーター等延61人参加 ・扇山小学校3年生 6/15, 18 38名 ・富良野小学校4年生6/22, 25 59名 ・東小学校3年生6/29, 7. 2 36名 ・樹海小学校3・4年生 7/13, 16, 10/19, 22 7名 ・麓郷小学校5・6年生 8/24, 27 10名 ・山部小学校3・4年生 8/31, 9/2 11名 ・布礼別小学校5・6年生 9/8, 24 5名 ・樹海中学校1・2年生 9/14 8名 ○森林学習サポーター認定研修 ・4/23, 5/14, 5/28, 8/4の計4日間開催 認定試験10/29, 11/16実施 13名認定 ・その他研修会やサポーターの集い 4/5, 11/19, 12/3, 3/4, 3/11の計5回開催 ○第3回森林学習プログラム運営協議会 2/22 29名 ○フィールドの環境整備(危険木処理、歩道草刈り、簡易トイレ設置) ○「ふらの木の図鑑」の2版印刷と配布・販売 ○神社山自然観察路におけるヒグマの行動観察・記録						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	B	B	B	A	A	○各学校と協議・連携して、各校のねらいに応じたプログラム運営が形になりつつある。 ○コロナ禍の中、各学校と連携して感染症対策を徹底し、サポーターの協力と理解も得ながら対象全校のプログラムを開催することができた。 ○認定研修に参加した15名のうち13名が認定され、サポーターが倍増し、活動の幅が広がった。
今後の取り組み	今後の課題						
	○プログラム構成など内容の充実化 ○子どもたちの活動を充実させるための体制の充実化 ○森林学習サポーターの定着とスキルアップ、またその機会の充実 ○フィールドの特徴を生かした学びの実践						
	改善策						
	○関係機関等と連携協力したプログラムの充実化。 ○運営協議会により関係者相互の認識と情報の共有を推進する。 ○森林学習サポーター認定者の増加を図るとともに、スキルアップと意欲を継続させるための機会を設ける。 ○教職員やサポーターと意見交換を行いながら、プログラムの内容を精査するとともに、活動後にも学習成果を活用して理解を深められるよう教職員と情報共有を図る。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書館運営管理事業						
事業の目的・概要	<p>【目的】図書館の維持管理と市民に対する読書活動等を通じた生涯学習の場の提供。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館の運営。 ○図書館利用者団体等への施設貸出。 ○図書館利用促進のためのイベント主催。 ○インターネット利用端末の設置。 ○図書館情報の提供。 	事業年度	開始	終了			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展。 ○図書館情報システムの機能活用。 ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営。 ○利用者サービスのさらなる向上のため、開館日数と開館時間の見直し検討。 ○図書館に足を運ぶことが困難な市民への対応。 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示やチラシ、図書館ホームページ、ラジオ広報、フェイスブック等を活用して、地域住民への情報提供を行う。 ○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。 ○開館日数増と開館時間延長の試行を継続実施する。 ○施設入所者等へのサービスを検討する。 ○窓口業務の省力化とともにサービスの向上を検討する。 						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館の運営 開館日数：257日 コロナ禍による休館日数 30日（前年18日） 利用登録人数：15,536名 貸出人数：21,641名 貸出冊数：113,736冊（令和4年2月より漫画の貸出開始 実績707冊） 図書館来場者の貸出数は前年同冊、学校図書や相互分が休校、休館等により減少した。 ボランティア登録人数34名 ○利用状況 多目的ホール及びサークル室：147回延1,703名 ○図書館エレベーター機能維持工事 748,000円 ○図書館パネルヒーター取替工事 2回 計1,815,000円 ○産業廃棄物処理委託 2回 ○開館日数増と開館時間延長の試行 開館日数：月曜日が「国民の祝日に関する法律に規定する休日」の場合も翌日を開館4日間 開館時間：毎週水曜日を19時まで開館 44日間（44時間） ○いきいきサポートボックス（3施設）50冊×2施設＝計100冊 						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	<p>達成度・効果度の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登録人数は 332人増加し、生涯学習の場として市民参加・ボランティアとの協働による施設の有効活用が進んでいる。 ◆試行開館日は、平均で貸出人数74人（火曜日平均の96.0%）、貸出冊数421冊（同109.9%）の利用があった。時間延長時の平均貸出人数6.6人（水曜日の他の時間平均の67.1%）、貸出冊数33.9冊（70.1%）の利用があった。 ○コロナ禍での臨時休館も実施したが、予約貸出を行うとともに、感染予防対策を講じ運営を行うことができた。○図書館個人貸出数は前年同じであるが、学校図書、相互貸出が減少したため総貸出数は減少した。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展。 ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営。 ○利用者サービスのさらなる向上のため、各種検討。 ○図書館に足を運ぶことが困難な市民への図書サービスの充実。 ○図書館機能の他、新庁舎開庁後の社会教育施設としての機能充実の検討。 						
	<p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示やチラシ、図書館ホームページ、ラジオ広報、フェイスブック等を活用して、地域住民への情報提供を行う。 ○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。 ○開館日数増試行の検証をする。 ○施設入所者等へのサービスを継続する。 ○図書館業務の省力化とともに多様なサービスの在り方を検討する。 						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書資料整備事業						
事業の目的・概要	【目的】 地域住民の生涯学習の基礎となる図書資料の収集・提供。 【概要】 ○社会情勢・利用者ニーズ・地域特性に対応した新刊書・新聞雑誌等の選択と収集。 ○視聴覚ライブラリー資料の収集。 (富良野地区広域教育圏振興協議会)	事業年度	開始		終了		
			昭和47年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			5,702	5,704	5,704	5,658	5,914
前年度の課題	○新鮮で適切な資料構成の維持。 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化。 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理。						
当該年度の目標	○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○録音図書や大活字本など、高齢者や障がい者に対応した図書資料の整備を進める。						
事業の実施状況	○登録購入書籍：一般書1,808冊、児童書1,303冊、雑誌995冊、漫画160冊、新聞8紙 ○除籍数：7,944冊 ○利用者の学習及び調査研究のための参考図書や専門的資料の収集 ○地域の郷土資料及び行政資料の収集による、地域の特色ある知的財産の蓄積 ○CDとDVDの館内視聴 ○北海道新聞データベースの提供 ○視聴覚ライブラリー：DVDソフト15本購入(富良野地区広域教育圏振興協議会) ○ 老朽化ビデオテープ除籍1,136本 ○録音図書：所蔵数570本、大活字本：所蔵795冊						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○社会情勢・利用者ニーズを把握し、様々な図書情報を活用する中で、適切に新刊書を選択と収集を行っている。 ○録音図書や映像資料の館内視聴や、北海道新聞データベースの閲覧サービスなど、図書以外のサービス提供も行っている。 ○児童書及び高齢者用図書の購入を重視した。 ○除籍処理の推進と適正管理の実施。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○新鮮で魅力ある資料構成の維持 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理 ○利用媒体の変化、時代の変化にともなう視聴覚ライブラリー資料の見直し検討						
今後の取り組み	改 善 策						
	○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○録音図書や大活字本など、高齢者や障がい者に対応した図書資料の整備を進める。						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	読書活動推進事業						
事業の目的・概要	【目的】 市民の生涯学習の基礎となる図書資料及び図書情報の提供 【概要】 ○図書資料情報の多面的な提供と積極的な貸出 ○相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
		-	-	-	-	-	
前年度の課題	○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
当該年度の目標	○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。						
事業の実施状況	○インターネット図書検索システム、館内テーマ展示、図書館だより、広報紙による情報提供 ○リクエスト数：3,838冊（自館窓口2,527冊＋自館web886冊＋他館借受425冊） ○相互貸借：他図書館からの借受425冊 他図書館への貸出334冊						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○利用登録者数は15,536人と微増であるが、市民一人当たりの貸出冊数は、5.23冊と下降傾向にある。(学校図書・相互貸借分を含む) ○コロナ禍による外出自粛による利用減となったが、自宅でも有意義に過ごすためのアイテムとして貢献できた。 ○リクエスト数の大幅増(前年比161.7%)により市民ニーズに合わせた図書購入ができた ○「どくしょのきろく」発行369件41,531行の利用
	達成度	A	A	B	B	B	
	効果度	A	A	B	A	A	
今後取り組み	今後の課題						
	○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
今後取り組み	改善策						
	○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。 ○読書推進機能の利用を促進する。 ○読書活動推進につながる新たな施策の検討						

令和3年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	子どもの読書推進事業						
事業の目的・概要	【目的】 すべての子どもたちが読書に親しみ、いつでもどこでも読書できる環境づくり 【概要】 ○ブックスタート（乳児7ヶ月相談時） ○ブックスタートプラス（1歳6か月） ○各種おはなし会 ○こどもの図書館まつり ○学校図書館支援	事業年度	開始 昭和47年度	終了 継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29 865	H30 865	R1 877	R2 813	R3 762
前年度の課題	○「子どもの読書推進プラン【第3次計画】」の推進。 ・家庭における読書活動の啓蒙 ・地域・図書館における読書活動の推進 ・学校図書館への支援						
当該年度の目標	○ブックスタートやブックスタートプラスなど、家庭における読書活動の推進事業を継続する。 ○図書館情報システム更新による新たな子どもの読書推進サービスの提供を行う。 ○学校図書館環境の向上に向けた活動を継続する。 ○学校司書との連携を強化し、サポート体制を構築する。						
事業の実施状況	○ブックスタート：12回135名配布 ○ブックスタートプラス：62名配布（来館配布） ○土曜日のおはなし会：10回144名（子ども56名＋保護者47名＋ボランティア41名）参加 ○どんぐりのおはなし会：20回370名（子ども186名＋保護者115名＋ボランティア69名）参加 ○学校図書館支援 ・ブックトラック事業 小学校7校210冊、中学校3校90冊、児童書団体相互貸借貸出5,972冊、 学校図書館サポートボックス3校300冊 （コロナ禍による学校休校により団体相互貸借貸出 ▲1,351冊） ○児童館巡回貸出：5館50冊○児童館巡回貸出：5館50冊 ○学習スペースの設置						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 ○児童書の個人貸出冊数47,634冊、幼児・児童一人当たりの児童書直接貸出冊数18.8冊（平成26年度全道平均9.2冊）と高い水準を保っており、前年対比+1.0冊であった。 ○0～6歳の登録者511名（前年度比39名増）
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後組の取組	今 後 の 課 題						
	○「子どもの読書推進プラン【第3次計画】」の推進。 ・家庭における読書活動の推進。 ・地域・学校等における読書活動と読書環境整備の推進。 ・学校図書館への支援。 ・コロナ対策予防を講じた、読み聞かせ会の継続、ICTを活用した取組検討。						
今後組の取組	改 善 策						
	○ブックスタートやブックスタートプラスなど、家庭における読書活動の推進事業を継続する。 ○学校図書館の環境向上に向けた活動を継続する。 ○学校司書との連携を図り、子どもの読書活動を推進する。						

令和3年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター					
事務事業名	安全安心な学校給食の提供							
事業の目的・概要	衛生管理の徹底を図り、経年劣化した調理機器等の更新など施設設備の整備を進めながら、食中毒の発生や異物混入等を防止し、安全・安心で美味しい学校給食の安定供給に努める。	事業年度	開 始		終 了			
			H29		H30			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3			
			264,900	241,589	233,909	242,111	268,273	
前年度の課題	○施設はH11年供用開始のため各所に経年劣化が見られ、未更新の大型機械及び厨房調理機器等も耐用年数を経過している。 突発的な故障は給食提供中止を招くため、今後も計画的な設備機器の改修、更新を進める必要がある。							
当該年度の目標	○安全・安心で美味しい学校給食の推進。 ○安定した給食の供給。 ○厨房内調理機器等の更新（グランドケトル更新 2台）。							
事業の実施状況	<p>新型コロナウイルス感染防止対策のため、例年実施の各種研修(安全衛生管理指導(調理員対象)、衛生管理研修会)を令和3年度も中止せざる負えない状況となった。一方、感染予防対策として職員への周知をはじめ、常時石鹸とアルコールでの手指の洗浄と消毒並びに施設内の手が触れる箇所への塩素消毒を実施し、感染防止の徹底を図り、安全安心な学校給食の提供に努めた。</p> <p>○富良野市・中富良野町・占冠村の小学校14校、中学校7校、義務教育学校1校に年間195回を基準として米飯週3回、パン・麺各週1回の給食を提供</p> <p>○「学校給食衛生管理の基準」を遵守した学校給食センターの運営</p> <p>○学校給食献立委員会による献立内容の改善と協議(6回開催(内1回書面開催))</p> <p>○全職員を対象に安全衛生管理指導の書面での実施(3月 食品衛生管理検査結果に基づく指導 作成者:栄養教諭)</p> <p>○HPを活用した給食献立表及び使用食材産地の公表、給食だよりの作成</p> <p>○施設設備及び調理機器等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランドケトル配管修繕 1台 394,900円 ・消毒保管庫制御ユニット交換 2台 732,600円 ・空調機部品交換 770,000円 ・自動軟水装置イオン樹脂、ポンプ[※]4台交換 1,327,480円 ・廃水処理施設修繕 1,370,600円 ・その他修繕(配管、ポンプ[※]部品、グランドケトル蓋など) 1,237,247円 計5,832,827円 <p>○備品等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランドケトル 2台 28,160,000円 ・洗濯機 1台 81,310円 							
評価			H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○厨房調理機器、給食供給用備品の経年劣化の状況を的確に把握し、優先順位を決め、計画的な更新及び改修を進め、継続して安全で安心な学校給食の提供が図られた。	
評価	効果度	A	A	A	A	A	○経費削減のため極力部品交換にて対応している。 ○新型コロナウイルス感染対策をはじめノロウイルスなどの感染症対策を実施し、安全安心な学校給食の提供が図られた。	
今後の取り組み	今後の課題							
	○供用開始から使用している大型機械及び厨房調理機器等もあり耐用年数を経過している。 著しい劣化は、故障や破損に繋がり給食提供中止や調理員の事故を招くため、今後も計画的な設備機器の改修、更新を進める必要があります。							
今後の取り組み	改善策							
	○安定した給食提供のため、施設設備、大型機器等の状態を把握し、計画的な更新を進めていきます。(R4:スプーン洗浄機付食器浸漬装置更新 1台、下処理プレハブ冷蔵庫室外機ユニット交換 1台、厨房内高所照明器具LED交換 19灯、ライスボイラー 1台)							

令和3年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター					
事務事業名	「富良野ふるさと給食」の実施							
事業の目的・概要	地元でとれた旬の食材や特産品を子どもたちに伝え、食べ物が身近になることで「地産地消」の意味や意義を学習し、食の大切さや食材の生産・加工・流通を学ぶ機会とする。 ・ 地場及び道産の食材 9割使用 ・ 学校農園野菜の活用 ・ 地産地消の啓発	事業年度	開 始		終 了			
			平成16年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3	
—	—		—	—	—			
前年度の課題	○新たな旬の使用食材の検討確保と提供者の開拓。 ○生産者の顔が見える給食提供のため、地元産食材使用の更なる情報提供方法の検討。							
当該年度の目標	○食の大切さや感謝する心を育む食育の推進。 ○地産地消の推進。							
事業の実施状況	○ふるさと給食：9月8日、9日実施 ○ふるさと食材の日：5月～2月（9月を除く）毎月1回実施（ふらの地域で収穫している旬の食材や加工品を使用した一品を提供） ○自治体広報による取材及び記事掲載 ○ふらの地域の生産者、企業、学校農園等の協力により地元並びに道産食材を確保 ○「給食だより号外」による旬の食材紹介、地産地消を啓発 ○ふるさと給食特別号「第18回富良野ふるさと給食 ー地元のおいしさ大発見！ー」発行 ○ふるさと給食、ふるさと食材の日に使用する食材の生産者の動画を作成し食育へ活用。 ○ふるさと給食・ふるさと食材について全学校へアンケート調査を実施 ※特徴的な回答 ・ 地域の食材を存分に感じられる献立だったと思います。 ・ 地域の旬のものを食べられることに感謝の気持ちを持つことや、地産地消の良さについて指導するのに効果的でした。 ・ 内容が子どもたちにとって読みやすく楽しいものになっておりいつも活用している。 ・ 樹海中のカボチャパイが素晴らしかった。子どもたちが栽培していることもあり特に興味を持っていた。 ・ ふるさと食材は残さず食べようという意識が子どもたちに見受けられる。 ・ 生産者の顔や声が届くということはとても素敵だと思います。							
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	A		○ふるさと給食では、時期を9月の収穫時期に設定することで、地域の様々な野菜が活用でき、農業への理解と地産地消の推進を図ることができた。 ○ふるさと食材の日では、毎月1回設定しているため、旬の食材を積極的に取り入れることができ、素材の食感や味を実感できたと好評であった。 ○給食だより特別号では、生産者の顔が見えることからより身近に感じられて良かったとの評価であった。
	効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	○新たな旬の使用食材の検討確保と提供者の開拓。 ○生産者の動画を作成したことにより、子どもたちが地産地消について興味関心を持てるようになってきていることから、次年度に向けても継続していく必要がある。							
	改 善 策							
○協力農家等の情報収集により、生産者と児童生徒との交流機会を図り「顔が見える学校給食」を実施し、地域農業への理解と地産地消の意義を学ぶ機会としての充実を図る。 ○学校行事などで給食が「ふるさと給食」が喫食できないことがないよう日程の検討を行う。 ○給食だよりについて、B5版からA4版の拡大やカラー印刷などにより、子どもたちがより見やすく興味を持てるよう配慮する。								

令和3年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	食に関する指導の推進						
事業の目的・概要	学校給食を「生きた教材」として活用し、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるようにする。また、食事の楽しさや喜び、食物の生産等にかかわる人々への感謝する気持ちを持つなど豊かな心を育成する。 ・栄養教諭による食の指導 （配置校3校・未配置校19校）	事業年度	開始	終了			
			継続				
前年度の課題	○食育の重要性について周知するとともに、栄養教諭及び管理栄養士の専門性を活かし、各学校の要望に沿った食の指導を進める必要がある。 ○食べ残しを少なくすることは重要ではあるが、和洋中の調理、各種食材の活用、地域の食文化を伝えるなど多様な献立を導入することも重要。そのため、リクエストメニューを取り入れるなどを行い、食べ残しを少なくする取り組みを進める。 ○各学校の学級担任、養護教諭、給食担当職員と連携し、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。	事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
			—	—	—	—	—
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けると共に、感謝する気持ちなど豊かな気持ちを身に付ける。 ○食べ残しを少なくする取り組み。						
事業の実施状況	○3名の栄養教諭による食の指導 ・食育授業実施校数 18校（小学校13校、中学校4校、義務教育学校1校） ・主な食育授業の内容 配置校 富良野小学校 ～「朝ごはん」「給食ができるまで」その他給食委員会活動 東小学校 ～「食生活を見直そう」、「食べ物の3つのはたらきを知ろう」その他保健委員会活動 富良野西中学校～「給食ができるまでを知ろう」その他委員会活動 ・未配置校 19校の内15校で指導を実施（扇山小、鳥沼小、布部小、布礼別小、麓郷小、山部小、樹海小、中富小、西中小、旭中小、占冠中央小、布部中、麓郷中、樹海中、トマム学校） ○保護者向け講話～1校 布礼別小 ○年間指導計画作成及び給食だより発行 ○年間指導計画に基づく給食指導要領作成 ○献立委員会等との連携による献立の見直し実施 ○社会見学・給食時間における調理員の派遣～新型コロナウイルス感染防止のため中止						
評価			H29	H30	R1	R2	R3
	達成度	A	A	A	A	A	A
		達成度・効果度の検証					○未配置校へは、指導依頼があった全ての学校の要望に応え、児童生徒へ指導を行った。 ○学級担任、養護教諭、給食担当教職員と連携し、効果的な指導体制の確保につながった。
効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○食育の重要性について周知するとともに、栄養教諭及び管理栄養士の専門性を活かし、各学校の要望に沿った食の指導を進めるとともに、学校給食を「生きた教材」として食事の重要性を伝えていく必要がある。特に朝食の必要性など家庭での食事の重要性について伝えていくことが必要である。 ○食べ残しを少なくすることは重要ではあるが、和洋中の調理、各種食材の活用、地域の食文化、行事食を伝えるなど多様な献立を導入することも重要。地元食材やリクエストメニューを取り入れながら食に対する興味を持ってもらい、正しい知識や食習慣を身に着ける取り組みを進める。 ○各学校の学級担任、養護教諭、給食担当職員と連携し、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。 ○令和5年度以降栄養教諭の配置が1名となることから指導内容を調整する必要がある。						
	改 善 策						
○学級担任、養護教諭、給食担当教職員と連携を図り、食に関する指導を推進する。 ○指導内容を学年で固定することや、指導学年を各学校で精査してもらうなど、各学校や教育委員会と調整をしながら対応する。							

令和3年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター																																						
事務事業名	学校給食費の徴収																																								
事業の目的・概要	給食センター、学校、保護者の連携・協力により、現金徴収及び口座引き落とし等を利用し、学校給食費を徴収する。給食費の未納防止に努め、円滑な学校給食の運営を図る。	事業年度	開始	終了																																					
			継続																																						
前年度の課題	○構成市町村の教育委員会・学校・家庭と連携を図り、早め早めの連絡、督促等により未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。 ○給食費の徴収について、文科省が「自治体が自らの業務として責任を負うことが望ましい」方針を決め、教職員の働き方改革一環として取り上げられている。今後の国等からの指導の基づき対応を検討する。	事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3																																		
			—	—	—	—	—																																		
当該年度の目標	○給食費収納率の向上及び滞納額の圧縮。																																								
事業の実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>調定額(円)</th> <th>収入済額(円)</th> <th>未収入額(円)</th> <th>収納率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3年度給食費</td> <td>131,646,775</td> <td>131,594,595</td> <td>52,180</td> <td>99.96</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">内訳</td> <td>富良野</td> <td>99,643,830</td> <td>99,591,650</td> <td>52,180</td> <td>99.95</td> </tr> <tr> <td>中富良野</td> <td>26,957,430</td> <td>26,957,430</td> <td>0</td> <td>100.00</td> </tr> <tr> <td>占冠</td> <td>5,045,515</td> <td>5,045,515</td> <td>0</td> <td>100.00</td> </tr> <tr> <td>過年度給食費</td> <td>497,860</td> <td>28,865</td> <td>468,995</td> <td>5.80</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>132,144,635</td> <td>131,623,460</td> <td>521,175</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					区分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)	3年度給食費	131,646,775	131,594,595	52,180	99.96	内訳	富良野	99,643,830	99,591,650	52,180	99.95	中富良野	26,957,430	26,957,430	0	100.00	占冠	5,045,515	5,045,515	0	100.00	過年度給食費	497,860	28,865	468,995	5.80	合計	132,144,635	131,623,460	521,175	—
	区分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)																																				
3年度給食費	131,646,775	131,594,595	52,180	99.96																																					
内訳	富良野	99,643,830	99,591,650	52,180	99.95																																				
	中富良野	26,957,430	26,957,430	0	100.00																																				
	占冠	5,045,515	5,045,515	0	100.00																																				
過年度給食費	497,860	28,865	468,995	5.80																																					
合計	132,144,635	131,623,460	521,175	—																																					
「児童手当」からの天引き申出額 0件																																									
評価	達成度・効果度の検証																																								
	達成度	A	A	A	A	A	○学校・家庭と連携を図り、高い徴収率が維持できた。 ○滞納分は電話や文書督促を行い滞納解消に努めた。 ○給食費の徴収について学校徴収から自治体徴収へ移行するための協議を始めた。																																		
今後の取り組み	今後の課題																																								
	○構成市町村の教育委員会・学校・家庭と連携を図り、早め早めの連絡、督促等により未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。 ○給食費の徴収について、文科省が「自治体が自らの業務として責任を負うことが望ましい」方針を定めており、教職員の働き方改革の一環として取り上げられていることから、引き続き学校から自治体への移行に向けた具体的な協議を行う。																																								
今後の取り組み	改善策																																								
	○滞納家庭においては、学校及び構成教育委員会との連携により家庭状況等を把握し、児童手当からの引き落としなどを検討する。 ○滞納給食費については、富良野市が債権管理条例を参考にしながら不納欠損処理について具体的に検討する。																																								

令和3年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	食物アレルギーの対応						
事業の目的・概要	食物アレルギーを有する児童生徒が、他の児童生徒と同様に学校給食を楽しむことができるよう安全性を確保する。	事業年度	開始		終了		
			平成23年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H29	H30	R1	R2	R3
—	—		—	—	—		
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会と連携した食物アレルギー対応への情報共有。 ○学校、保護者、給食センターでの食物アレルギーに対する共通認識と情報の共有。 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○食物アレルギーへの正しい理解と、学校、保護者との情報共有。 ○安全安心な学校給食の提供。 						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会と連携して、新入学予定児童の検診時に保護者と面談。 ○学校・保護者の要望に応じて、栄養教諭が面談し情報を共有。 ○献立に使用する食材の詳細について記載するとともに、アレルゲンとなる食材をマーキング表示し、詳細な献立表を学校及び該当する児童生徒の家庭へ事前に配布。それを基に保護者や担任の指示若しくは各自の判断で原因食材を除去する。 ○除去が困難な場合は、代替食として家庭から弁当持参。 ○牛乳アレルギー及び乳糖不耐症の児童生徒及び教職員(H29年度より)の希望者に対し、代替飲料として麦茶を提供。誤配防止のため、学校名、学年、該当者氏名を貼付し配送。 ・令和3年度末代替飲料提供者数 26名(小学生12名、中学生8名、教職員6名) ○令和3年12月より行事食に提供されるデザートなどの一食包装物について試験的に代替食を提供。 						
評価		H29	H30	R1	R2	R3	達成度・効果度の検証 <ul style="list-style-type: none"> ○新入学予定児童の保護者と面談しセンターでの対応について一定程度理解してもらうことができた。 ○詳細な献立表の配布により、各自が除去すべき原因食品を把握することができた。 ○試験的に行事食の日に、一食包装物の代替食の提供を実施することができた。
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会と連携した食物アレルギー対応への情報共有。 ○学校、保護者、給食センターでの食物アレルギーに対する共通認識と情報の共有。 ○現施設では詳細資料の配布や代替飲料の提供などに限られるが、今後も新たな取組について検討することが必要である。ただし、命に係わることでもあるため安易な取り組みができないため各教育委員会とも協議しながら慎重に検討を進める必要がある。 						
	改善策						
<ul style="list-style-type: none"> ○食物アレルギーを有する児童生徒の的確な把握。 ○次年度以降も引き続き行事食を中心に一食包装物の代替食の提供を試験的に行う。 							



IV 令和3年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめたものです。

なお、自己評価値は、評価基準を「4:実践が進み効果を上げている 3:実践が進んでいる 2:実践につとめている 1:努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

観 点	自己評価(平均) ()内は前年度
-----	----------------------

《評価領域：組織運営の状況》

＜項目：学校の組織運営の状況＞		
1	職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	3.8(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議のあるべき姿を指導し、経営参画意識が向上するよう改善を進めた。 ・職員会議の定例化及び朝の打合せを廃止し、必要に応じて開催している。情報の共有が必要な案件については、クラウドで対応しているが全く問題ない。 ・職員会議年間14回のうち、書面会議を5回設定し、会議回数の縮小化を図っている。また、各係の提案や検討する案件の文書等はすべてクラウド上で管理し、職員会議のペーパーレス化・情報の効率的な共有化を行っている。 ・職員会議は、校長の職務の円滑な執行に資することを目的として機能している。 ・小中部会を統合する方向で、会議回数を現状に即したシステムにシフトできるよう職員会議案の整理を行った。 ・会議資料に次回の議題一覧を提示することにより、各分掌等で見通しをもった計画を立案し分掌内で検討する時間の確保につながった。過年度の反省を踏まえた具体的な改善策が提案され有効に機能した。 ・教育課題への対応等、教職員との共通理解を図ることができた。 ・1週間以上前から議題の確認を行い、各分掌・学年・委員会で十分に議論を重ねて提案されている。組織として提案することで、教職員の参画意識も高まっている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドなどで文章などを管理し、共有などにより効率化していることは理解しますが、会議等を少なくすることで先生方のコミュニケーションが少なくなると危惧します。 ・取組が進んでいると思いますが、評価が前年度より下がっています。効果的な改善をお願いします。 ・各学校で自校の実態を正確に把握し、最善のやり方を工夫し、実施している。大切なことは、時間の無駄を無くすこと共に、児童生徒の学習活動に専念し、学校運営が効果的に実施できることに尽きる。 	
2	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス管理が適切に行われているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に基づき適正な管理が行われるよう指導し、管理職による確認を徹底した。 ・校務連絡票（学校日誌）を活用して、サービス規律の遵守について啓蒙を図っている。 ・休暇、勤務時間等のサービス管理も適切に行われている。 ・サービス規律については、職員会議、朝の打ち合わせ等を活用し研修を設定している。管理についても、適切に行っている。 ・教育目標の設定は市教委の方針や児童・生徒の実態等に基づいて行われ、職員と共通理解を図り学校運営を行っている。 ・サービス管理は、校長の監督の下、適切に行われている。 ・諸帳簿を整理し、タイムカードとの齟齬がないよう日ごろから管理を適切に行っている。 ・法令を遵守し、職務に専念するよう指導ができていた。 ・職員会議や打合せなどの機会を利用し、サービス規律についての研修を適時実施している。 	
評価委員の意見	特になし	

<項目：学校と設置者の連携の状況>		
1	設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「富良野の子どもを育む」ことを教育目標に据え、市立の学校として市の施策の実現に向かうよう意識付けを図った。 ・市教育行政執行方針等をふまえ、年度の重点目標を設定し、保護者・地域と協働した学校運営を行ってきた。 ・教育目標の設定は市教委の方針や児童・生徒の実態等に基づいて行われ、職員と共通理解を図り学校運営を行っている。 ・教育振興基本計画とリンクした経営を行っている。3本の木と大地を教育目標と関連づけることで、絵に描いた餅をなくすことができた。 ・市の教育行政執行方針や第1次富良野市教育振興基本計画に則り、学校や地域の歴史・特性を踏まえて重点目標を定め、常に意識しながら具現化を図り、成果を上げることができた。 ・富良野市教育振興基本計画及び富良野市教育行政執行方針の重点目標に照らして学校教育目標及び年度の重点目標を設定し、教職員の十分な理解のもと教育活動を進めている。 	
評価委員の意見	特になし	
2	学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切に共有しているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・適時適切に情報共有がなされるよう、学校体制の見直しを進めた。 ・児童の安全に関わる情報は、教育委員会に対して迅速適切に提供している。 ・事故、不登校、虐待、いじめ調査、特別支援上配慮が必要な件等、課題解決に向けて学校と設置者とで迅速に情報共有を行ってきた。 ・児童・生徒の状況や安全管理の情報は適切に共有し、教育活動に生かされた。 ・差別偏見の防止・感染拡大の防止など、正確な情報を基に適切な判断・対応ができるよう、各校及び市教委と連携していく。 ・市教育委員会や他校（特に近隣小中学校）との連携を密にし、速やかな情報共有を図っている。併せて、関係施設（児童養護施設）との日常的な情報交流を行っている。 ・児童の状況や安全管理・感染の拡大防止など、情報は適切に共有し、教育活動に生かしている。 ・学校及び児童の状況について逐一情報共有を行い、課題の解決に向け市教委から助言をいただいていた。 ・生徒の状況や安全に関わる情報は、迅速適切に提供し、児童生徒理解・支援シート等も活用しながら、密接な情報交流と共有を行っている。 	
評価委員の意見	特になし	

<項目：目標設定と自己評価の状況>		
1	学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	3.9(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の児童育成指標（ロードマップ）を作成し、教育計画に位置づけた。 ・学校評価の見直しを図り、年度の重点目標との関連をより意識した学校評価になるように努めている。 ・改善の方策と改善計画（ロードマップ）を設定した学校改善プランを策定している。 ・各学期ごとに児童・生徒の状況等を鑑み、中期的な目標設定を行い、改善に努めていた。 ・重点教育目標をもとに各分掌・各係が具体的な方策を立て、学校改善プランにまとめて周知を図ってきた。令和4年度に向けてさらに絞り込む道筋を作った。 ・重点目標達成に向け具体的な施策を講じ、教育活動に生かすことができた。 ・生徒の状況や安全に関わる情報は、迅速適切に提供し、児童生徒理解・支援シート等も活用しながら、密接な情報交流と共有を行っている。 ・計画に基づき、評価を行い、適宜目標の設定や見直しを行っている。 	
評価委員の意見	特になし	

IV 令和3年度 学校第三者評価

	2 自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・評価結果を踏まえて各分掌や学年に改善案を作成させ、職員会議で共有を図った。 ・評価結果の見える化を図り、十分な成果を上げている。 ・自己評価の結果を全職員で確認、検討し、学校運営の改善に努めていた。 ・PDCAサイクルをしっかりと機能させ、組織として結果分析・改善方策の話し合いを行っている。 ・学校教育目標および年度の重点目標に沿った7月期・12月期の全体評価、各行事反省の結果を検討し、課題や改善点を共有し、改善の方策を見だし実践に結びつけることができた。 ・特別委員会で分析し、全教職員で課題と共有し、改善を図っている。 	
評価委員の意見	特になし	
	3 外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者・教職員それぞれに評価指標を統一したアンケートを実施し、総合的な成果と課題を明らかにした。 ・経営方針の説明を丁寧に行うことで、年度の重点目標の共有化が図られている。外部アンケートの記述にも保護者が重点目標を意識している様子が伺える。 ・保護者による学校評価結果、学校関係者評価結果を参考に、職員の自己評価や改善プラン策定の参考にしている。 ・1学期末と2学期末に自己評価と児童・生徒アンケートを行い、保護者や地域アンケート(CSを含めて)を2学期末に実施し、成果と課題、要望等を集約し、各種行事や校務の反省や改善に生かすことができた。 ・学校評価のアンケートを参考にし、子どもの育ちと取組に対する評価を行い、具体的改善策を考え、学校改善プランを更新している。 ・自己評価(全体評価)と併せて保護者アンケート・児童アンケートを実施し、相関性に留意しながら検証を進め、改善策を見出し、意見・要望をもとに必要な事柄は素早く改善を図った。 ・評価指標を統一したアンケートを実施し、具体的改善策を考え、学校改善プランを更新している ・計画的にアンケートを実施し、結果と課題に対する方策を公開するなどして適宜意見を賜り、自己評価の参考にしている。 	
評価委員の意見	特になし	

<項目：学校関係者評価の状況>		
	1 学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか	3.6(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者・教職員それぞれに評価指標を統一したアンケートを実施し、総合的な成果と課題を明らかにした。 ・学校の自己評価の結果を学校関係者評価委員会(学校運営協議会)に提示し、建設的な意見をいただいている。様々なご意見等を真摯に受け止め学校経営に生かしている。 ・自己評価の結果を説明して、学校関係者評価をしてもらっている。 ・自己評価の結果を踏まえて、より客観的に評価をすることができ、課題を明確にすることができた。 ・CSの中で学校評価結果を説明し、CS委員から改善策の妥当さ・適切さについて評価・意見をいただいている。 ・2月に学校関係者評価会議における資料として、自己評価の結果と今後の改善の方向性について提示した。それをもとに、適切に実施することができた。 ・CSにおいて、学校評価結果を検討いただき、学校運営協議会委員から改善策の妥当さ・適切さについて評価・意見をいただいている。 ・自己評価結果を丁寧に説明した上で学校関係者評価を行った。 	
評価委員の意見	特になし	

2	学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3.8(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・評価結果を踏まえて経営方針の改善ならびに各分掌や学年に改善案を提案させ、コミュニティ・スクールやPTAとも協働しつつ改善を進めた。 ・コロナ禍で不十分だった学校運営協議会委員が学校行事等に積極的に来校していただけた体制をつくりたい。 ・学校関係者評価委員の意見をまとめた評価結果をふまえて、次年度の学校経営重点目標の設定や教育計画の改善に生かしている。 ・評価結果を真摯に受け止め、教育活動の見直しや改善につながり、学校運営の振り返りや改善に生かすことができた。 ・いただいたご意見を具体的な改善策として盛り込み、学校経営方針ならびに令和4年度の学校教育計画の充実に大いに生かすことができた。 ・生徒指導、特に挨拶に関わる指導については、地域とともに行っていくことが話し合わせ実践している。 ・学校運営協議会委員に学校行事や参観日の際に来校していただき、いただいた意見や学校運営協議会での意見等をまとめ、教育計画の改善に役立てている。 ・学校運営協議会で議論した結果を学校評価委員会や分掌・学年で検討し、学校運営の改善に生かしている。 	
評価委員の意見	<p>・ほとんどの学校では、3学期の2月に学校関係者評価を実施していると思われる。これでは不十分。出来れば事業毎に実施してほしい。これが無理であれば、学期毎の実施が望ましい。根拠は、学校関係者やCS委員も時間と共に記憶が薄らいでいく。各学校で言っているようにCS委員の意見を参考にして学校運営に生かしているのあれば、さらに有効に活用してほしい。</p>	

<項目：教育課程等の状況>		
1	学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか	3.8(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・基本ポリシーは共有されており、改善(=教育課程への反映)を進めてきた。富良野市が目指している教育のあるべき姿について、まずは、教職員が正しく理解することが大切だと考えている。富良野らしさが反映された教育課程を編成・実施を心がけた。 ・CSを中心とした地域人材を効果的に活用した教育課程の編成・実施を行っている。教育課程委員会で共有し、全職員の共通理解につなげている。 ・新規グランドデザインのもと、目指す子ども像(資質・能力)に向けて教育活動が展開されるよう、学校評価・人事評価、学級経営を行っている。 重点目標に沿って全教職員で検証を進め、成果や課題、具体的な改善策を共有し教育課程の改善を図った。 ・教育目標を全教職員で共通理解し、小規模校ならではの、特色ある教育課程の編成・実施に努めた。 ・教育目標について全職員に理解・共有した上で、課題解決に向けた教育課程が編成・実施された。 ・設置者が目指している目標や願い、地域・保護者の状況、教育目標等をふまえ、教育課程を編成・実施するとともに、職員会議等で熟議され、教職員間で共通理解が深められている。 ・学校力向上委員会を機能させ、教育課程編成に係る指示を行い、全教職員で組織的に確認・実施している。 	
評価委員の意見	特になし	

2	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか	3.8(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・主幹教諭・教務主任を指導し、所期の通りの授業時数を確保した。学習指導要領に則り、年間指導計画の充実・改善を継続してきた。 ・全体計画・年間指導計画が一応作成されているが年度の改善点が十分反されているとは言えない。授業時数の管理については週単位で集計され、計画に沿って運営されている。 ・教務主任を中心に、年間指導計画や週案が適切に作成・管理されている。また、授業改善教諭、指導工夫改善教諭の配置を活かした習熟度別指導等の指導体制が整備され、学習の定着と学力向上が図られている。 ・年間指導計画に基づいて適切に授業時数の配当がなされた。 ・数週間前の週予定を共有しながら、見通しをもって単元指導計画を作成しており、授業時数確保を大前提に、定着度にあわせたカリキュラムマネジメントを進めている。 ・授業時数の確保のため、計画において授業時数に余裕をもたせるよう工夫を施し実施した。また、児童の実態に合わせ少人数・学年別指導体制を確立し、学習指導等の充実に取り組み、学力の安定的な定着を図った（充実した教職員数を確保できていたためにきめ細やかな指導を実現することができた）。 	
評価委員の意見	特になし	
<項目：授業の状況>		
1	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか	3.8(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で地域の教育資源を活用した体験学習を導入した。児童の自主的・自発的学習については、研究や改善推進チームの活用を図っている。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTの活用、体験的な活動効果的に活用して問題解決的な学習を意識した授業改善が進められている。 ・全学年の教育課程に、地域の教育資源を活用した体験的な学習を設定している。また、総合的な学習においては、児童の興味・関心を活かした課題設定、ICTを活用した自主的な調査活動等、問題解決的な学習を推進している。 ・児童・生徒の興味・関心を高め、見通しがもてる学習過程の工夫や、コミュニケーション力や発表力を身につける力を明確にし、授業改善を目指した研修体制を確立できた。 ・人数の利点を生かし、児童生徒十分に体験できる時間を確保できた。本物に触れることの大切さを実感させるための活動を積極的に取り入れた学習を展開できた。 ・総合的な学習の時間に地域の自然や産業の調査・発表を取り入れる等、地域の人材や環境を生かしつつ、地域のよさに目を向け愛着を深める教育活動を実施した。 ・山部の自然や農業等と関わる体験的な学習を全学年で実施することができた。自主的・自発的な学習に努めているが、これからもっと取り組める状況である。 ・各教科においては主体的・対話的で深い学びの実現に向け、問題解決的な学習を行うとともに、総合的な学習や特別活動においては体験的な学習を行っている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校では、地域や児童の特性を生かした体験的な活動を実施している。特に地域の人材の適切な活用、そして「総合的な学習の時間」を更に効果的に活用している。このことが、自主的・自発的な学習に結びつくと思われる。そして、「主体的・対話的で深い学び」にどのように繋げていくか、教師の力量が問われる。 	

2	視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか	3.7(3.8)
各学校の 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末等を活用した授業を日常化している。効果的な活用方法の研修や交流学習の企画とともに、欠席児童の学びの保障に活用している。 ・GIGAスクール構想の実現に向け、すべての教育活動で一人一台端末を有効に活用している。コロナ禍の臨休等の対応についても十分な成果をあげることができた。 ・全ての教育活動において、1人1台端末や大型黒板等のICT機器を効果的に活用した授業を行っている。持ち帰りによる家庭学習への活用により、臨休対応で端末が効果的に活用され、学びを止めない教育活動を行うことができた。 ・教師も児童生徒も使いこなすレベルまで上達した。より効果的で深い学びにつながるよう努めている。 ・タブレットPC・iPad・電子黒板・デジタル教科書などを日常的に活用し、主体的学び・対話的で深い学びにつながる学習活動を展開することができ、学習効果を向上させた。 ・一人一台端末（タブレット）を活用し、様々なアプリにを有効に使用することにより、より効果的で深い学びにつながるよう努めている。 ・タブレットを活用した授業改善が行われた。今後遠隔授業など、もっと取り組める余地がある。 ・GIGAスクール構想の実現に向け、すべての教育活動で一人一台端末を有効に活用している。また、技術科を中心に、コンピューターや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業を行っている。また、各教科や道徳においてもICTを有効に活用した授業が行われている。 	
評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学校も、児童・生徒がタブレットを上手に活用しており、学習活動に効果的に貢献している。課題は、コミュニケーション能力や表現力をどのように構築していくのかにかかっている。 	
<項目：特別支援教育の状況>		
1	特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか	3.6(4.0)
各学校の 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・専任特別支援コーディネーターの統括のもと、すべての児童について作成し、児童が所属する学年全体で共有化を進めている。 ・特別支援教育コーディネーターが中心となって、第4次マスタープランの掲げる理念を意識して、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成に当たっている。特に、自立活動を意識した個別の指導計画になったことが大きい。 ・市第4次マスタープランの実現に向け、児童のニーズに合わせた個別の指導計画や個別の教育支援計画を適切に作成している。作成にあたっては、特別支援コーディネーターを中心に特別支援担当教諭がチームとなって目標・指導内容・評価を検討し全員で共通理解している。 ・児童・生徒理解研修を月毎に行い、全教職員が支援・指導に生かすため、児童の共通理解に努めた。配慮や支援のあり方の情報交流や意見交流を実施できた。 ・コーディネーターを中心に児童生徒の到達目標(長期・短期)と必要な支援策を具体化した計画表を作成し、関係機関・保護者と共通理解を図りながら支援を行っている。確かな変容につながっている ・児童理解研修を各学期毎に行い、全教職員が支援・指導に生かすため、児童の共通理解に努めた。配慮や支援のあり方の情報交流や意見交流を実施できた。 ・該当する児童全てにおいて、個別の指導計画等が適切に作成され、活用できている。 ・特別支援教育コーディネーターを中心として、特別な支援を必要とする生徒や保護者のニーズに応じた個別の指導計画や支援計画が適切に作成されている。 	
評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・増え続けている特別支援の必要な児童生徒に対して、様々な努力・配慮や支援が活かされることを期待します。 	

＜項目：教職員の研修の状況＞		
	1 授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか	4.0(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教職員が何らかの形で授業公開に係わるよう図った。広い視点から授業改善が進むよう、ミニ研修の機会を積極的に保障した。 ・研修部が中心となり、ICTを活用した授業改善に努め、世代間ギャップが生じないようなスキルアップに努め大きな成果を上げることができた。 ・研修部を中心にICTを活用した授業改善をテーマに全教員が研究授業を行っている。 ・児童・生徒理解研修を各学期毎に行い、全教職員が支援・指導に生かすため、児童の共通理解に努めた。配慮や支援のあり方の情報交流や意見交流を実施できた。 ・前向きな姿勢で全員が授業公開を行い、授業改善に努めることができた。ICT活用に関わって特に成果を上げることができた。 ・全教職員が授業を公開し、個々の授業力向上を図った。公開授業後の研究協議で成果と課題について全体で検証し、成果の記録化と課題解決の具体的方策を共有することで日々の授業に対する改善に生かすことができた。 ・校内研修の研究主題にもとづき、全教職員がテーマを決めて、定期的に意見交流を実施することができた。特にICT活用に関わって成果を上げることができた。 ・全教員の授業を公開し、授業改善に取り組んだ。また、授業力向上のため、互いの授業を参観し助言し合う日常的な取組が行われた。 ・研修部が中心となり、ICTを活用した質の高い授業の実現に向け、日常の授業改善につながる研修を行っている。昨年度も全員が授業公開を行い、授業改善に努めた。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙な中、教職員の研修を行う機会を作ることは大変だと思いますが、今後も継続を期待します。 	

《評価領域：組織運営の状況》

＜項目：生徒指導＞		
	1 生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉の相談週間に加え、生徒指導サポート会議等での情報共有を進め、児童のヘルプサインを速やかに察知し、相談に結びつけるよう図った ・定期的な教育相談週間を設定し、児童理解と課題の早期発見につとめている。問題発生時にはスピード感をもって特別委員会を開催し、問題の共有と解決策について話あっている。 ・担任による定期的な教育相談、スクールカウンセラーによる定期的なカウンセリングにより、児童・保護者・教師が安心できる教育環境の整備につながっている。 ・教育相談を定期的実施し、全教職員で情報交流・共通理解し、児童個々の小さな変化も見逃さないよう努めた。 ・定期的な教育相談、児童生徒からの要望とあわせ、普段の児童生徒の観察の中で教師側から声をかけ教育相談を実施してきた。メンタル面でのサポートを強化できた。 ・生徒指導部の計画に基づき計画的・定期的に教育相談を実施した。また、児童の状態像に応じて適時・適切に個別相談の機会を設けた。 ・教育相談を定期的実施し、全教職員で情報交流・共通理解し、児童個々の小さな変化も見逃さないよう努めた。また、関係機関と連携し、個々のケースについても対応できるよう努めた。 ・学習・生活指導両面における教育相談を5月と11月に実施するなど、定期的な教育相談週間を設定し、児童理解と課題の早期発見とその指導に努めている。 ・指導部を中心に計画的に教育相談を行うとともに、必要に応じてキャッチ相談を行うなど、教育相談の充実に努めている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒数が大きく異なる学校において、先生方の負担は大きいと思いますが、努力されています。 	

2	スクールカウンセラーなどの外部人材が活用されているか	3.9(3.8)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な活用の他、緊急と思われる事案には速やかに来校支援を依頼した。 ・スクールカウンセラーを効果的に活用して児童、保護者のカウンセリングに当たっている。また、地域の民生委員児童員との定期的な情報共有の場を設けている。 ・十分に活用させていただいているとともに、なくてはならない存在である。 ・特別支援教育にかかわる関係機関等との連携を図りながら、児童の指導支援に努めた。また、保護者支援も含めた形でスクールカウンセラーを活用している。 ・保護者のお子さんの困り感の相談のためにスクールカウンセラーを活用し成果を上げている。また、地域の児童養護施設や市教育委員会との連携を図り、児童の心身のケアに配慮した取組を推進している。 ・定期的な活用の他、緊急と思われる事案にはカウンセラーに来校支援を依頼した。 ・定期的にスクールカウンセラーと連携して、児童及び保護者の教育相談を実施し、効果を上げた。 ・スクールカウンセラーは月に2回、生徒、保護者、教職員のカウンセリングに当たっており、定期的な面談を通して効果が出ている。 ・計画的に活用し、成果を上げている。相談者が多く、現状より回数を増やせないのが今後の課題である。 	
評価委員の意見	特になし	

<項目：児童生徒の人格的発達<の状況>		
1	相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成するための指導を行っているか	3.9(3.9)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の指導ならびに道徳の時間や特別活動を窓口にも、思いやりやコミュニケーションスキルの育成を進めた。 ・人格形成の主たる場は学級であるという考え方のもと、学級経営の充実を年度の重点に設定し、道徳科の授業改善やQUを効果的に活用するなど、豊かな人間関係を構築できるような環境整備を進めている。 ・道徳の授業を要としながら、学校全体では、ラベンダーリボンプロジェクトやいじめ防止宣言等により、豊かな人間関係を築くための心の教育を推進している。 ・よさを認め、ほめる指導を推進してきた。また、道徳の時間を中心として豊かな人間関係を構築するよう指導してきた。 ・心理士や子ども未来課等と連携を密にし、学習指導や体験的活動を実践した。 ・日頃の学校生活をとおして児童理解に努め、個に応じた指導を徹底するとともに、学級会・各委員会・集会活動に係わる指導の充実を図ることで、相手を思いやる言動が増え人間関係が安定してきた。 ・日常的に学校におけるあゆる場面で、思いやりやコミュニケーションスキルの育成を進めた。また、道徳の時間を中心として豊かな人間関係を構築するよう指導してきた。 ・道徳の授業をはじめ、児童会活動や日常的な指導を含め、思いやりの心をもてる児童育成のための指導を行った。 ・道徳科を要としながら、学年の実態に応じ、全教育活動を通じて相手の人格を尊重し、豊かな人間関係をつくれる生徒を育てる指導を行っている。また道徳の参観授業を積極的に行っている。 ・計画的に活用し、成果を上げている。相談者が多く、現状より回数を増やせないのが今後の課題である。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今の世の中、道徳を重んじるのが薄くなってきていると思います。道徳の授業が楽しい時間になってほしいと思います。 	

＜項目：保健管理の状況＞		
1	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	4.0(4.0)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の健康観察・養護教諭による指導・学校保健委員会（学校医からの指導助言を含む）を充実させ、感染症予防と児童の心身のケアに努めた。 ・計画的な健康診断の実施、担任・フリー教員による丁寧な日常の健康観察、保健だより等を生かした疾病予防等に取り組んでいる。 ・計画的な健康診断の実施と丁寧な日常の健康観察の結果を全職員と保護者とで共有し、児童の健康課題に共に取り組んでいる。 ・養護教諭による健康保持増進の指導を始め、担任が毎日健康観察を行ってきた。健康診断も養護教諭を中心に適切に実施された。 ・毎朝のマチコミアプリでの体温報告や健康観察により、児童生徒の健康状況を把握し、適切な対応をとってきた。定期的に生活リズムチェックシートを活用し、家庭と連携しながら健康管理能力の向上を図ってきた。 ・毎日の健康観察カードの取組を適切に実施し、毎朝児童一人一人の健康状態（心身）の把握に努めた。また、個々の心身の健康状態の些細な変化にも対応できる体制の構築を図り、適時予防に向けた指導を実施し、健康で安心・安全な生活を実現してきた。 ・体温報告や健康観察により、児童生徒の健康状況を把握し、適切な対応をとってきた。定期的に生活リズムチェックシートを活用し、家庭と連携しながら健康管理能力の向上を図ってきた。 ・コロナ対策をはじめ、日常的な健康観察を行い、養護教諭と連携した保健指導を行った。 ・養護教諭を中心に計画的に健康診断を実施している。担任・副担任の日常の健康観察、保健だよりを生かした疾病予防等に取り組んでいる。 	
評価委員 意見	特になし	
＜項目：安全管理＞		
1	学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか	3.8(3.8)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日常からの啓発・速やかな情報共有を徹底させ、マニュアルの活用に繋げた。 ・生徒指導部を中心に、組織的に事故対応を行っている。危機管理マニュアルについては、教頭が委員会との連携を図りながら適切に改訂している。危機管理マニュアルを活用するという意識が教職員に高まった。 ・緊急事態発生時に適切に対応できるよう危機管理マニュアルを用いた職員研修を行った。危機管理マニュアルも毎年検討や改善を行い、児童や教職員の危機管理意識を高める取組を継続している。 ・従来のマニュアルをもとに教職員の共通理解を深めている。また消防・警察と連携した訓練を実施しマニュアルの改善に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症に関する項目など実情に応じて改善を図り、時代や現状に即し活用性がより高まるよう改善を進めた。 ・日常からの啓発・速やかな情報共有を徹底させ、マニュアルの活用に繋げた。また消防・警察と連携した訓練を実施しマニュアルの改善に努めた。 ・マニュアルは作成しているが、全教職員が万が一に備え活用できるよう、マニュアルの管理を行っていく必要がある。 ・生徒指導部を中心に、組織的に事故対応を行っている。また危機管理マニュアルを定期的に改訂し、職員に周知し活用を図っている。 	
評価委員 の意見	特になし	

<項目：進路指導(キャリア教育)の状況>		
1	児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	3.5(3.6)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを活用し、(発達段階に応じて)将来の自己実現に繋がる体験学習を導入している。 ・小学校におけるキャリア教育を正しく理解することが重要であると考え、研修等の時間を活用しながら共通理解に努めた。学校生活におけるキャリアパスポートの活用に課題がある。 ・キャリアパスポートを活用し、設定した目標に向かって努力する過程とふりかえりにより、自己の成長を感じられるようにしている。また、夢や希望を育む機会として、地域で活躍している人材を講師として招き授業を行う等、職業観を育てる取組を推進している。 ・日常的に、児童・生徒の自己肯定感・自己有用感を高める指導を行ってきた。感染症の関係で外部講師を招く機会は減っているが、授業の中で適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っている。 ・小中で連携しながらキャリア教育の全体計画を作成し、「マイノート」を活用しながら、社会で自立していくための職業観や勤労意欲の向上に向けた効果的指導の改善を図ってきた。 ・マイノートを年間指導計画に組み入れ指導してきた。併せて低学年からの勤労見学・体験を重視し、働くことの意義について理解を深めさせてきた。 ・地域の教育資源(人材)取り入れたキャリア教育の全体計画を作成し、「マイノート」を活用しながら、将来の自己実現に繋がる体験学習を導入している。 ・キャリアパスポートを活用し、目標をもつ大切さを指導している。生活科や社会等地域のいろいろな職業の方と触れ合う機会から職業観を育てている。 ・総合的な学習の時間を核として、各学年においてキャリア教育の時間を確保し、適切な勤労観や職業観を育む指導を行っている。 ・キャリアパスポートを活用し、計画的に学年に応じた指導を行っている。 	
評価委員の意見	特になし	

《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》

<項目：学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況>		
1	児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応しているか	3.9(3.8)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者アンケートを実施(年2回)し、結果を共有するとともに、日常の小さな連絡・相談には相手の納得を生む対応を心がけた。 ・各行事における保護者アンケートの実施等、あらゆる機会を通じて、子どもや保護者の要望を把握する努力をしている。 ・学校による児童・保護者アンケート、学級懇談、家庭訪問、QUの調査結果等から、児童生徒・保護者の要望を把握し、学校運営の改善に努めている。 ・児童・生徒や保護者からのアンケートを実施し、意見や要望の把握に努め、PTA役員や地域住民から意見を聞き、教育活動の改善に生かすことができた。 ・児童生徒・保護者のアンケート結果や教職員自己評価から、各分掌・各係が課題を見出し、具体的な改善策を「学校改善プラン」で可視化し、わかりやすい文言で伝えるなどPDCAサイクルを確立できた。 ・教育相談や学級懇談、学校評価(保護者アンケート)などの機会を活用し情報を収集している。また、学校来校の機会が本校は多いため、その都度ご意見をいただいた。貴重なご意見は、その都度教職員間で情報を共有し迅速な対応を図った。 ・児童や保護者からのアンケートを実施し、保護者や地域から意見や要望の把握に努め、結果を共有するとともに、教育活動の改善に生かすことができた。 ・各行事、懇談、PTA行事や保護者アンケートの実施等、あらゆる機会を捉え、生徒や保護者の学校への要望を把握し、学校運営の改善に努めている。 ・児童生徒・保護者アンケートを計画的に実施し、適切に対応している。 	
評価委員の意見	<p>・保護者アンケートの回収率はどのくらいでしょうか？</p> <p>回答しやすいためにも、ペーパーレス、スマホなどを活用したアンケートを実施してほしい。</p>	

＜項目：学校に関する情報提供＞		
1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	3.8(4.0)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学級・学年通信は内容を工夫し、確実に発行されているが、全校てきなものについては感染症蔓延等を理由に機を失することのないよう留意する。 ・学校だよりや学年・学級だより、保健だより等を定期的に発行し、保護者に対して学校や学級の様子をわかりやすく伝えている。地域に対しては、コロナ禍にあつて学校便りの回覧ができていない。 ・学校だより・学年だより・学級だより・保健だより・図書だより等を定期的に発行し、学校や学級の様子をわかりやすく伝えている。 ・学校だよりは地域全戸に配布、ホームページも適宜更新し、学校情報の提供に努めてきた。 ・保護者への情報提供を迅速に行うために、マチコミアプリ・タイムラインを活用している。学校だよりでは本校ならではのきめの細かな教育の情報も載せてきた。 ・学校便り・PTAだよりを定期的に発行し、学校生活の様子や成長の姿が共有されるよう図った。また、各学級通信も週1回のペースで発行され、児童の日常的な取組や成長の様子を伝えている。 ・学校だよりや学年・学級だより、保健だより、図書室通信等を定期的に発行し、保護者・地域に対して学校や学級の様子をわかりやすく伝えている。 各種通信を通して学校の取組が伝わるよう取り組んでいる。 	
評価委員の意見	・大変な作業だと思いますが、学校での子どもたちの様子が分かるのでこれからも情報をしっかり提供してください。	
2	ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組みを行っているか	3.7(3.7)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの全面更新やコミュニティー・スクール委員との日常的な連携の充実を進める必要がある。 ・HPを更新については、必要最低限にしている。特に令和3年度は、マチコミメールを活用してコロナ対応や不審者に関する情報共有に効果があった。 ・コロナを理由に、学校だよりが地域配送を活用できなくなつてからは、HPだけが学校に関する情報発信の手段となつてしまった。HP更新が現在システム上の問題により、上手くできていない。 ・学校だよりは地域全戸に配布、ホームページも適宜更新し、学校情報の提供に努めてきた。 ・HPでは、グランデデザイン・特認校リーフレット・学校通信のコーナーで本校ならではの教育の概要と詳細を情報提供できるよう努めている。 ・童養護施設との連携を密にし、児童のプライバシー保護に細心の注意を払いつつ、ホームページの定期的な更新を行い積極的な情報発信に努めた。 ・学校だよりは地域全戸に配布、ホームページも適宜更新し、学校情報の提供に努めてきた。閉校業務に向けて、地域住民と協議を行う機会が多くあり、情報の共有に努めることができた。 ・ホームページや地域回覧文書により、学校の情報を提供している。 ・適宜HPを更新し、情報提供に努めている。また、マチコミメールの活用を活用して、保護者に学校の取組や不審者情報等を積極的に発信している。 速やかな更新に努め、最新の情報が伝わるよう取り組んでいる。 ・学校だよりの地域への全戸配布等学校の様子を適切に伝えている。 	
評価委員の意見	・HPを確認すると更新されていない、確認するとシステム上のトラブルにより4月以降更新されていないとのこと。ICTの時代、しっかりとフォローしてほしい。	

＜項目：保護者・地域社会との連携の状況＞		
1	授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか	3.7(4.0)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に活用されていたが、一層の充実に向け校内でさらなる活用のアイデアを出し合う必要がある。 ・コロナ禍にあって、特に人材活用の面で十分な連携を図ることができなかった。工夫する余地はあったと反省している。 ・全ての学年の各教科、総合的な学習の時間において、地域の教育資源を活用する教育活動の充実を図っている。コロナ禍にあって、できることを探し、実践につなげている。 ・森林学習、自然学習をはじめ地域の豊かな自然を生かした学びの充実を図っている。 ・地域の教育資源を教育課程に位置付け、各教科・道徳・総合的な活動の時間で有効に活用している。特に専門家を招いての授業は、児童生徒の活動の意欲化、コミュニケーションの向上にもつながるなど、効果を上げている。あわせて、学校運営協議会において教育資源開発に向けた情報収集を行っている。 ・恵まれた自然環境や地域人材を主とした体験的学習の場を教育課程にしっかり位置付けて有効に活用することができている。そのため、知・徳・体それぞれの健やかな育成が図られ、教育効果を上げることができた。 ・学校からの発信だけではなく、地域からの声掛けもあり、山部の教育資源を常に活用する授業を行っている。 ・総合的な学習の時間において、1年は富良野ウォーカー「職業調べ」、2年は「職場体験学習」で地域で活動するなど、地域の多様な人材を活用し、教育活動の充実を図っている。 ・総合的な学習の時間やキャリア教育などで講師を招いたり、CS協議会や地域学校協働活動推進委員会と連携を図り、充実させるよう取り組んでいる。 	
評価委員の意見	特になし	
※評価基準 4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる 2：実践につとめている 1：努力を要する		



V 教育行政評価委員会の開催について

1、教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は、委員4名の委嘱により、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定による事務事業等の点検・評価の実施及び教育行政評価委員会設置要綱に基づく富良野市学校第三者評価を行いました。

事務事業等の点検・評価では、教育委員会から提出した資料（教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価52事業）について事務局より説明し、それに対する教育行政評価委員側からの質疑を交え意見交換を行いました。

学校第三者評価では、学校自己評価及び学校関係者評価の結果並びに学校第三者評価項目に対する学校自己評価結果について説明をするとともに、本市初の義務教育学校となった市立樹海学校、市立富良野小学校の学校訪問を行い、義務教育学校設立までの経過や開校3ヶ月が過ぎての状況を聞くとともに、長寿命化改修の状況などを視察しました。

さらに校長会会長、副会長との意見交換を行い、校長会の取組みについて意見交換しました。

- 1) 第1回会議 5月20日（金）
 - 教育委員会事務事業点検・評価シートの説明、質疑
 - 教育委員会の活動状況の評価説明、質疑
 - 学校関係者評価集約結果の説明、質疑

- 2) 第2回会議 7月5日（火）
 - 学校訪問～市立樹海学校、市立富良野小学校

- 3) 第3回会議 7月19日（火）
 - 学校訪問における感想、意見交換
 - 校長会長、副会長との意見交換
 - 事務事業点検評価項目の質疑に対する説明
 - 広域連合教育委員会教育行政評価報告書について

- 4) 第4回会議 8月10日（水）
 - 学校第三者評価のまとめ
 - 報告書の最終確認について

2、教育行政評価委員会における意見

1) 教育委員会の活動状況について

教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐にわたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論をし、富良野市の教育の基本理念「すべては子どもたちのために、すべての子どもたちのために」を確認し共有することが益々大切となっています。

平成27年4月から教育委員会制度の改革が行われ、地方教育行政における首長の責任がより明確となり、首長のもとで地方公共団体が一体となって教育施策を進める体制となりました。富良野市総合教育会議では、第6次富良野市総合計画の策定に伴い、「富良野市教育に関する大綱」を見直すとともに、「富良野市内公立高等学校の在り方検討会議」から出された意見書を確認し、今後の中学校卒業者の推移予測等を踏まえ、沿線自治体との同意の上、再編に当たっての要望書を提出していくことを確認しています。

教育委員の学校訪問については、GIGAスクール構想により導入された一人一台端末の試行状況を参観した他、学校課題、コロナ禍での教育活動の工夫状況などについて、意見交換し、必要な助言等を行いました。

今後も、本市教育施策の推進に、尽力をいただきたい。

2) 「教育委員会事務事業点検・評価」について

「富良野市第4次特別支援教育マスタープラン」、令和3年度から新たにスタートした「第6次富良野市総合計画」、そして、学校教育分野と社会教育分野、更に児童福祉分野も含め、統合した「第1次富良野市教育振興基本計画」並びに「令和3年度富良野市教育推進計画」に基づいて、令和3年度中に実施した主な事務事業52事業と教育委員会活動状況について事務局で整理し、第1回会議にて説明いたしました。各委員からの11項目に渡る質問・意見について担当課と意見交換しました。主なものとしては、全国学力学習状況調査結果に対する学力向上の取組、コロナ禍における児童生徒達への心のケアの在り方、いじめ問題に対する取組、子育て支援センターの各種事業の周知方法、文化財保護活動等の周知の取組、ふるさと給食の取組などについてであり、更なる事業効果の向上へ、期待どおりの効果が得られている、更なる改善へなどの意見が出されました。

3) 学校教育について

小中学校においては、新型コロナウイルス感染症が終息に向かわないことから学校における行動レベルは2が維持されており、感染リスクの高い教育活動は制限されましたが、新型コロナウイルス感染症への対応が解ってきたことなどから、適宜改訂される「衛生管理マニュアル」を基本に、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、「子どもたちの学びを止めない」ために、各種教育活動を工夫し実

施されています。小・中学校では新学習指導要領に基づき、児童生徒の学力向上に向けて教職員が、一丸となって取り組まれており、さらに学力向上や学習意欲を高めるとともに、子どもたちの個性を生かす教育を充実させ、「主体的、対話的深い学び」そして、「生きる力」を育まれることを期待します。

コミュニティ・スクールは、今年度もコロナ禍のため、取組は一部にとどまりましたが、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を進めることが重要であることから、各委員による合同研修会を開催し、各学校の取組を学ぶとともに共有しました。次年度等の活動に生かされることを期待します。

GIGAスクール構想により一人一台端末が導入された初年であり、各学校では試行錯誤を行いながら、効果的な活用を模索するとともに、新型コロナウイルス感染症へ感染確認や濃厚接触者となった児童生徒のために、オンラインで端末を接続し、授業や健康観察などに活用し始めました。今後は、さらにより効果的に使いこなしていくかが課題であり、教育委員会及び学校が研修などを通じて、情報や効果的な活用方法を共有し、研鑽していくとともに、端末を特別なものとしてではなく、日常的に使う文房具として、家庭へ持ち帰るなど、更なる活用を進めてほしい。

4) 社会教育について

社会教育は、個人の要求に応えることではなく、市民の必要課題に基づく学習内容に対応する企画立案や社会教育関係団体の育成、生涯学習の視点に立った推進等が大切です。

今年度もコロナ禍により、各種社会教育活動が制限や自粛されましたが、日程を短縮しての開催やオンラインなどによる取組がなされ、少年の主張のラジオ放送、子ども未来づくりフォーラムのオンライン開催など工夫した中で取組むことができました。一方、大勢の中での発表などの経験を積むことができなかったことから、対面での発表機会とオンライン活用との使い分けにより、より効果的な取組を期待します。

青少年表彰では、対象者がいなかったことから、次年度に向けたは推薦周知などを強化し、対象者の掘り起こしをお願いしたい。

成人式については、今年度も感染予防対策を徹底し、実施することができました。次年度からは、民法の改正により、成人年齢が18歳に引き下げられますが、18歳を対象とするとその多くが高校生であり、受験や就職準備などで参加が難しいことなどから、これまでどおり20歳を対象とし、20歳を祝う会に変更することは、適切な判断と思います。

現在は、変化の激しい社会であり、地域との連携も希薄となり、不安を抱え「孤育て」となっている家庭も増えてきていることから、地域、社会等と連携がこれまで以上に必要であり、家庭教育の充実が求められています。

時代の変化とともに、社会教育の在り方も変わってきています。コロナ禍をきっかけとして、新たなステージへ進んでいくことを期待します。

5) 子育てについて

子育てについては、次世代を担う子ども達を安心して育てることができる環境づくりに向けて、子ども達の発達段階や特性に応じた教育・保育の充実に向けた取組が行われています。一方、少子化や核家族化が進み、保護者の就労状況や家庭環境が変化していることから、今後は、地域の子ども達は地域で育てるという視点を持ち、取り組むことが必要です。

そのためにも、社会教育分野、学校教育分野、児童福祉分野が一体となって各種子育て支援への取組が必要になっています。新庁舎移転後は、担当課が同一フロアに揃うことから、より一体的な推進がなされることを期待します。

6) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けや教諭を評価するためのものではなく、保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い「開かれた学校」をめざすものであります。

学校第三者評価は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長・副会長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

今後も、評価項目のみならず学校運営全般に関し、自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価の結果を、より良い「開かれた学校」づくりのための貴重な資料として各学校において活用することを期待します。

7) 校長会会長・副会長との意見交換

第1次富良野市教育振興基本計画、令和3年度富良野市教育振興推進計画、令和3年度教育行政執行方針に基づき、各校では教育行政上の重点を踏まえた学校経営方針が策定されています。

学力と体力の向上、心の教育の充実、また、近年多発する傾向にある自然災害や事件・事故等へ対応、更には感染症に対する危機管理体制への備えに向けた取り組みが全校で推進されています。

また、校長会では、変化の激しい時代に対応していくためには、日頃から、今日的教育課題や本市の教育の充実・発展のために意見交流や情報共有を行い、全体及び個々での研鑽を高めています。

働き方改革については、意識改革が進んできていることから、教育の質向上、教職員のワーク・ライフバランスのために、更に努力してほしい。

コロナ禍の終息が見通せない中、学びの保障や心のケア等に取り組まれている。校長会として、学校の新しい生活様式に努め、本市の教育の充実・発展に向けて、更なるリーダーシップが発揮されることを期待します。



資料：1

富良野市教育行政評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、富良野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法（昭和22年法律第26号）第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則（昭和56年教育委員会規則第2号）第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1)教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べること。
- (2)学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

(構成)

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度末までとする。

(運営)

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。
- 4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、公布の日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

資料：2

教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	天 間 紀 明	市 PTA 連合会会長
委員	木 戸 秀 子	富良野市スポーツ推進委員会会長
委員	中 田 昭 子	社会教育団体役員

資料：3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

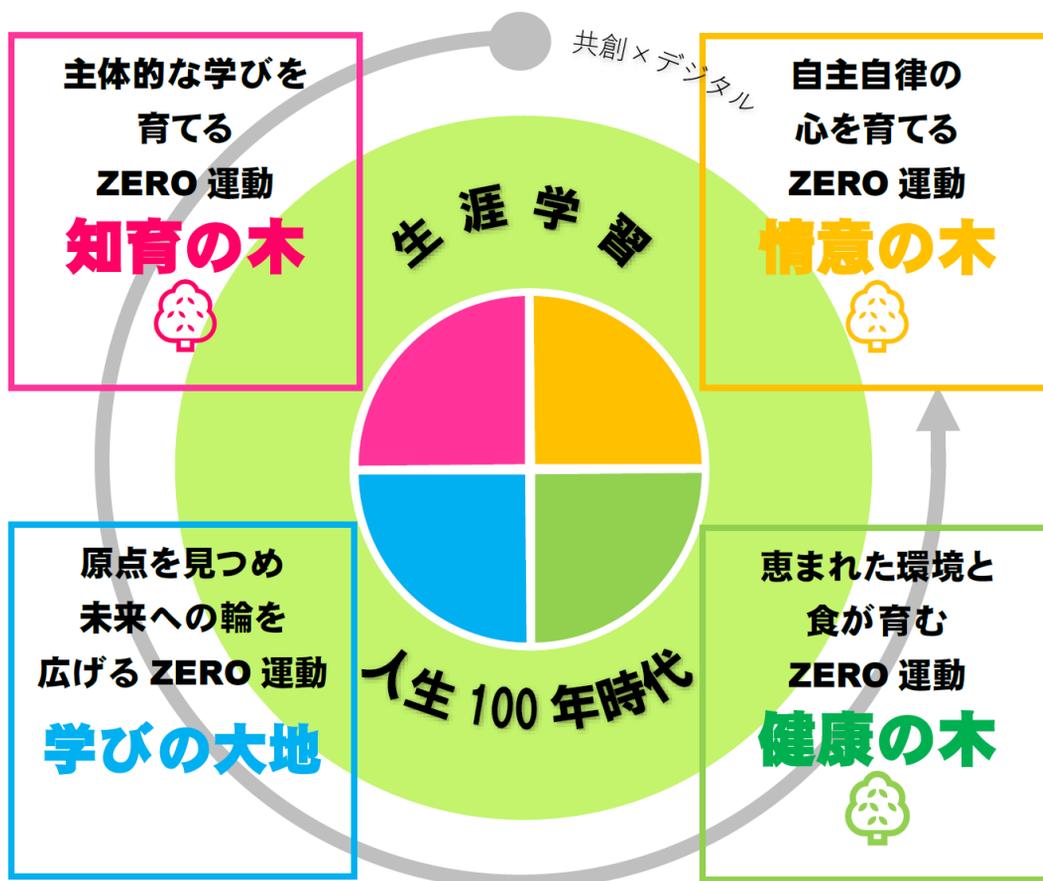
資料：4

令和3年度富良野市教育推進計画

令和3年度（2021年度）富良野市教育推進計画

基本理念

自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む



富良野市 ZERO 運動で輝く。つながり合う。ひとのWA！（輪）

令和3年度 教育行政執行方針（抜粋）

<学校教育関係>

- 各学校における「分かる授業」の推進、家庭と学校の連携による家庭学習時間の確保など、「自ら学ぶ」学習環境づくりに取り組んでまいります。
- 一人一台の端末を用いた情報活用能力の育成と新たな学習支援ソフトの導入により効果的な活用を図ってまいります。
- 幼稚園、保育所等の教職員の資質や専門性の向上を図り、児童が小学校教育に円滑に適應できるよう努めてまいります。
- 一人ひとりの教育的ニーズを把握し、個々の能力を伸ばすため、個別の支援計画・指導計画を活用した効果的な支援と指導を行うとともに、学校と保護者の共通理解の促進や相談・支援の充実の努めてまいります。
- 富良野にゆかりのある講師陣による「心に響く道徳教育」を実施し、生命の大切さや思いやり、感動する心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めてまいります。
- 不登校児童生徒に対して、適応指導教室の取組の充実やICT機器の活用等により、教育機会の確保に努めてまいります。
- いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応に努め、すべての教育活動を通して「いじめは絶対に許されない」ことの意識向上を図り、いじめの根絶に向けて学校・保護者・地域との連携により取り組んでまいります。
- 森林学習プログラムの充実と活動体制の強化に努めるとともに、地域の自然環境を生かした体験活動により、豊かな感受性や生命の尊さを培う教育に取り組んでまいります。
- 学校における体力向上の取組と体育・健康に関する指導の工夫・改善を行うとともに、家庭や地域と連携した児童生徒の運動機会の創出等により、体力の向上に努めてまいります。
- コミュニティー・スクールは、地域とともにある学校づくりのため、地域学校協働活動の推進による地域との連携と協働体制の拡充、取組の充実に努めてまいります。
- 令和4年度開校の義務教育学校「樹海学校」の校舎増築及び改修とともに、学校長寿命化計画に基づき、富良野小学校教室棟の大規模改修を進めてまいります。
- 市内高校が地域に必要な人材の育成と生徒の多様な教育ニーズに対応し、魅力ある高校づくりに向けた、教育活動を推進するため支援を行ってまいります。

<社会教育関係>

- 家庭教育力の向上と子どもの望ましい生活習慣の定着に向け、各種研修会や資料の作成・配布、就学前児童を対象とした休日の子どもの居場所と子育て世代の交流の場づくりを行ってまいります。
- 地域力を活かした特色ある子どもたちの活動拠点づくりのため、子ども未来事業等を取り組むとともに、子どもたちの安全・安心な居場所づくりとして、児童館、放課後子ども教室等の充実を図ってまいります。
- 市民一人ひとりが生涯にわたり学習活動を継続し、学びの成果を暮らしの質的向上や地域社会に活かしていくことが出来るよう、多様な教育ニーズした学習プログラムを提供してまいります。
- 多様なニーズに適応した図書資料の充実に努めるとともに、読書推進ボランティアとの連携のもと快適な読書環境づくりに努めてまいります。
- 郷土の貴重な文化財の調査と指定登録の検討を進め、教育やまちづくりでの活用を推進してまいります。
- 地域課題の解決に向けた活動に多くの市民が参画できる環境を整えるとともに、社会教育関係施設等の機能充実と安全で快適な環境整備を進めてまいります。

<切れ目のない子育て支援関係>

- 富良野市の子どもたちが健やかに育むために、関係部署と連携し切れ目がない、安心して子育てができる包括的な相談・体制づくりを進めてまいります。
- 各種子育て支援サービスの情報の見える化に努めるとともに、市公式LINEアカウントによる子育てチャットボット機能の導入を進め、より活用し易い子育て情報の発信を行ってまいります。
- 核家族化、生活形態や勤務形態の多様化など、社会的背景の変化に伴う様々なニーズに対応するため、認可保育所、認可外保育所、幼稚園などと連携し、受け入れ環境の整備を進めてまいります。
- 関係機関・団体と連携し、心身の発達に配慮や支援を必要とする子どもの早期発見に努め、療育支援の充実を図ってまいります。
- ひとり親家庭の育児不安、自立や就業などに対する支援の相談窓口を引き続き開設してまいります。

I 主体的な学びを育てる「知育の木」

基本施策1：確かな学力を育む教育の推進

実践項目1 学力向上の取組の推進

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果分析による検証と改善
- ・ 家庭と学校の連携による家庭学習時間の確保

実践項目2 授業改善の推進

- ・ 学校教育指導訪問の実施
- ・ 「分かる授業」への授業改善と情報発信
- ・ T T 指導・習熟度別指導の充実



【授業改善推進教員との打合せ】

基本施策2：社会のグローバル化に対応する教育の推進

実践項目1 国際理解教育の充実

- ・ イングリッシュキャンプ、英会話サロンの開催

実践項目2 外国語教育の推進

- ・ 全ての学校へ外国語指導助手を派遣
- ・ 中学校英語教諭による小学校への乗り入れ授業実施

実践項目3 ICT教育の推進

- ・ 学習支援システムの導入
- ・ 情報モラル教育の推進
- ・ 通信環境をもたない家庭への通信機器支援



【イングリッシュキャンプ】

基本施策3：質の高い幼児教育の推進

実践項目1 幼児教育の質の向上

- ・ 幼保小 合同研修会の実施
- ・ 公開保育、授業実践交流の開催

実践項目2 小学校教育との円滑な接続

- ・ 幼児教育の学びを生かしたスタートカリキュラムの編成
- ・ 幼保小合同引継会の実施



【幼保小合同引継会】

基本施策4 一人一人のニーズに対応した取組の充実

実践項目1 特別支援教育の充実

- ・ 専門家チームによる相談業務、訪問指導
- ・ 個別の支援計画を活用した効果的な指導と支援
- ・ 切れ目のない一貫した指導や支援体制の確立
- ・ 学校種間の円滑な接続と情報交換による共通理解
- ・ 特別支援教育支援員の適正配置
- ・ 保護者向けガイドブック活用による理解促進

実践項目2 就園・就学に対する支援

- ・ 専門家チームによる就学前からの相談体制の確保
- ・ 医療、保健、福祉等関係機関による連携体制の充実
- ・ 保護者への巡回教育相談等の機会の周知
- ・ 教育相談担当者の育成



【保護者向けガイドブック】

Ⅲ 恵まれた環境と食で育てる「健康の木」

基本施策1：体験活動等の推進

実践項目1 環境教育の推進

- ・ 森林学習プログラムや富良野自然塾を活用した体験活動
- ・ 学校や地域の特色を生かした教育課程の改善と充実



【富良野自然塾講師による環境教育】

基本施策2：食育と学校給食の充実

実践項目1 食に関する指導の充実

- ・ 望ましい食習慣の定着を図る指導計画の充実
- ・ 栄養教諭の効果的な活用
- ・ 学校、家庭、地域が連携・協働した食育の推進



【栄養教諭による食に関する指導】

基本施策3：健やかな身体を育む教育の推進

実践項目1 健康教育の充実

- ・ 発達段階に応じた性教育、薬物乱用防止教育の推進
- ・ 校内の相談体制の充実
- ・ 全小中学校でのフッ化物洗口実施

実践項目2 学校体育の充実

- ・ 学校における体力向上の取組の推進
- ・ 体育・健康に関する指導工夫と改善
- ・ 地域と一体となった児童生徒の運動機会の創出

Ⅳ 原点を見つめ未来への輪を広げる 「学びの大地」

基本施策 1：学校段階間の円滑な接続

実践項目 1 学校段階間の円滑な接続

- ・ 学びの連続性を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施
- ・ 学校段階間の連携や一貫教育の充実を目指す指導の充実

実践項目 2 高校教育の推進

- ・ 中高連携による授業交流や学力の現状把握と分析
- ・ 教育ニーズに合わせた魅力ある高校づくりへの支援



【小中高合同研修会による互見授業】

基本施策 2：家庭・地域が一体となった学校運営の推進

実践項目 1 コミュニティ・スクールの推進

- ・ コミュニティ・スクールについての情報発信
- ・ 地域学校協働活動の推進による地域との連携・協働体制の拡充
- ・ 学校運営協議会委員間の交流機会の創出

実践項目 2 学校運営の推進

- ・ 地域に根差した学校経営の充実
- ・ 働き方改革に向けた適切な勤務環境づくり
- ・ 部活動における協働体制
- ・ コンプライアンスに関する研修の実施
- ・ 教職員の健康診断やストレスチェックの実施



【CS委員による学校行事の見守り協力】

基本施策 3：防災・安全教育の充実

実践項目 1 防災・安全教育の充実

- ・ 地域の状況に応じた防災訓練の実施
- ・ 校区内幼保小中間での危機管理マニュアルの共有
- ・ 地域と連携した安全指導



【1日防災学校における体験】

V 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

基本施策1：家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

実践項目1：子ども子育て支援・家庭教育支援の充実

- 1 家庭教育講演会、読み聞かせ研修会などの開催、家庭教育ハンドブック（幼保小中学校生）、子育てガイドブックの作成・配布
- 2 休日の子どもの居場所づくり（就学前の乳幼児対象）
 - ・休日の児童館、児童センターの無料開放
- 3 親子体験活動の充実および子育てに関する市民講座、おはなし会などを開催
 - ・家庭教育セミナーの開催
- 4 地域学校協働活動を推進
 - ・学校支援ボランティアによる社会教育活動の推進
- 5 市民講座（家庭教育・親子を対象とした講座）の開催
 - ・親とこのふれあい事業、子育てサークルの育成支援
- 6 ネットトラブル関係の情報提供（望ましい電子メディアとの関わり方）
 - ・講演会の実施や小冊子の配布



【家庭教育ハンドブック】

実践項目2：青少年教育の推進

- 1 子ども未来づくり事業の推進
 - ・子ども未来づくりフォーラム、少年の主張大会の開催
- 2 ふらのまちづくり未来ラボ推進事業の推進
 - ・ワークショップ学習による郷土愛を持つ人材の育成
- 3 社会教育関係団体を育成・支援
 - ・子ども会、青少年サークル「ね〜びる」の育成支援
- 4 児童館・学童保育センター、放課後子ども教室の充実
 - ・児童厚生員、コーディネーター、サポーターの確保
- 5 富良野沿線教育委員会との連携
 - ・沿線との人づくり研修など各種研修会の実施
- 6 青少年健全育成を推進
 - ・青少年表彰、成人式の実施
 - ・青少年補導センター、富良野市いじめ問題対策協議会との連携



【子ども未来づくりフォーラム】



【ふらのまちづくり未来ラボ推進事業】

Ⅵ 人々の暮らしの向上と人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

基本施策1：人々の暮らしの向上と人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

実践項目1 成人・高齢者教育

- 1 領域・年齢層別の市民講座、講演会、学習プログラムを提供
 - ・社会教育施設を活用した「市民講座」の開設
- 2 社会教育関係団体の育成・支援
 - ・PTA活動 中央婦人会の育成支援
- 3 「楽しく魅力ある」ことぶき大学の運営
 - ・「富良野校」「山部校」との連携協力
 - ・世代間交流事業・伝承活動の拡充
- 4 年齢ニーズに合った学習情報の提供や資料を整備
 - ・生涯学習推進アドバイザーの配置



【市民講座】



【ことぶき大学】

実践項目2 読書活動の推進

- 1 利用者団体およびボランティア活動の積極的な情報提供
 - ・ボランティアの育成と活動の場の提供
 - ・団体、ボランティアとの協働による、各種行事の充実
- 2 図書館利用者等への図書サービスの継続
 - ・高齢者施設等へのいきいきサポートブックの継続
- 3 図書館業務の省力化の推進と多様なサービスの検討
 - ・館内システムの更新準備と総体的なサービスの検討
- 4 子どもの読書推進プラン（第3次計画）の推進
 - ・ボランティアとの協働によるブックスタートの継続
 - ・学校司書との連携強化と学校図書館支援事業の推進
- 5 利用者ニーズに対応した図書資料および図書情報の提供
 - ・蔵書の充実と情報提供サービスの強化



【えいごのおはなし会】



【市立図書館】



【ボランティアとの協働による行事風景】

Ⅶ 文化伝統の保護継承と社会教育施設整備の推進

基本施策 1：文化伝承活動と社会教育施設整備の推進

実践項目 1 文化伝統の保護継承

- 1 市内に現存する文化財のリストアップと、その登録・指定や保全活用方法等を調査
 - ・ 文化財調査委員会の設置
 - ・ 登録候補物件のリストアップほか調査の推進
- 2 無形民俗文化財保存団体の会員数の維持・増加に向けた活動支援、活動状況等の情報発信と新たな人材の確保
 - ・ 郷土芸能保存団体活動費補助
 - ・ 用具類の補修・更新支援
 - ・ 生涯学習センターホームページへの活動情報掲載
- 3 郷土芸能伝習館の環境維持に向けた計画的かつ効果的な整備の実施
 - ・ 指定管理による適切な施設維持管理の実施



【富良野獅子舞】

実践項目 2 博物館活動の推進

- 1 市民の文化的活動や郷土の歴史等に接する機会の醸成、各種団体等との連携協力、効果的な学習機会の提供
 - ・ 博物館・大学・研究機関等との連携による調査研究の充実
 - ・ 調査研究活動に基づいた観察会や見学会、講演会などの開催
 - ・ 資料収集と収集した資料の活用・公開
 - ・ 資料の貸し出し、古写真・動画などの貸し出しと提供
 - ・ 展示解説や出前講座、講義などの依頼対応
 - ・ レファレンスサービス（調べもの相談）の充実
 - ・ ホームページ、SNSによる情報の発信
- 2 多様な展示や学習資料の作成等をおとした教育普及
 - ・ 地域の自然・歴史・文化等を紹介する特別展や企画展の実施
 - ・ ガイドブックや郷土学習資料の発行
 - ・ ミュージアムボックスの貸し出し
- 3 各種調査研究活動による資料の公開
 - ・ 博物館年報やミュージアムレターなど機関紙の発行
- 4 インバウンドに対応した英語版展示解説システムの整備
 - ・ 英語版展示解説システム導入



【ミュージアムレター・自然観察ガイドブック】

実践項目 3 社会教育施設機能の充実

- ・ 中央公民館
- ・ 生涯学習センター（山部公民館・博物館）
- ・ 東山公民館
- ・ 市立富良野図書館
- ・ 郷土芸能伝習館



【生涯学習センター】

評価指標一覧

※目標値は令和7年度

I 主体的な学びを育てる「知育の木」

	成果指標	現状値	目標値
1	全国学力・学習状況調査において、「国語の授業はよく分かる」と回答した児童生徒の割合	小84.8% 中86.6%	小100% 中100%
2	全国学力・学習状況調査において、「算数・数学の授業はよく分かる」と回答した児童生徒の割合	小75.8% 中76.1%	小100% 中100%
3	全国学力・学習状況調査において、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）全く勉強をしない」と回答した児童生徒の割合	小0.6% 中4.5%	小0% 中0%
4	教育課程や学習・指導方法の改善と評価の一体化を図り、一貫性のある取組を組織的かつ計画的に進めている学校の割合	84.1%	100%
5	国際理解教育を教育計画に位置付けている学校の割合	—	100%
6	SDGsを理解し、授業ができる教員の割合	—	100%
7	全国学力・学習状況調査において、「英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができた」と回答した児童生徒の割合	—	100%
8	学校における教育の情報化の実態等に関する調査において、「授業にICTを活用して指導することができる」と回答した教員の割合	91.8%	100%
9	学校における教育の情報化の実態等に関する調査において、「児童のICT活用を指導することができる」と回答した教員の割合	91.4%	100%
10	公開保育を開催する幼児教育保育施設数	0箇所	2箇所
11	小学校において、幼稚園、保育所と連携してスタートカリキュラムを作成している学校の割合	33%	100%
12	小学校において、体験入学以外に交流学習を行っている学校の割合	33%	100%
13	経過観察を含め、支援を要する児童生徒の個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成している学校の割合	65.2%	100%
14	北海道立特別支援教育センター巡回相談講座の受講修了者数	5人	12人

II 自主自律の心を育てる「情意の木」

	成果指標	現状値	目標値
1	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合	小79.4% 中81.8%	小100% 中100%
2	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「学校の授業時間以外に、1日あたり10分以上読書する」と回答した児童生徒の割合	小65.7% 中51.7%	小100% 中100%
3	読み聞かせボランティアや学校司書、市立図書館等と連携した取組を行っている学校の割合	69.2%	100%
4	キャリア教育の目標及び全体計画の模式、マイノートの書式統一に取り組んでいる学校の割合	76.9%	100%
5	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合	小83.6% 中75.0%	小100% 中100%
6	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「児童生徒の間での話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒の割合	小70.3% 中73.9%	小100% 中100%
7	地域資源や地域人材を活用し、表現力や感性を育成する取組を教育課程に位置付けている学校の割合	小100% 中100%	小100% 中100%
8	不登校児童生徒への対応について、関係機関との連携した支援体制の整備・充実に取り組んでいる学校の割合	—	100%
9	不登校児童生徒への多様な教育機会確保のため、ICT機器の活用や家庭学習の評価、適応指導教室などの学習活動を評価材料に生かしている学校の割合	—	100%
10	いじめのアンケート調査において「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合	小97.7% 中92.8%	小100% 中100%
11	いじめのアンケート調査において「いやな思いをした時、誰にも相談しない」と回答した児童生徒の割合	小6.8% 中11.7%	小0% 中0%

III 恵まれた環境と食で育てる「健康の木」

	成果指標	現状値	目標値
1	富良野市の自然環境や施設を生かした活動、清掃活動や自然愛護活動など、学校や地域の特色を生かした教育課程を編成している学校の割合	69.2%	100%
2	各種通信、給食だよりや献立表を活用し、家庭に対して望ましい食習慣の啓発を行っている学校の割合	92.3%	100%
3	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「朝食を毎日食っている」と回答した児童生徒の割合	小94.5% 中93.7%	小100% 中100%
4	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童生徒の割合	小90.3% 中88.7%	小100% 中100%
5	家庭や地域、関係機関との共通理解を深め、児童生徒の発達段階に応じた組織的・計画的な性教育や薬物乱用防止教室、飲酒・喫煙防止教室等の充実を図っている学校の割合	92.3%	100%
6	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査において、「運動が好き」と回答した児童生徒の割合	小69.2% 中62.7%	小100% 中100%
7	地域指導者やスポーツ団体等を積極的に活用し、組織的・体系的な指導体制の充実に努めている学校の割合	76.9%	100%

IV 原点を見つめ未来への輪を広げる「学びの大地」

	成果指標	現状値	目標値
1	近隣の中学校（小学校）と合同で授業研究などの研修を行っている学校の割合	—	100%
2	地域の学校として小中一貫した9年間を見通し、特色ある教育活動を推進している学校の割合	61.6%	100%
3	市内の中学校卒業生の富良野市内の高等学校への進学率	69%	75%
4	学校、保護者、地域住民による三位一体の体制を構築し、質の高い教育の実現や諸課題の解決に努めている学校の割合	92.3%	100%
5	1カ月の時間外勤務45時間以内、1年間360時間以内の教職員の割合	—	100%
6	校区内の危機管理マニュアルを共有している学校の割合	92.3%	100%
7	地域の実態に応じた防災訓練を実施している学校の割合	92.3%	100%

V 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

	成果指標	現状値	目標値
1	家庭教育セミナー(中学校区)の開催	3回	3回
2	家庭教育講演会の開催	1回	1回
3	児童館の休日開催	0館	1館
4	子ども未来づくりフォーラム参加校	8校	全校
5	少年の主張大会参加校	6校	全校
6	ふらのまちづくり未来ラボ参加者数	3.0%	3.0%
7	児童館、学童保育センターの利用者数	45,226人	39,000人
8	学童保育センター開所時間の延長	0館	5館

VI 人々の暮らしの向上と人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

	成果指標	現状値	目標値
1	富良野市民講座の参加者数	4.1%	4.1%
2	ことぶき大学学習日数	30日	30日
3	市民一人当たり図書貸出冊数	5.8冊	7.0冊

VII 文化伝統の保護継承と社会教育施設整備の推進

	成果指標	現状値	目標値
1	指定・登録文化財の件数	4件	6件
2	無形民俗文化財保存団体会員数	78人	78人
3	文化的活動や郷土の歴史等に接する機会への参加者数	340人	380人
4	専門職員（社会教育主事・学芸員・司書）の配置	5人	5人

令和3年度

富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価
学校第三者評価

発行：令和4年8月

富良野市教育委員会
